令和６年

とよたの消防

豊田市消防本部

Toyota City Fire Department

豊田市民の誓い

（前文）
　わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。
（本文）
一．緑をはぐくみ、川を大切にして、豊かな自然を愛しましょう。
一．スポーツに親しみ、教養を高めて、文化の向上につとめましょう。
一．元気で働き、若い力をそだてて、幸せな家庭をつくりましょう。
一．互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町をつくりましょう。
一．いのちを尊び、きまりを守って、住みよい社会をつくりましょう。

「豊田市民の誓い　－シンボルマーク－」

　昭和５３年３月、ふれあい豊かな地域社会づくりの目標として、市民共通の願いを５項目に託した「豊田市民の誓い」が誕生しました。

　以後２０余年を経過し、平成１８年３月４日に開催された豊田市制５５周年記念式典で、「豊田市民の誓い」の新シンボルマークが発表されました。

　新シンボルマークは、市町村合併を機に、新しい市域の子どもを始め全市民に「市民の誓い」の理念を周知啓発し、前文と本文の５項目を市民生活と結び、実践活動の推進を図ることを目的としています。

　「豊田市の花“ひまわり”の種をモチーフに、本文の５項目を明るいラインで表し、実践活動を通して、わたくしたち市民の手で、豊田市を未来に向かって育て伸ばそう」という意味を表しています。

◆◇◆＜表紙写真＞　第５２回消防救助技術東海地区指導会◆◇◆

　日夜研鑽・練磨した救助技術を披露し、併せて救助技術の相互研鑽・向上と、体力・気力の涵養を目途に、救助技術活動を通じて住民の負託に応えることを目的に、豊田市からは２３人(８種目)が消防救助技術東海地区指導会へ出場しました。その結果、ロープブリッジ救出及び基本泳法で５人（２種目）が全国消防救助技術大会への切符を手にしました。

はじめに

この年報は、令和６年４月１日現在における当市の状況と令和５年の当市における消防の現況及び火災等の発生状況等を統計的に収録し、今後の消防行政の効率的な運営に役立てるとともに、当市における消防の実態についてご理解を深めていただくことを目的として編集したものです。

なお、本書中の火災・救急・救助統計は、暦年をもって表し、予算関係及びその他の事項については、会計年度で表しています。

令和６年６月

豊田市消防本部

一　目　統　計

R6.4.1現在の数値（●印：R5年度の数値　★印：R5年の数値）

面積	人口 人口密度	世帯数	署所数
918.32㎢	415,853人 453人/㎢	187,545世帯	4消防署　5分署　7出張所
	ミライのフツーをつくろう SDGs 未来都市とよた	WE LOVE とよた	
消防予算	**消防職員数**	**救急隊/救急救命士数**	**消防団員数**
86億4,664万円 〔市民１人あたり20,793円〕	539人 〔市民772人に1人〕	18隊　/　149人	1,859人 〔市民224人に1人〕
	TOYOTA CITY FIRE DEPARTMENT AICHI	EMERGENCY MEDICAL TECHNICIAN TOYOTA CITY FIRE DEPT. 救急救命士	
女性消防クラブ会員数	**少年消防クラブ会員数**	**幼年消防クラブ会員数**	**高校生消防クラブ会員数**
115人	19,271人	10,594人	169人
TOYOTA CITY Fire Prevention Club for Ladies	BFC	ひあそびはしません ようねんしょうぼう	消 TOYOTA HIGH SCHOOL CLUB 防
自主防災会の組織数	**防火対象物●**	**危険物施設数●**	**防火危険物安全協会会員数**
321組織 〔組織率100%〕	15,735棟	1,208施設	325会員
自助　共助	SAFETY	危	
防災学習センター利用者数●	**本部・署車両数 ／ 団車両数**	**消火栓　／　防火水槽**	**１１９番受信件数★**
20,580人 〔計　644,062人〕	124台　／　129台	5,741基　／　1,975基	30,189件 〔17分に1件〕
		FIRE HYDRANT 消火栓　FIRE CISTERN 防火水そう	
火災件数★	**救急件数★**	**救助件数★**	**出火原因★**
139件 〔2.6日に1件〕	21,722件 〔24分に1件〕	311件 〔1.2日に1件〕	1位　たき火 〔25件〕
		TOYOTA CITY SRT SUPER RESCUE TOYOTA	

令和５年度（主な取組）

5月27日　消防ふれあいコンサート

豊田市消防音楽隊が鞍ヶ池公園でコンサートを行い、火災予防啓発を行いました。

5月28日　第２回豊田市消防団警防技術大会

訓練成果を発表する第２回豊田市消防団警防技術大会を豊田スタジアムで開催しました。

6～7月　着衣泳講習会

市内小中学校を対象に、水の事故を防止する着衣泳講習会を行いました。

7月22日　保見出張所×第4方面隊防災研修

大規模災害を想定し、保見出張所と第4方面隊第1分団が防災研修を実施しました。

7月27日　消防救助技術東海地区指導会

高度な救助技術を競う消防救助技術東海地区指導会に出場しました。

8月17日　全国大会出場に伴う市長報告

全国消防救助技術大会に参加する職員が市長に報告を行いました。

10月4日　豊田市多数傷病者救急対応訓練

豊田スタジアムにて医療機関と合同で多数傷病者救急対応訓練を実施しました。

11月11日　街頭防火宣伝

火災の増加する季節を前に、イオンスタイル豊田で火災予防の啓発活動を実施しました。

11月22日　豊田市消防職員意見発表会

様々な着眼点から消防が抱える問題に対する改善方法などを発表しました。

11月26日　わくわくワールド

多くの親子がスカイホール豊田に集まり、防火・防災体験を体験しました。

11月28日　㈱ドン・キホーテと協定を締結

㈱ドン・キホーテと大規模災害発生時の物資供給等の協力に関する協定を締結しました。

1月7日　豊田市消防出初・観閲式

新年に際し、消防職員、消防団員及び関係団体の強固な団結と士気を市民に披露しました。

1月7日　とよた消防フェスタ

消防出初・観閲式と同日開催され、様々な催しで会場を盛り上げました。

2月17日　豊田市消防職就職ガイダンス

高度救助隊の訓練見学や豊田市消防本部の紹介を通じて、豊田市消防職の魅力を発信しました。

3月7日　女性消防職員意見交換会

尾三消防組合の女性職員と働き方等に関する意見交換会を実施しました。

3月16日　南消防フェスタ

防火・防災知識の向上を図ることを目的に、南消防フェスタを開催しました。

目　　次

〔豊田消防の現況〕

Ⅰ．豊田消防のあらまし

豊田市の概要 …… 1
消防のあゆみ …… 2
消防本部・消防署の組織図 …… 5
消防本部の分掌事務 …… 6
消防署の分掌事務 …… 8
消防職員配属状況 …… 9
消防の当初予算 …… １０

Ⅱ．消　防　施　設

消防本部施設の概要 …… １１
● 消防本部・署所の配置図 …… １２
消防車両の配置 …… １３
消防水利 …… １４
耐震性貯水槽の設置 …… １４
通信施設 …… １５

Ⅲ．火　　災

火災発生状況 …… １７
出火件数及び損害額等 …… １８
署所別出火件数 …… １９
火災種別出火件数 …… １９
四季別出火件数 …… ２０
月別出火件数 …… ２０
時間別出火件数 …… ２１
出火原因別出火件数等 …… ２２
発火源別出火状況 …… ２３
その他の出動件数 …… ２４

Ⅳ．救　急・救　助

救急体制 …… ２５
救急出動件数・搬送人員 …… ２５
救急事故種別件数 …… ２６
救急隊員応急処置実施項目 …… ２６
署所別救急出動件数 …… ２７

月別救急出動件数…… ２７
時間帯別救急出動件数 …… ２８
年齢区分別疾病分類別搬送人員…… ２８
年齢区分別傷病程度別搬送人員…… ２９
応急手当普及指導講習実施回数…… ２９
救助体制 …… ３０
緊急消防援助隊…… ３０
救助出動状況…… ３０

Ⅴ．火　災　予　防　対　策

火災予防 …… ３１
住宅防火対策…… ３１
広報活動 …… ３１
防火管理者 …… ３３
自衛消防訓練 …… ３４
防災管理者 …… ３４
防災学習センター…… ３６
防火対象物数 …… ３８
消防用設備等の点検報告制度…… ３８
防火対象物定期点検報告制度…… ３９
防災管理点検報告制度 …… ３９
消防同意・消防用設備等の検査件数 …… ４０
危険物施設設置数…… ４１
圧縮アセチレンガス等の設置状況…… ４２
指定可燃物等及び少量危険物の設置状況 …… ４２
製造所等に対する立入検査の状況…… ４２

Ⅵ．災　　害　　対　　策

防災 …… ４３
自主防災組織数…… ４３
水防倉庫 …… ４３
● 水防倉庫の配置図…… ４４
応援協定 …… ４５
消防用ドローンの活用状況 …… ４６
ヘリポートの設置…… ４６
● ヘリポート配置図…… ４７

Ⅶ. 消　　防　　団

豊田市消防団組織図…… ４９
消防団格納庫 …… ５０
消防団車両・小型動力ポンプ等…… ５４
● 消防団機械器具の配置図…… ５６
消防団協力事業所表示制度 …… ５６
豊田市消防団応援の店 …… ５６
豊田市学生消防団活動認証制度…… ５６

Ⅷ. 消防音楽隊・関係団体

消防音楽隊 …… ５７
関係団体 …… ５８
防火危険物安全協会 …… ５８
女性消防クラブ…… ５８
少年消防クラブ…… ５９
幼年消防クラブ…… ５９
高校生消防クラブ …… ６０

〔 統 計 資 料 〕

計　　画

第３次豊田市消防整備基本計画　指標…… ６１

財　　務

一般会計予算と消防予算の推移…… ６２
歳入当初予算額（消防本部）の推移…… ６２
歳出当初予算額（消防本部）の推移…… ６２
人口・世帯当たりの消防予算の推移…… ６２

人　　事

消防職員の年齢…… ６３
消防職員の勤務年数…… ６４
消防職員の採用状況…… ６５
消防職員の資格等取得保有状況…… ６５
研修実施状況 …… ６６
研修実施状況（消防大学校・救急救命士養成所・愛知県消防学校） …… ６８

指　　令

１１９番回線別受信状況…… ６９
市民案内利用状況…… ６９

口頭指導状況…… ６９
１１９番誤報件数…… ６９

火　　災
月別火災状況…… ７０
曜日別火災状況…… ７２
時間別火災状況…… ７２
火災種別出火原因…… ７４
出火状況及び損害額の推移 …… ７６
主な火災の概要…… ７７
高速道路火災出動状況の推移…… ７８
その他の出動状況（警戒・探索・その他）…… ７８

救　　急
月別救急出動状況…… ７９
曜日別救急出動状況…… ７９
時間帯別救急出動状況 …… ７９
署所別・種別救急出動状況 …… ８０
救急出動状況の推移…… ８０
発生場所別救急搬送人員 …… ８１
年齢別・性別搬送人員 …… ８１
傷病程度別搬送人員 …… ８２
医療機関告示開設別搬送人員…… ８３
年齢別搬送人員の推移 …… ８４
高速道路救急出動状況の推移…… ８４

救　　助
救助出動状況…… ８５
月別救助出動状況…… ８６
救助出動状況の推移…… ８６
火災・救急・救助件数暦年表…… ８７

予　　防
防火対象物査察実施状況…… ８８
消防用設備等点検状況 …… ８９
中高層建築物の現況…… ９０
消防同意件数 …… ９１
危険物規制対象物…… ９２

消　防　団

消防団員職務報酬 …… ９３
消防団員出動報酬 …… ９３
消防団員費用弁償 …… ９３
消防団員退職報償金 …… ９３
豊田市消防団編成表 …… ９４

そ　の　他

出動基準 …… ９６
消防水利状況 …… ９８
月別気象状況 …… ９９

＜参　　考＞

豊田消防歌 …… １００
「賛歌」豊田消防 …… １０１

〔豊田消防の現況〕

Ⅰ．豊田消防のあらまし

豊田市消防本部旗

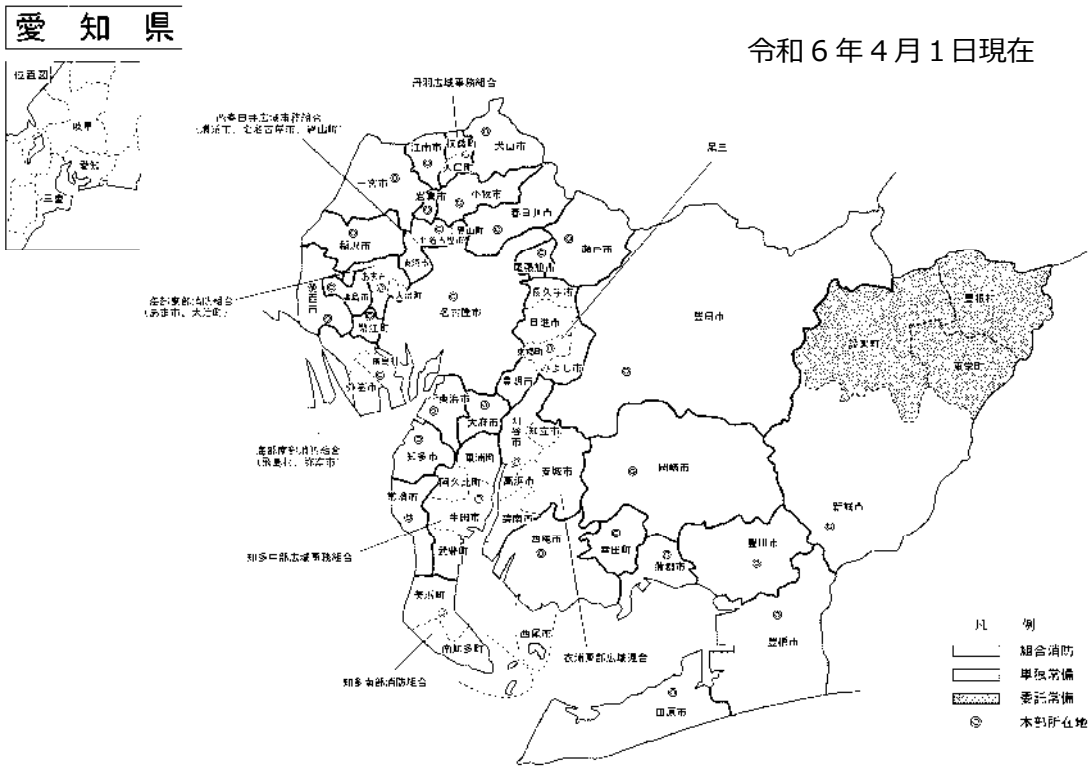
◆　豊田市の概要

豊田市は、「クルマのまち」として世界にその名を知られる産業都市でありながら、四季を通じて変わりゆく美しい自然に囲まれた広大な都市で、梨や桃が県内でも有数の収穫量を誇るなど自然の恵み豊かな地域です。昭和２６年３月に挙母市として市制施行以来、自動車産業の発展とともに急速に成長し、平成１７年４月の「平成の大合併」では、経済圏や日常生活圏が一体となっている矢作川流域７市町村が一つとなり、新豊田市が誕生しました。

現在人口約４２万人、面積は９１８．３２ｋ㎡で愛知県のほぼ中央に位置し、長野県に源を発する矢作川が南北に流れ、市域は、東・北部の三河高原を形成する山間部と、西・南部の西三河平野につながる丘陵・平野部からなり、標高３．２ｍから１，２４０ｍに至る変化に富んだ地形条件を有しています。

豊田市は「第８次豊田市総合計画」の将来都市像に、「つながる　つくる　暮らし楽しむまち・とよた」を掲げ、人と人、地域と自然のつながりを深め、認めあい、活かし合う中で、多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざしております。また「ＷＥ　ＬＯＶＥ　とよた」条例を制定し、誰もが幸せを感じる「わくわくする世界一楽しいふるさと」をめざしています。

- □　位　　置　　東経 137 度 9 分 24 秒、北緯 35 度 5 分 00 秒
- □　面　　積　　918.32 ｋ㎡（東西 49.36 ｋｍ、南北 33.37 ｋｍ）
- □　世 帯 数　　187,545 世帯
- □　人　　口　　415,853 人 (総人口)
- □　人口密度　　453 人／ｋ㎡　　（出典「豊田市統計書」等）



◆　消防のあゆみ

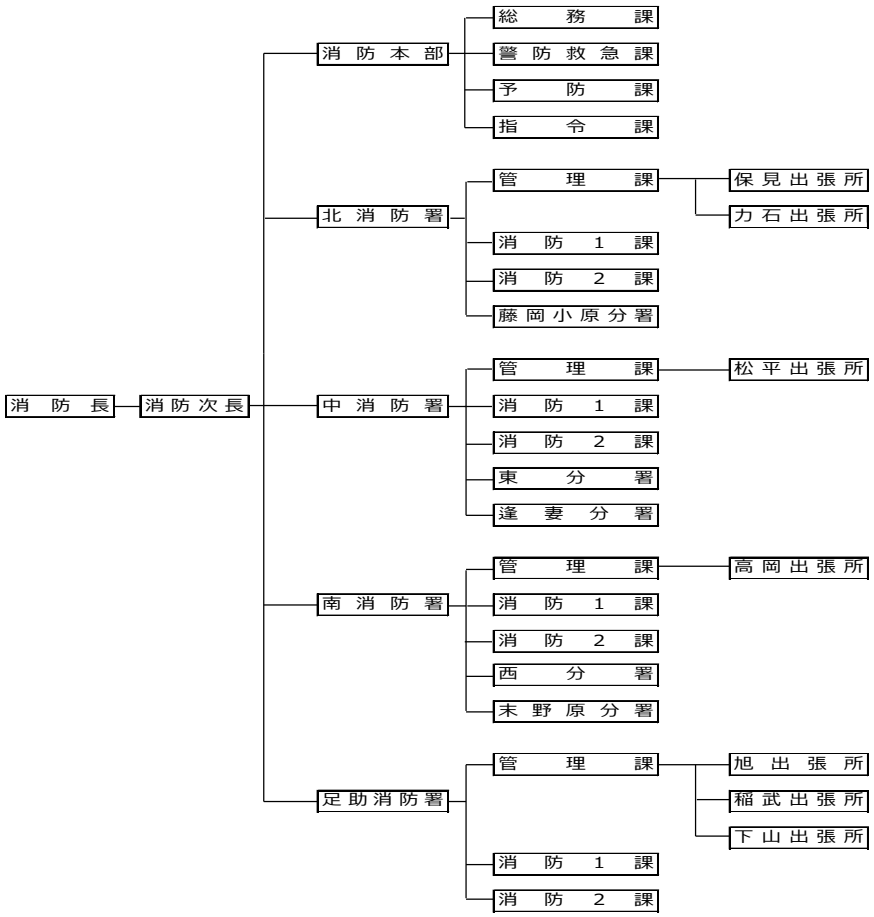
徳川中期寛延年	各村の庄屋に大うちわ、水桶、とび口、刺子等の消火器具が備え付けられた。
明治初期	下挙母に有志が集まって「桜組」と称する消防組が編成されたのをはじめ、各集落に逐次消防組を編成
明治中期	県の奨励によって公設消防発足の気運が起こり、統制ある団体に改善されるとともに、鉄製腕用ポンプ等を装備
1947（昭和 22）	消防団令の公布により、警防団７分団を消防団１７分団６５０人に改組
1956（昭和 31）	挙母市消防本部（庶務係、消防係、予防係、整備係）・署が発足し、職員２４人、消防車２台で業務を開始
	西加茂郡高橋村と合併し、消防団が２６分団１，０５１人となる。
1957（昭和 32）	消防団再編成を行い、２６分団７９６人となる。
1959（昭和 34）	市名変更に伴い、豊田市消防本部・署となる。
	消防団を再編成統合し、９分団７８０人となる。
	第１期小型化整備５か年計画を樹立、全額市費配備に踏み切る。
1963（昭和 38）	第１期小型化整備５か年計画完了、小型動力ポンプ２０台を消防団に配備
	救護隊を設置、救急車１台を購入し救急業務を開始する。
1964（昭和 39）	碧海郡上郷町と合併し、消防団再編成を行い１２分団６９６人となる。
	第２期機械力の小型化整備５か年計画を樹立
1965（昭和 40）	高岡町と合併し、消防団が１７分団８７２人となる。
1966（昭和 41）	南部出張所を開設、所長以下１３人を配置、消防・救急業務を開始
1967（昭和 42）	西加茂猿投町と合併し、２４分団１，１６８人となる。
1969（昭和 44）	第２期小型化整備５か年計画完了、小型動力ポンプ１７台を消防団に配備
	消防長専任となる。
	消防団を再編成統合し、１５分団９５０人となる。
	美山出張所を開設、所長以下１３人を配置、消防・救急業務を開始
1970（昭和 45）	東加茂松平町と合併し、１７分団１，１６６人となる。
	消防本部に課制（庶務課、消防課、予防課）をしき、３課１署２出張所とし、本署に警備第１係、警備第２係を新設
	消防本部・署の新庁舎を挙母町に移転新築し、業務を開始
1971（昭和 46）	消防本部消防課に教養係を新設
1972（昭和 47）	四郷出張所を開設、所長以下１３人を配置、消防・救急業務を開始
1974（昭和 49）	女性消防士２人を初採用
	大林出張所を開設、所長以下１５人を配置、消防・救急業務を開始
	予防課予防を危険物係と予防係に分離
1976（昭和 51）	本署に通信第１係、通信第２係を新設
	消防音楽隊発足
1977（昭和 52）	松平出張所を開設、所長以下１５人を配置、消防・救急業務を開始
	予防課に建築物係、本署に指導調査係を新設
1978（昭和 53）	消防本部の組織を変更し、次長を置く。
1979（昭和 54）	高岡出張所を開設、所長以下１５人を配置、消防・救急業務を開始
	消防署の組織を変え、署所を中部・南部・西部・北部地区に区分し、本署に特別消防第１係、特別消防第２係を新設
1980（昭和 55）	高橋分署を開設、分署長以下１９人を配置、消防・救急業務を開始
	「救護隊」を「救急隊」に改名
1982（昭和 57）	消防団の再編成を行い、１７分団５５部１，０３６人となる。
	保見出張所を開設、所長以下１４人を配置、消防・救急業務を開始
	通信指令室を新設

1983（昭和 58）	予防課に査察指導係を新設し、高橋分署に警防第１係、警防第２係を新設
1984（昭和 59）	大林出張所に警防第１係、警防第２係を新設
1985（昭和 60）	南部出張所と四郷出張所にそれぞれ警防第１係、警防第２係を新設 地図検索装置を導入
1986（昭和 61）	美山出張所と松平出張所にそれぞれ警防第１係、警防第２係を新設
1987（昭和 62）	南部出張所を移転新築し、南分署として開設、分署長以下２６人を配置 消防波無線前進基地を南分署に設置
1988（昭和 63）	保見出張所と高岡出張所に警防第１係、警防第２係を新設
1990（平成 2）	救急波無線前進基地を高岡出張所に設置
1992（平成 4）	力石出張所を開設、所長以下１３人を配置、消防・救急業務を開始し、消防波・救急波前進基地を設置
1993（平成 5）	動態的組織の導入に伴い担当制を設け、係制度を廃止
1994（平成 6）	消防本部（署）新庁舎を長興寺に移転新築し、同時に消防緊急情報システムを導入、防災学習センターを開設
1996（平成 8）	消防団の再編成を行い、１８分団６１部１，０３６人となる。 藤岡小原分署を開設、分署長以下１７人を配置、藤岡町・小原村の消防事務の受託業務を開始 四郷出張所を四郷分署に昇格し、分署長以下２３人を配置
1997（平成 9）	美山出張所を移転新築し、西分署として開設、分署長以下２３人を配置 高橋分署を東分署、四郷分署を北分署に改名し、分署名を東西南北の方位名称とする。 消防本部敷地内にヘリコプター場外離着陸場を整備
1998（平成 10）	消防本部庶務課に企画教養担当と経理担当、本署に救助警防担当及び救急担当を新設
1999（平成 11）	消防本部消防課に消防担当と施設担当、南分署に救助警防担当及び救急担当を新設
2000（平成 12）	消防署を１署から３署体制にし、消防署を中消防署、北分署を北消防署、南分署を南消防署に昇格、各署に管理担当及び消防担当、消防本部に指令課を新設 消防本部庶務課の企画教養担当を企画研修担当に改名
2001（平成 13）	消防署に課制を導入し、１本部、３消防署、１４課体制となる。
2002（平成 14）	逢妻出張所を開設し、所長以下１２人を配置、１本部３消防署３分署６出張所となる。 庶務課の経理施設担当を消防団・施設担当に改名 消防課を警防救急課に改名し、警防救急担当と指揮調査担当を新設
2003（平成 15）	北消防署を移転新築し、署長以下４７人を配置 警防救急課に装備担当を新設 救急救命士を全施設に配置（２３人） 消防団に女性が入団（8 月 1 日１２人任命）、カラーガード隊「ひまわりフェアリーズ」を結成
2004（平成 16）	公募により豊田市消防音楽隊市民演奏者９人を初採用
2005（平成 17）	松平出張所を移転新築し、所長以下１２人を配置 西加茂郡藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町及び稲武町と合併し、消防団員数２，１７４人となり、合併地域の支所に支所消防隊を設置 また、あすけ地域消防組合消防本部を編入し、職員４２７人となる。 稲武出張所を稲武支所へ移転
2006（平成 18）	大林出張所を移転新築し、末野原分署として開設、分署長以下２０人を配置 防災学習センターをリニューアル
2007（平成 19）	支所消防隊廃止に伴い、足助消防署各出張所に日勤司令１人を増員

2008（平成 20）	北・中消防署消防１・２課に指揮調査担当を新設 予防課を危険物、予防査察、建築物担当の３担当に編成 足助消防署各出張所に日勤司令補１人を増員 指令課に再任用職員２人を配置
2009（平成 21）	南消防署消防１・２課に指揮調査担当を新設 中消防署消防１・２課に救助担当を新設し、高度救助隊（ＳＲＴ：スーパーレスキュー豊田）を編成 庶務課の消防団・施設担当を消防施設・消防団担当に改名 足助消防署各出張所に１人を増員し、所長以下１５人を配置
2010（平成 22）	庶務課の消防施設・消防団担当を施設経理担当、消防団担当の２担当に編成 警防救急課の警防救急担当を救急救助担当、装備担当を水利車両担当に改名 足助消防署消防１・２課に指揮調査担当を新設 消防団に機能別団員制度を導入（４０人任命）
2011（平成 23）	旭出張所に管理職職員２人を再任用 防災防犯課から矢作川豊田防災ステーションを管理移管
2012（平成 24）	逢妻出張所を分署とし、分署長以下２２人を配置 警防救急・指令担当専門監を配置 下山出張所に管理職職員２名を再任用 矢作川豊田防災ステーションに所長以下７名の特別任用職員を配置
2013（平成 25）	高岡出張所を移転新築 稲武出張所を移転新築（敷地内にヘリコプター場外離着陸場を整備） 庶務課を総務課に改名 藤岡小原分署の予防管理担当を廃止 東分署、逢妻分署、西分署、末野原分署を課扱いに改編 消防吏員採用の消防長が就任 総務担当管理監を配置
2014（平成 26）	所属に副課長又は副分署長を配置 各業務を管理する長として担当長を配置 警防救急課、指令課、（足）管理課、（中）管理課及び逢妻分署に再任用職員を各１人配置 足助消防署、北消防署及び東分署に各２人増員
2015（平成 27）	総務課、予防課及び（南）管理課に各１人、警防救急課、中消防署及び南消防署に各２人増員 指令課の特別任用職員１人を正規職員化 予防課に再任用職員を新たに１人配置
2016（平成 28）	消防団の機能別団員に学生機能別団員を追加（４０人任命） とよた協力防人隊の発足（６３人任命）
2017（平成 29）	矢作川豊田防災ステーション所長に再任用職員を新たに１人配置 西分署に再任用職員を新たに１人配置 高校生消防クラブ発足 足助消防署を改修し、敷地内に７種類の救助訓練施設を新設
2018（平成 30）	高岡出張所に職員２人増員し、出張所長以下１４人を配置 警防救急課に２人、藤岡小原分署・東分署・末野原分署に各１人、再任用職員を新たに配置
2019（令和元年）	保見出張所に職員２人増員し、出張所長以下１４人を配置 予防課の予防担当を予防推進担当に改名 消防用ドローンの実践運用等のため、（南）管理課を 2 人増員し、再任用職員を配置

2020(令和２年)	中消防署及び南消防署へ各１人、松平出張所へ２人増員し、再任用を配置するとともに、指令課を１人増員 東分署、逢妻分署、西分署及び末野原分署へ各１人増員し、毎日勤務の分署長を配置するとともに、副分署長を両当番に配置 保見出張所及び高岡出張所へ各１人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張所長を配置
2021(令和３年)	（北）管理課へ１人、力石出張所へ２人増員し、指令課及び（北）消防１課へ再任用職員を各１人増員 松平出張所へ１人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張所長を配置
2022(令和４年)	指令課へ２人、（南）管理課へ２人増員 力石出張所へ１人増員し、再任用職員の毎日勤務の出張所長を配置 予防課及び（足）消防２課へ再任用職員を１人増員
2023(令和５年)	指令課を２担当制から３担当制へ移行（令和５年１月～） 警防救急課へ１人、指令課へ２人増員 新規採用職員の配属先を見直し、（足）消防１課、（足）消防２課、（北）消防１課、（北）消防２課、（南）消防１課及び（南）消防２課を各１人減員し、東分署及び西分署へ各２人増員 災害対応力向上のため、（中）消防１課へ再任用職員を１人増員
2024(令和６年)	北消防署及び南消防署の救助警防担当及び救急担当を警防救急担当及び救助担当に改編 超高齢社会の進展による救急需要の増加へ対応するため、（中）管理課に日勤救急隊を新設し、７人増員

◆　消防本部・消防署の組織図



◆　消防本部の分掌事務

●総務課

（１）公印の管理に関すること。
（２）文書の収受に関すること。
（３）消防行政に係る企画立案及び調整に関すること。
（４）消防政策会議等に関すること。
（５）消防本部の所管に係る予算及び決算の総括に関すること。
（６）消防施設の整備、管理等に係る計画に関すること。
（７）消防施設用地の取得及び管理に関すること。
（８）消防施設の整備に関すること。
（９）消防施設の維持管理に関すること。
（10）訓令の公表に関すること。
（11）職員の研修に関すること。
（12）職員の人事及び服務に関すること。
（13）消防職員委員会に関すること。
（14）職員の福利厚生に関すること。
（15）安全衛生委員会の庶務及び職員の公務災害補償に関すること。
（16）消防表彰に関すること。
（17）公用車の安全運転推進に関すること。
（18）公用車の事故処理等に関すること。
（19）消防団本部の運営に関すること。
（20）消防団用機械器具の整備に関すること。
（21）消防団用機械器具の維持管理に関すること。
（22）非常勤消防団員等の公務災害補償に関すること。
（23）水防業務の管理に関すること。
（24）水防資機材の整備に関すること。
（25）消防用燃料に関すること。
（26）前各号に掲げるもののほか、他の課の所管に属さないこと。

●警防救急課

（１）消防応援協定に関すること。
（２）緊急消防援助隊に関すること。
（３）消防用機械器具の整備に関すること。
（４）消防用機械器具等の取扱技術の指導に関すること。
（５）消防水利施設の整備に関すること。
（６）消防水利施設の維持管理に関すること。
（７）消防活動の研究、対策等に関すること。
（８）消防活動の基準等に関すること。
（９）警防、救急及び救助に係る業務の高度化に関すること。
（10）消防統計（次条第２０号の消防統計を除く。）の管理に関すること。
（11）消防資機材の整備計画に関すること。
（12）ヘリポートの整備に関すること。
（13）消防指揮本部の編成及び運営に関すること。
（14）行事等における消防、救急等の警備基準に関すること。

●予防課

（１）火災予防の広報及び啓発活動に関すること。
（２）防火管理者及び防災管理者の育成指導に関すること。
（３）防火協力団体の育成指導に関すること。
（４）自衛消防組織等の育成指導に関すること。
（５）危険物製造所等の許認可、検査及び指導に関すること。
（６）液化石油ガスに関すること。
（７）少量危険物の保安に関すること。
（８）危険物施設の査察に関すること。
（９）危険物取扱者の育成指導に関すること。
（10）毒劇物の届出に関すること。
（11）建築確認申請の同意事務に関すること。
（12）消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
（13）豊田市火災予防条例（昭和４８年条例第５１号）に規定する届出に関すること。
（14）防火対象物の査察に関すること。
（15）防火対象物の点検、報告、特例認定等に関すること。
（16）消防用設備等の点検及び報告に関すること。
（17）防火基準適合表示に関すること。
（18）煙火の消費許可、検査及び指導に関すること。
（19）火災予防事務の統一化に関すること。
（20）消防統計（火災に係るものに限る）の管理に関すること。
（21）防災学習センターの運営管理に関わること。
（22）住宅の防火及び防災に関すること。
（23）火災警報の発令に関すること。
（24）消防音楽隊に関すること。
（25）その他火災予防事務に関すること。

●指令課

（１）１１９番通報の受信及び出動指令に関すること。
（２）災害等の消防活動支援及び情報等の収集に関すること。
（３）消防部隊の運用及び非常招集に関すること。
（４）気象観測その他消防通信に関すること。
（５）高機能消防指令システムの整備に関すること。
（６）消防救急デジタル無線設備の管理及び運用に関すること。

◆　消防署の分掌事務

●管理課

（１）公印の管理及び消防署の庶務に関すること。
（２）消防表彰に関すること。
（３）消防団との連携に関すること。
（４）火災予防の啓発及び広報に関すること。
（５）防火対象物の査察に関すること。
（６）豊田市火災予防条例に規定する届出に関すること。
（７）消防車両の維持管理及び燃料に関すること。
（８）消防施設の維持管理に関すること
（９）応急手当の普及及び啓発に関すること。
（10）救急事務及び救急活動の報告に関すること。

●消防１課、消防２課

（１）火災の原因及び損害の調査に関すること。
（２）火災の防圧警戒及び水防活動に関すること。
（３）救急及び救助業務に関すること。
（４）非常警戒に関すること。
（５）地水利調査に関すること。
（６）研修及び訓練に関すること。
（７）火災、救急、救助活動等の報告に関すること。
（８）消防団との連携に関すること。
（９）火災予防の啓発及び広報に関すること。
（10）防火対象物の査察に関すること。
（11）り災証明書等の発行に関すること。
（12）豊田市火災予防条例に規定する届出に関すること。
（13）防災施設の管理及び防災指導に関すること。
（14）消防資機材の維持管理に関すること。
（15）応急手当の普及及び啓発に関すること。
（16）その他警防に関すること。

●分署、出張所

（１）火災の防圧警戒及び水防活動に関すること。
（２）救急及び救助業務に関すること。
（３）非常警戒に関すること。
（４）地水利調査に関すること。
（５）研修及び訓練に関すること。
（６）火災、救急、救助活動等の報告に関すること。
（７）消防団との連携に関すること。
（８）火災予防の啓発及び広報に関すること。
（９）防火対象物の査察に関すること。
（10）豊田市火災予防条例等に規定する届出に関すること。
（11）防災施設の管理及び防災指導に関すること。
（12）消防資機材の維持管理に関すること。
（13）応急手当の普及及び啓発に関すること。
（14）その他警防に関すること。

◆ 消防職員配属状況

令和６年４月１日現在

職員配属状況

令和6年4月1日

区分	職名	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計	毎日勤務者	隔日勤務者	消防職員総数
	合計	1	8	37	74	116	116	116	71	539	112	427	539
消防本部	小計	1	4	12	13	14	41			85	64	21	
	消防長	1								1	1		
	消防次長		1							1	1		
	管理監		1							1	1		
	警防救急指令担当専門監		1							1	1		
	予防担当専門監		1							1	1		
	総務課			4	2	2	10			18	18		
	警防救急課			2	2	4	7			15	15		
	予防課			2	4	4	11			21	21		
	指令課			4	5	4	13			26	5	21	
足助消防署	小計		1	5	16	26	37			85	9	76	
	消防署長		1							1	1		
	管理課			1	1	2	1			5	5		
	消防１課			2	3	4	8			17		17	
	消防２課			2	3	4	8			17		17	
	旭出張所				3	5	7			15	1	14	
	稲武出張所				3	6	6			15	1	14	
	下山出張所				3	5	7			15	1	14	
北消防署	小計		1	6	13	24	70			114	10	104	
	消防署長		1							1	1		
	管理課			1	2	1	3			7	7		
	消防１課			2	3	6	15			26		26	
	消防２課			2	3	6	15			26		26	
	藤岡小原分署			1	2	4	18			25	1	24	
	保見出張所				2	2	10			14		14	
	力石出張所				1	5	9			15	1	14	
中消防署	小計		1	7	18	28	76			130	17	113	
	消防署長		1							1	1		
	管理課			1	4	3	6			14	14		
	消防１課			2	4	7	14			27		27	
	消防２課			2	4	7	14			27		27	
	東分署			1	2	4	17			24	1	23	
	篠妻分署			1	2	4	16			23	1	22	
	松平出張所				2	3	9			14		14	
南消防署	小計		1	7	14	24	77			123	10	113	
	消防署長		1							1	1		
	管理課			1	2	2	2			7	7		
	消防１課			2	3	6	15			26		26	
	消防２課			2	3	5	16			26		26	
	西分署			1	2	4	17			24	1	23	
	末野原分署			1	2	4	18			25	1	24	
	高岡出張所				2	3	9			14		14	
派遣	小計						2			2	2		
	総務省派遣						1			1	1		
	愛知県派遣						1			1	1		

出向者は消防職員数に含まない

出向	市長部局						2			2	2		

◆　消防の当初予算

令和６年度は、第８次総合計画を継続的に推進するほか、市民の皆様の暮らし応援や安全安心を確保する事業等、喫緊の課題に確実に対応することを基本的な考えとし、骨格予算として当初予算を編成しており、６月補正で肉付け予算とします。

一般会計当初予算の総額は　１，９５４億円、対前年度７１億円の増です。

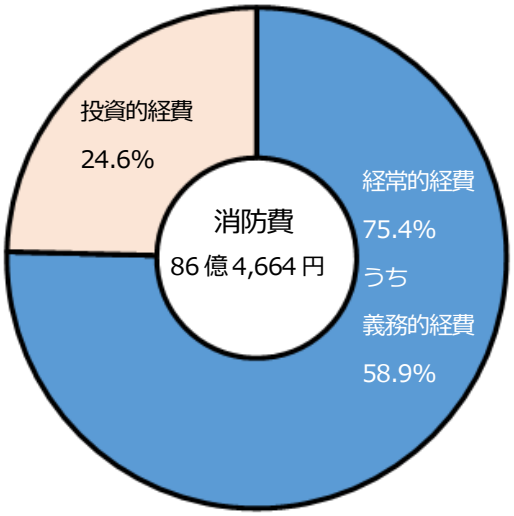
歳入では、市税が１，２５５億円、対前年度２０９億円の増、基金繰入金は５億円、対前年度７２億円の減、市債は１０億円、対前年度６０億円の減としました。また、歳出では、普通建設事業費を３６６億円、対前年度５億円の増を計上し、将来のまちづくりに向け必要な施策に取り組んでまいります。

消防費については、一般会計全体の４．４%を占める８６億４，６６４万円で、前年度と比較して１４億９，５２８万円の増となっています。

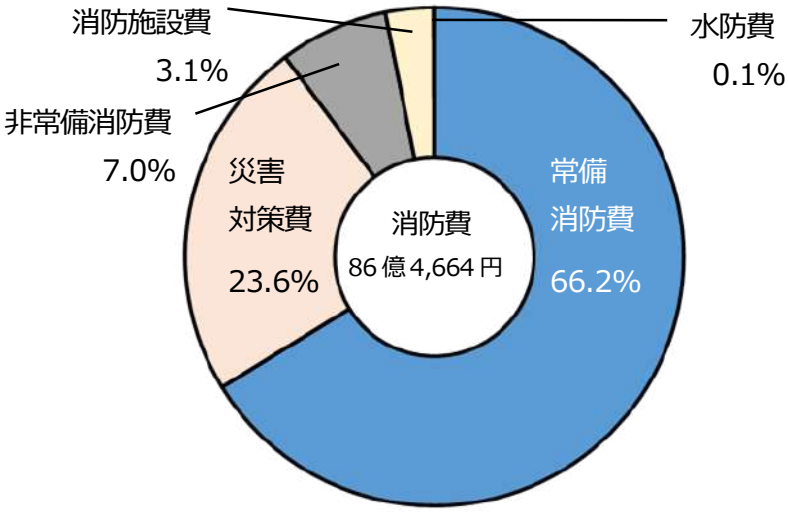
その内容を性質別に分類すれば、人件費、物件費、補助費などの経常的経費は、６５億１，９５０万円（７５．４%)、そのうち義務的経費である人件費は５０億９，０２５万円（５８．９%)、消防車両の整備・防火水槽築造等の投資的経費は２１億２，７１４万円(２４．６%)です。

これらの予算は、市民が安心して暮らすことのできる安全なまちづくりのために消防施設の整備、消防体制の充実、消防車両・資機材の整備など消防防災体制の整備を推進するものです。

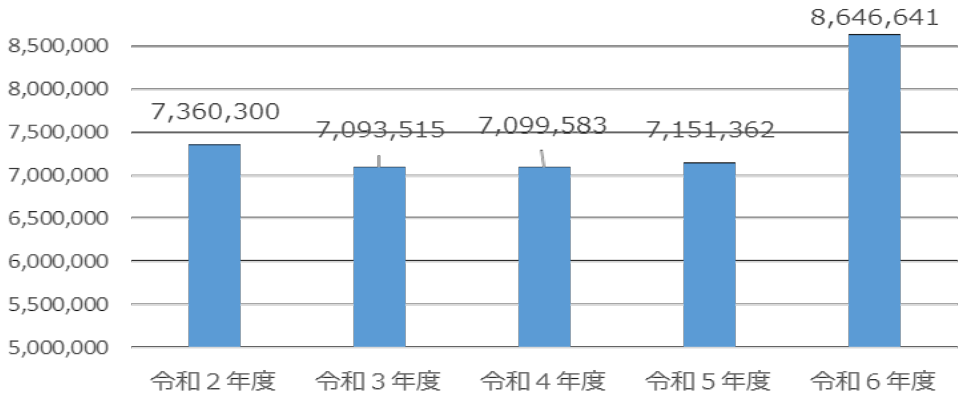
消防費当初予算額性質別割合



消防費当初予算額目別割合



５年間の当初予算額の推移



Ⅱ. 消防施設

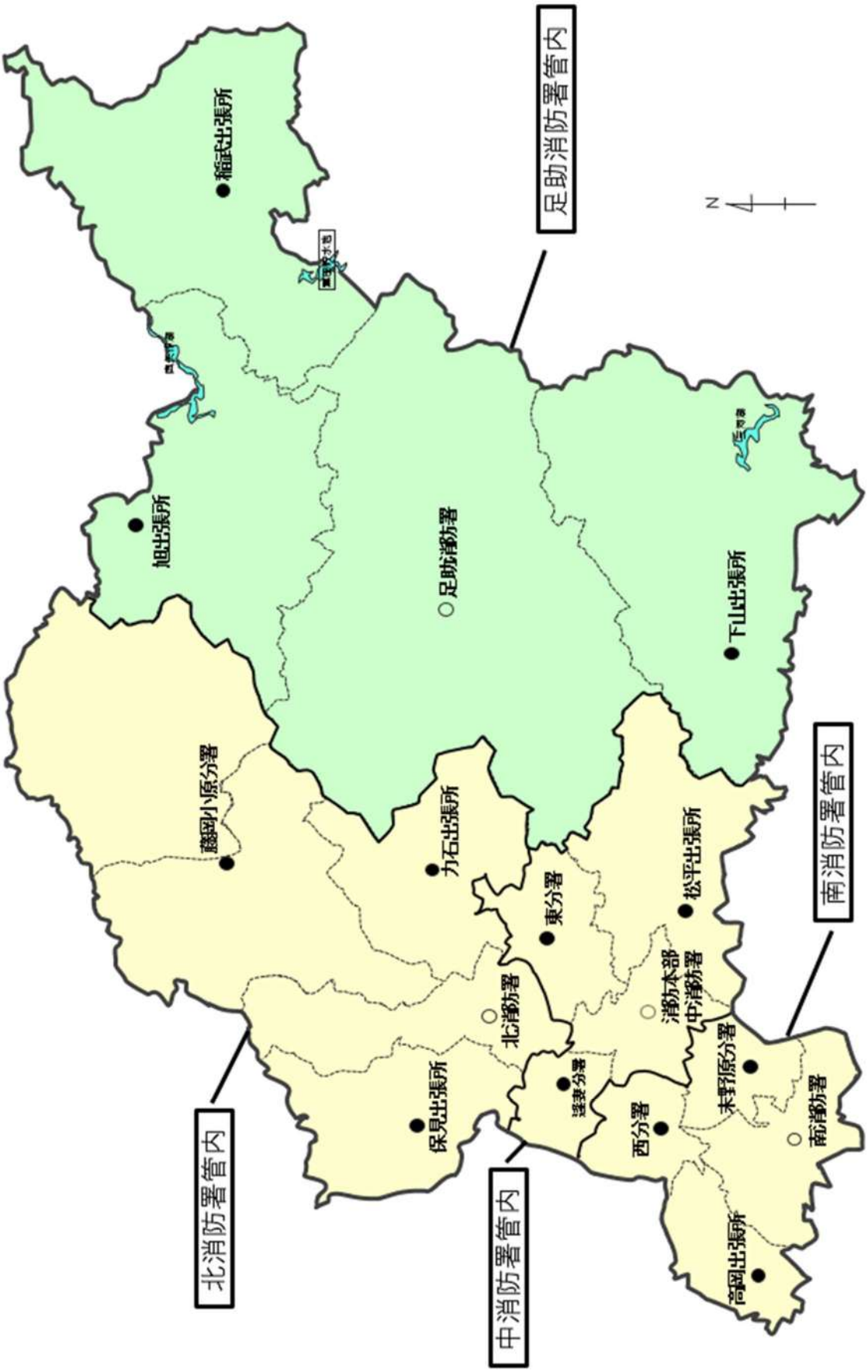
豊田市消防本部庁舎

◆ 消防本部施設の概要

令和６年４月１日現在

名 称	所 在 地	開設年月	構造 階数	床（１階）面積 ㎡	延面積 ㎡	敷地面積 ㎡
北消防署	〒470-0373 四郷町森前南６番地１ ℡ 43-0093	平成 15年４月	S造３階 他３棟	1,019.95 238.60	1,716.01 322.60	5,948.09
藤岡小原分署	〒470-0411 木瀬町桧本1525番地１ ℡ 76-5560	平成 ８年４月	RC造２階 一部S造	499.75	763.75	2,977.95
保見出張所	〒470-0352 篠原町黒坪11番地２ ℡ 43-1630	昭和 57年４月	RC造２階	226.42	354.09	1,181.30
力石出張所	〒470-0318 力石町井ノ上81番地２ ℡ 42-1751	平成 ４年４月	RC造２階 一部S造	317.44	504.94	1,678.80
消防本部 中消防署	〒471-0879 長興寺５丁目17番地１ ℡ 35-9722	平成 ６年10月	SRC造６階 他５棟	2,149.99 1,521.80	6,641.82 2,363.45	19,481.94
東分署	〒471-0003 岩滝町高入36番地１ ℡ 87-0360	昭和 55年４月	RC造２階 一部５階	423.64	745.08	2,432.97
逢妻分署	〒471-0053 丸根町６丁目18番地２ ℡ 36-2450	平成 14年４月	S造２階	531.52	621.48	2,098.00
松平出張所	〒444-2216 九久平町百々８番地７ ℡ 86-1190	平成 17年４月	S造２階	363.76	511.46	2,992.47
南消防署	〒470-1216 和会町長田３番地１ ℡ 25-9008	昭和 62年４月	RC造２階 一部５階 他２棟	895.34 348.30	1,895.53	5,270.29
西分署	〒471-0844 聖心町４丁目44番地５ ℡ 25-2570	平成 ９年４月	RC造２階 他１棟	379.02 45.82	554.90 45.82	2,441.54
末野原分署	〒470-1207 鴛鴨町新林127番地 ℡ 25-3070	平成 18年４月	S造２階	569.47	692.84	2,453.63
高岡出張所	〒473-0921 高丘新町上平地135番地１ ℡ 51-6111	平成 25年３月	S造２階	428.04	527.04	3,917.00
足助消防署	〒444-2407 桑田和町中貝戸６番地 ℡ 62-0119	昭和 57年４月	RC造２階 一部５階 一部S造 他２棟	1,068.12 152.21	1,521.83 152.21	13,020.70
旭出張所	〒444-2832 浅谷町下万場303番地２ ℡ 68-1119	平成 10年４月	S造１階	431.50	438.76	4,519.00
稲武出張所	〒441-2513 稲武町宮ノヒラ８番地７ ℡ 82-3099	平成 25年３月	S造２階	494.90	592.13	3,659.98 （ヘリポート除く）
下山出張所	〒444-3242 大沼町大官屋敷92番地１ ℡ 90-4119	平成 ７年10月	S造１階	324.93	324.93	3,799.00

●消防本部・署所の配置図


足助消防署管内
稲武出張所
旭出張所
足助消防署
下山出張所
藤岡小原分署
力石出張所
東分署
松平出張所
南消防署管内
北消防署
消防本部
中消防署
保見出張所
達磨分署
西分署
末野原分署
南消防署
北消防署管内
中消防署管内
高岡出張所
N

◆　消防車両の配置

消防車両等の機械力は、人員や消防水利とともに消防力の基本要素の一つであり、市民の安全を確保する上で不可欠なものです。消防機械等の技術革新に合わせ、災害現場において効率的に運用できる最新鋭の機器を導入し、迅速で的確な対応ができるように整備の拡充を図っています。

●消防本部・消防署の車両配置

令和６年４月１日現在（台）

車種＼署所		本部	北消防署	藤岡小原分署	保見出張所	力石出張所	中消防署	東分署	逢妻分署	松平出張所	南消防署	西分署	末野原分署	高岡出張所	足助消防署	旭出張所	稲武出張所	下山出張所	合計
消防ポンプ自動車	（水槽無）		1				1				1	1				1	1	1	11
	（水槽有）※			1				1					1		1				
水槽付消防ポンプ自動車			1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	18
梯子付消防自動車			1				1				1								3
化学消防ポンプ自動車			1				1				1								3
水槽車			1				1				1								3
救助工作車			1				1				1				1				4
指揮車		1	1				1				1				1				5
広報車		6	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	24
指揮隊車			1				1				1				1				4
資機材搬送車		2	2				1				1				1				7
救急自動車			2	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	21
小型救助車															1				1
支援車							1												1
起震車		1																	1
その他車両		9	3				2				2				2				18
合計		19	16	4	3	3	17	4	4	3	14	4	4	3	14	4	4	4	124
小型動力ポンプ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16

※消防ポンプ自動車（水槽有）は、CD-Ⅰ型に小型水槽を備えているもの

◆　消防水利

消防水利は、消火栓、防火水槽、プール等の「人工水利」と河川、池、沼等の「自然水利」があります。市が整備している消防水利以外でも、「消防水利の基準」を満たした私有の水利施設については、所有者等の承諾を得て、「指定消防水利」として登録をしています。

消防水利の割合は、消火栓が７３．０％と大部分を占めており、防火水槽は２５．０％、指定消防水利は２．０％です。大規模な地震による水道管の破損等に対応できるよう、耐震性貯水槽の設置及び既設の防火水槽の耐震化に努めています。

災害時には、その機能が十分発揮されなければなりません。そのため、常時使用可能な状態を保つよう、位置、異常の有無、付近の障害物等を定期的に調査し、機能の保全に努めています。

●消防水利の推移

令和６年４月１日現在（基）

区　　分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
消火栓（基準適合）	４，３８５	４，４２０	４，４２８	４，４３２	４，４３３
消火栓（基準非適合）	１，３３３	１，３１６	１，３１１	１，３０７	１，３０８
防火水槽４０㎥以上	１，６８０	１，６９３	１，６９８	１，７０２	１，７１０
防火水槽４０㎥未満	２７５	２７２	２６８	２６７	２６５
指定消防水利	１４７	１４９	１５５	１５３	１５５

◆　耐震性貯水槽の設置

大規模地震が発生した場合、消火栓や耐震性を有しない貯水槽の機能低下による消火用水の不足が懸念されます。震災時における消防活動に支障をきたさないよう、耐震性貯水槽を計画的に設置しています。

また、１００㎥の耐震性貯水槽には同時多発火災が発生した場合に、地域で消火活動ができるよう、小型動力ポンプ(Ｃ－１級)及び消防ホースなどを併せて整備しています。

●耐震性貯水槽の現有数

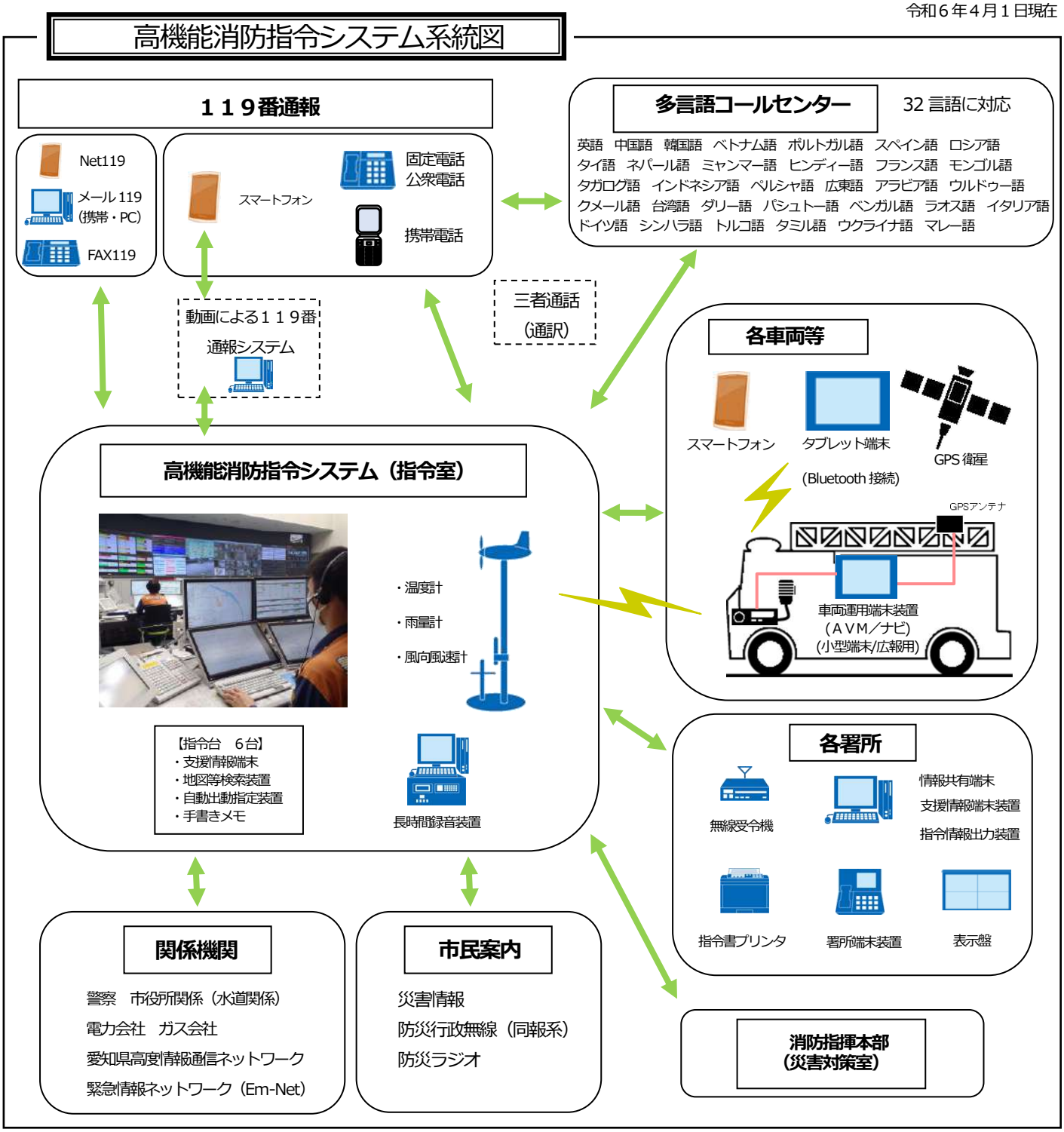
令和６年４月１日現在（基）

	４０㎥	１００㎥	合計
現有数	２７１	３５	３０６

◆ 通信施設

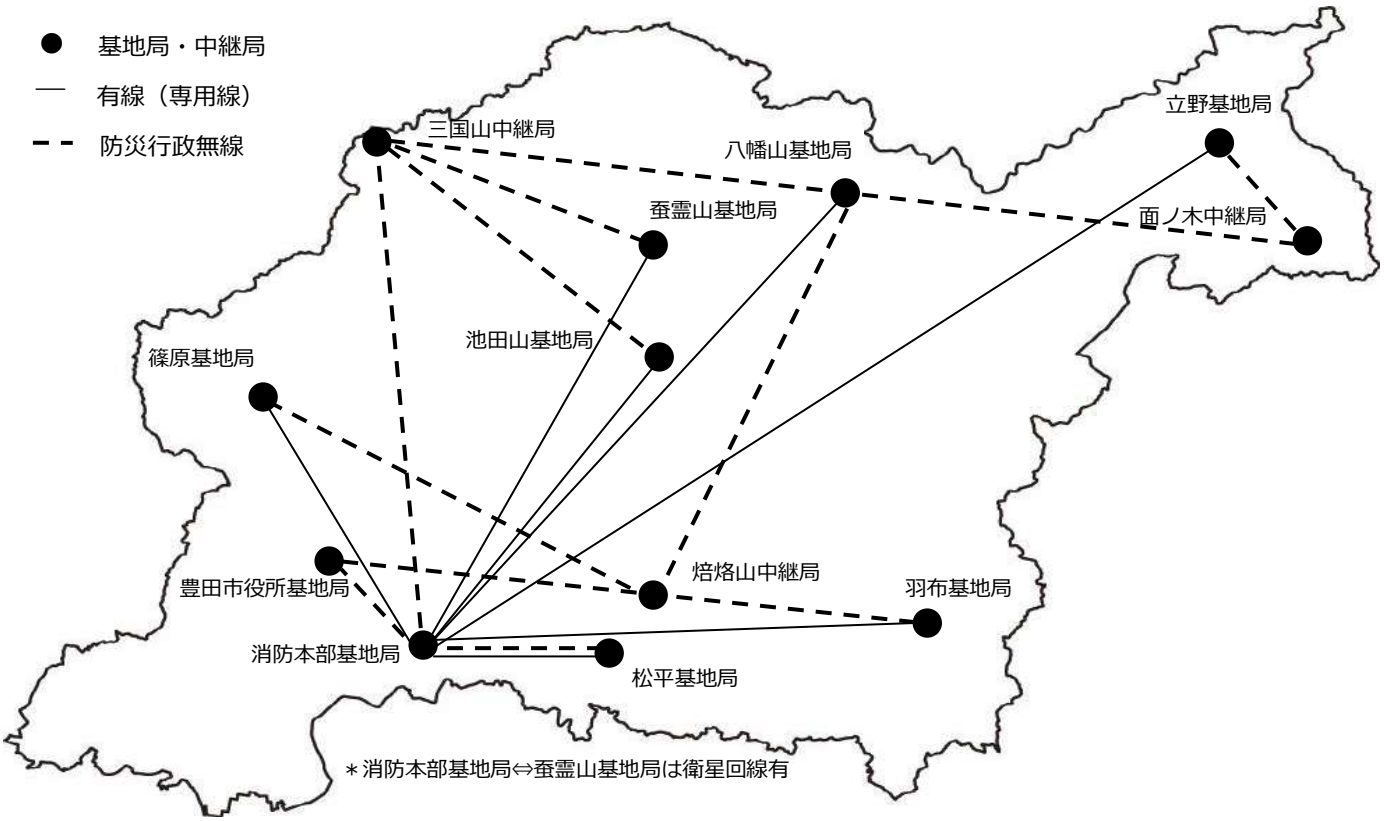
通信施設は、市民からの災害通報を最初に受信する施設であり、迅速確実な情報収集による出動指令を行うとともに、消防救急デジタル無線システム、高機能消防指令システム等を駆使し、災害の状況や災害現場での活動状況などを把握して消防活動を円滑に支援する中枢的役割を担当しています。

令和６年４月１日現在



消 防 設 備

【消防救急デジタル無線ネットワーク】



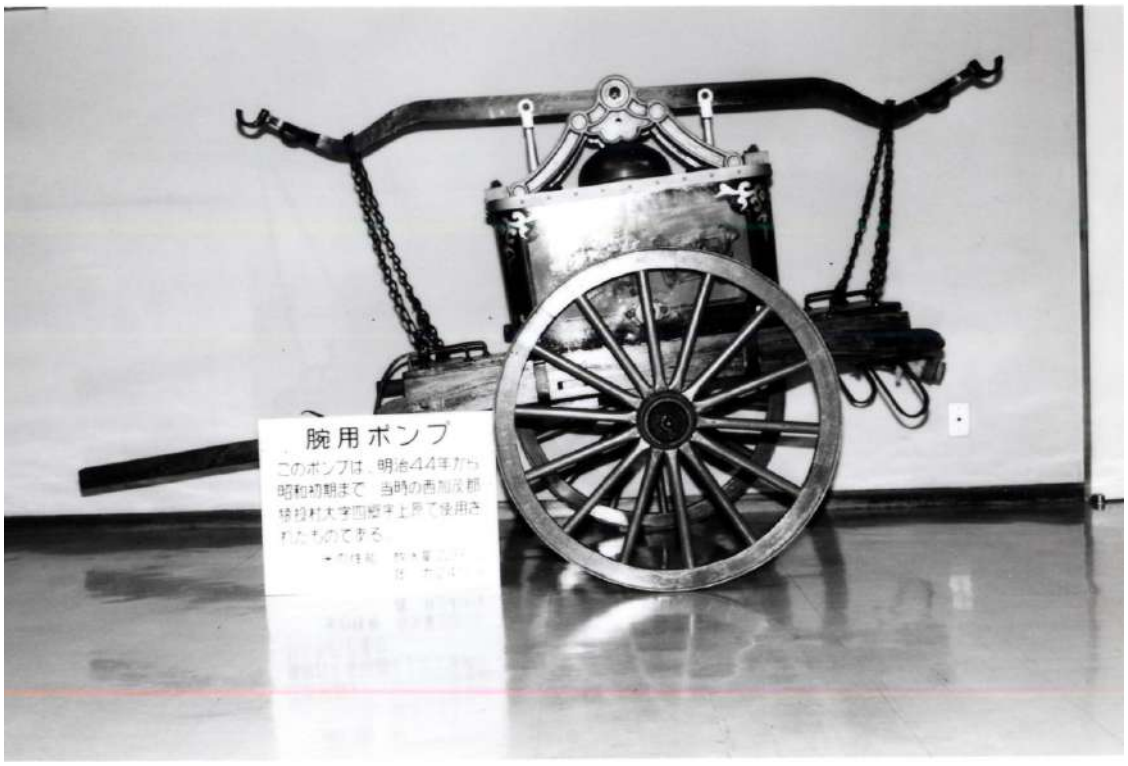
【基地局実装チャネル】　○使用波　△予備波　- 保有なし　　令和６年４月１日現在

ch ＼ 基地局名	消防本部基地局	松平基地局	蚕霊山基地局	八幡山基地局	羽布基地局	篠原基地局	池田山基地局	立野基地局
活動波１ｃｈ	○	-	△	○	○	-	-	-
活動波２ｃｈ	△	-	○	-	-	-	-	○
活動波３ｃｈ	△	○	△	-	-	○	○	-
活動波４ｃｈ	○	-	△	○	○	-	-	-
活動波５ｃｈ	△	-	○	-	-	-	-	○
活動波６ｃｈ	△	○	△	-	-	○	○	-
活動波７ｃｈ	○	○	○	○	○	○	○	○
主 運 用 波	○	○	○	○	○	○	○	○
統制波１～３	○	-	-	-	○	-	○	○

【無線局数】　　令和６年４月１日現在

設置場所 ＼ 無線局種類	車載型移動局		携帯型移動局	卓上型移動局	可搬型移動局	署活動用無線局
	（５W）	（10W）	（1W）	（５W）	（5W）	（400MHｚ）
消 防 本 部	6		10		3	4
北 消 防 署	13		14	1	1	36
藤岡小原分署	4		4	1		18
保 見 出 張 所	3		3	1		10
力 石 出 張 所	3		3	1		10
中 消 防 署	14		15	1	1	38
東 分 署	4		4	1		18
逢 妻 分 署	4		4	1		16
松 平 出 張 所	3		3	1		10
南 消 防 署	11		12	1	1	36
西 分 署	4		4	1		18
末 野 原 分 署	4		4	1		18
高 岡 出 張 所	3		3	1		10
足 助 消 防 署	１１	1	12	1	1	26
旭 出 張 所	4		4	1		14
稲 武 出 張 所	4		4	1		14
下 山 出 張 所	4		4	1		14

Ⅲ. 火　災


腕用ポンプ
このポンプは、明治44年から
昭和初期まで、当時の西加茂郡
猿投村大字四郷字上原で使用さ
れたものである。

腕用ポンプ

◆　火災発生状況

令和５年の出火件数は１３９件で、４人の死者と１３人の負傷者が発生し、３０世帯が「り災」しました。また、これらの火災で焼損した財産等は、建物６６棟、建物焼損床面積１，９５１㎡、林野焼損面積１０２ａ、車両２２台で、その損害額は２億１，０９７万９千円でした。

前年に比べて出火件数は３２件、損害額は１，４４６万５千円増加しました。また、死者数は１人減少しました。

●火災発生状況

区　　分		令和５年（A）	令和４年（B）	増減（C）：（A）－（B）
出火件数　　（件）		139	107	32
建物火災		52	55	△3
林野火災		4	5	△1
車両火災		16	9	7
その他の火災		67	38	29
焼損棟数　　（棟）		66	62	4
建物焼損床面積（㎡）		1,951	2,656	△705
建物焼損表面積（㎡）		72	153	△81
車両焼損数（台）		22	22	
林野焼損面積　（ａ）		102	167	△65
死者　　（人）		4	5	△1
負傷者　　（人）		13	15	△2
り災世帯数　（世帯）		30	41	△11
り災人員　　（人）		66	71	△5
出火率　（件/万人）		3.3	2.6	0.7
損害額　　（千円）		210,979	196,514	14,465
建物火災		200,705	160,136	40,569
林野火災			18	△18
車両火災		5,684	35,875	△30,191
その他火災		4,590	485	4,105
主な出火原因（件）	たき火	25	11	14
	たばこ	7	12	△5
	火入れ	11	5	6
	放火の疑い	11	11	
	こんろ	2	13	△11
	放火	8	3	5
	ストーブ	4	2	2

＊△は負数を表す

＊出火率とは、人口１万人あたりの出火件数（人口は、該当年４月１日現在の住民基本台帳による。）

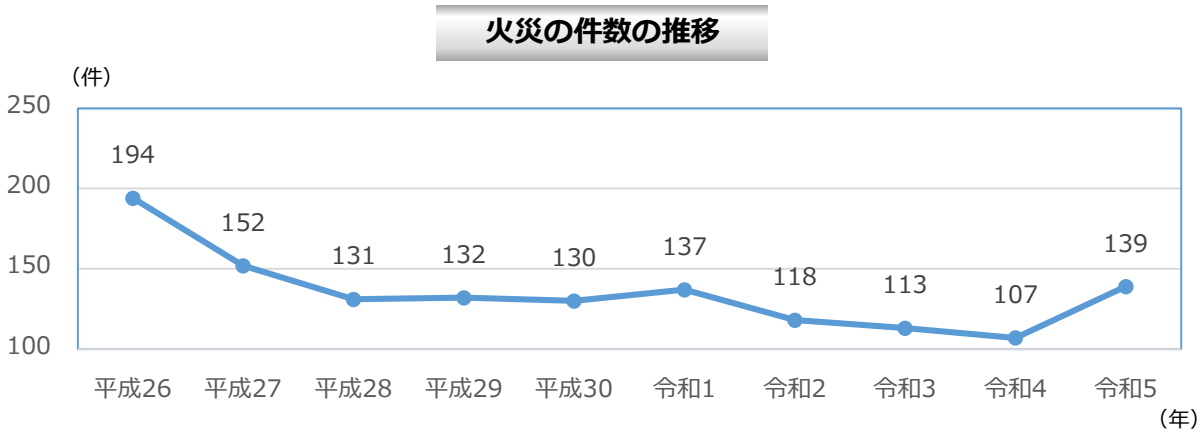
＊令和６年４月１日現在の火災発生状況（調査結果により各数値が変わることがあります。）

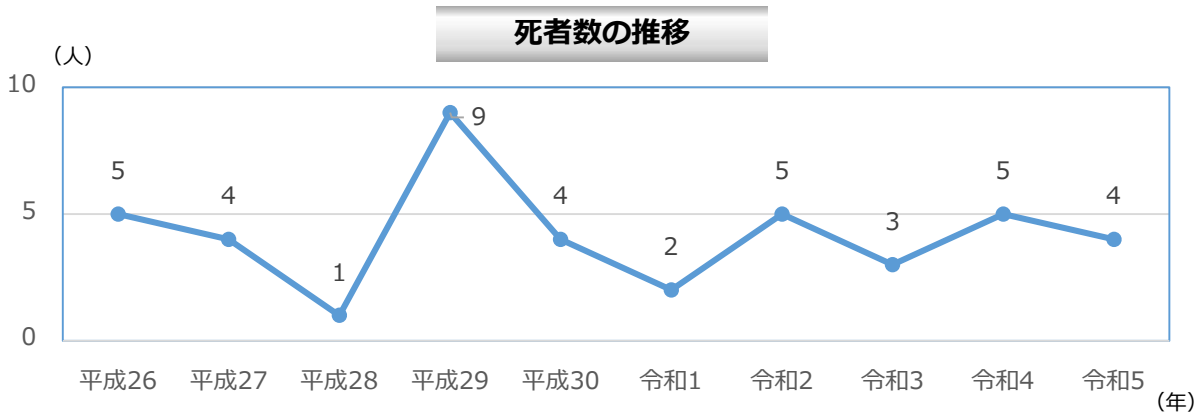
◆　出火件数及び損害額等

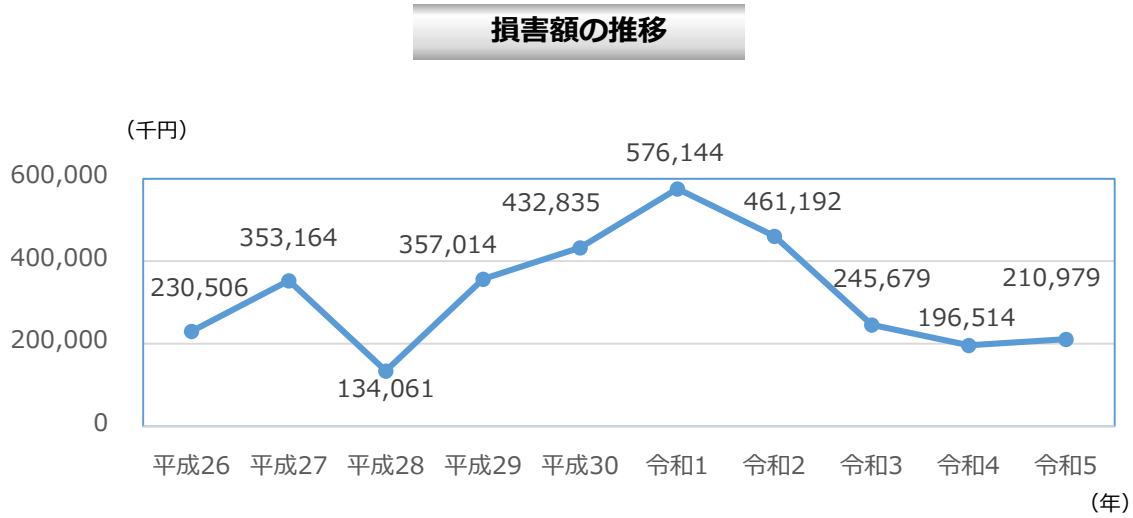
平成２６年から１０年間の出火件数の推移をみると、１９４件を記録した平成２６年から減少傾向となっていたが、令和５年中の出火件数は１３９件で、前年に比べ３２件（２９.９%）増加しました。

また、火災による死者数は前年より１人減少の４人でした。

火災による損害額は、前年より１，４４６万５千円増加の２億１，０９７万９千円でした。







◆　署所別出火件数

令和５年中の火災は、南消防署の管轄で多く発生しています。

署所別出火件数

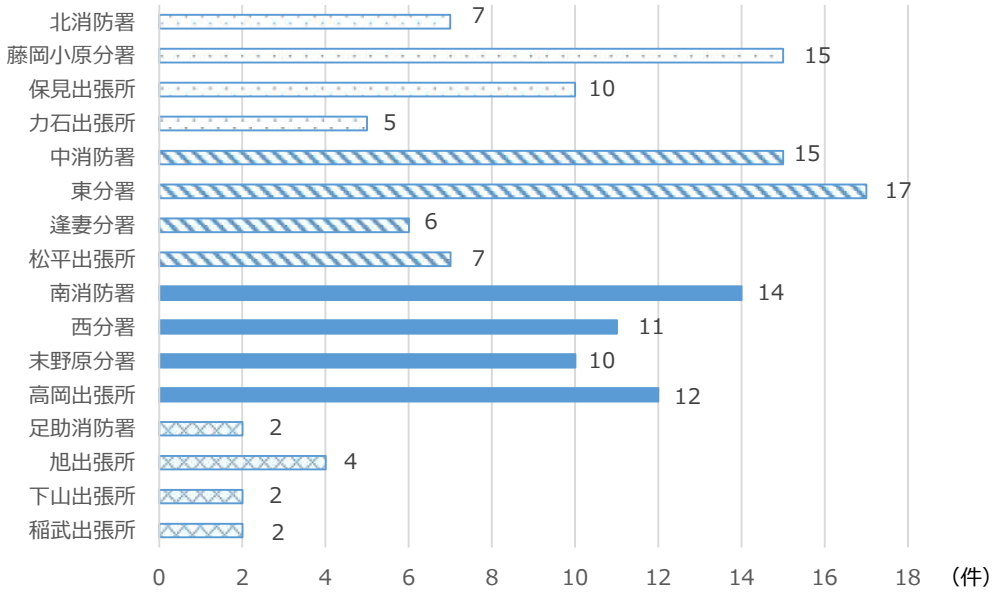
合計　１３９件

北消防署
37 件　26.6%

中消防署
45 件　32.4%

南消防署
47 件　33.8%

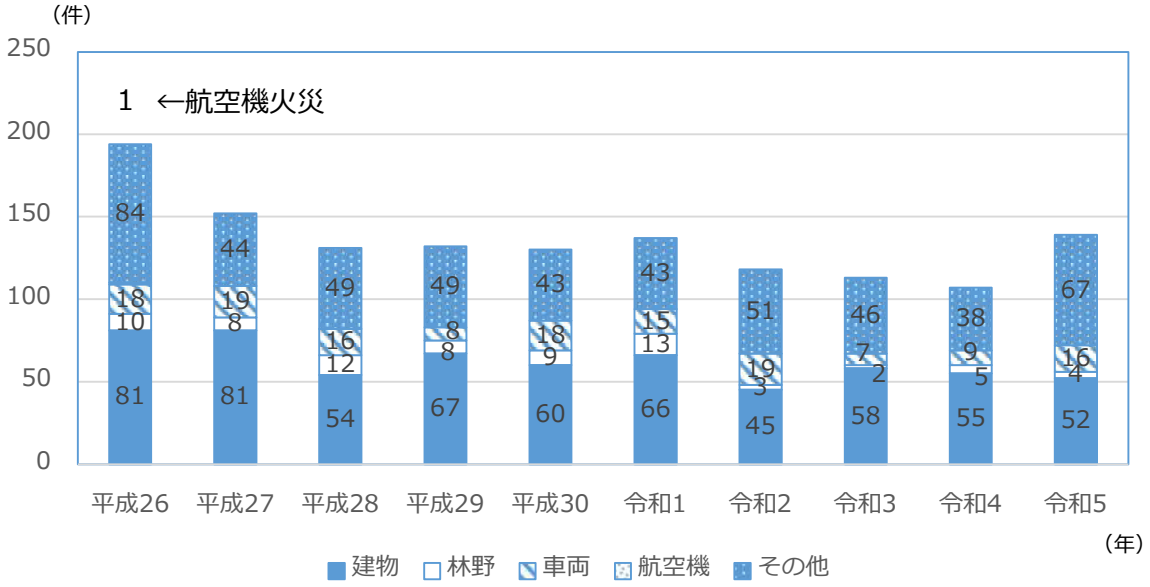
足助消防署
10 件　7.2%



◆　火災種別出火件数

火災種別でみると建物火災が５２件と前年（５５件）に比べ３件減少、林野火災が４件と前年（５件）と比べ１件減少、車両火災が１６件と前年（９件）に比べ７件増加、その他の火災が６７件と前年（３８件）に比べ２９件増加、航空機火災は発生しませんでした。

火災種別出火件数



◆　四季別出火件数

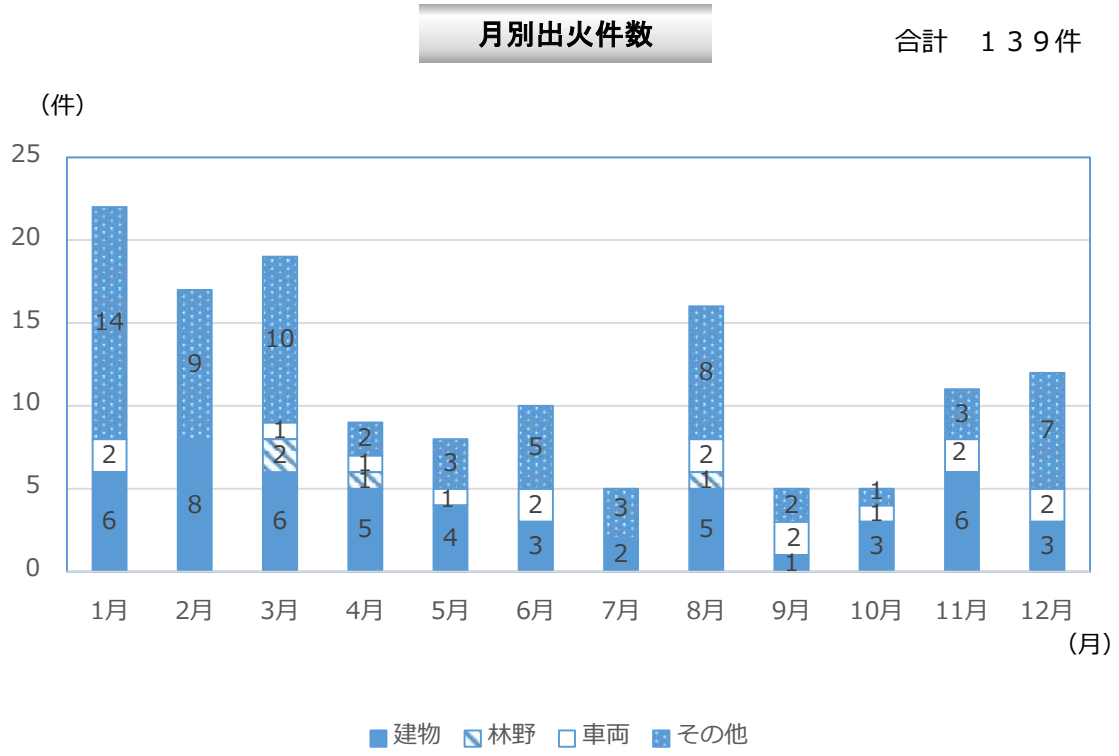
令和５年中の出火件数を四季別にみると、冬季に多く火災が発生しており、損害額は秋季に多く６７．０%を占めている。

●四季別出火件数

季別＼年別	令和５年				令和４年			
	出火件数（件）	構成比	損害額（千円）	構成比	出火件数（件）	構成比	損害額（千円）	構成比
春季（3月～5月）	36	25.9%	31,001	14.7%	31	29.0%	54,846	27.9%
夏季（6月～8月）	31	22.3%	16,346	7.7%	18	16.8%	41,932	21.3%
秋季（9月～11月）	21	15.1%	141,352	67.0%	30	28.0%	49,292	25.1%
冬季（12月～2月）	51	36.7%	22,280	10.6%	28	26.2%	50,444	25.7%
合計	139	100.0%	210,979	100.0%	107	100.0%	196,514	100.0%

◆　月別出火件数

令和５年中の月別出火件数は、１月が最も多く２２件で、最も少ない月は７月、９月及び１０月で５件でした。

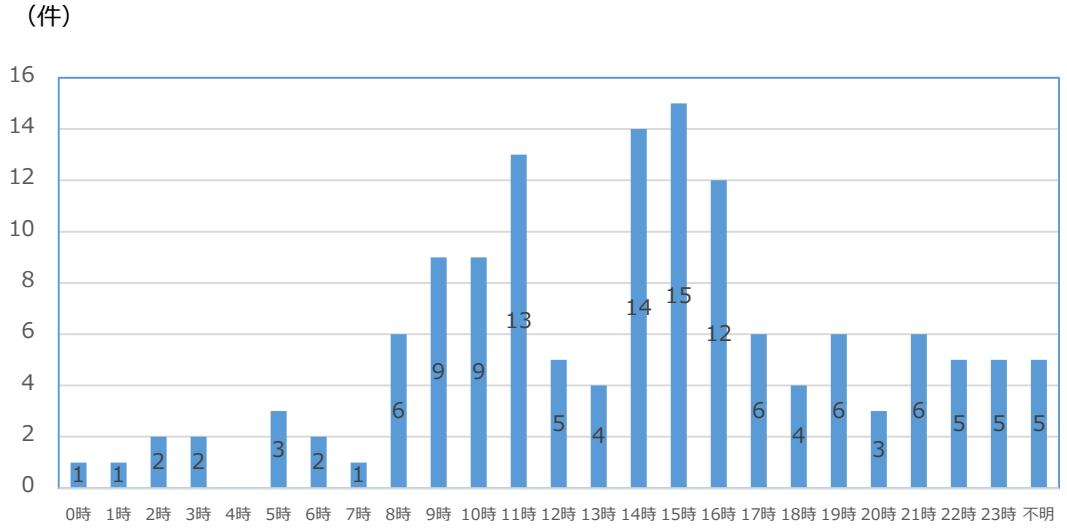


◆　時間別出火件数

令和５年中の時間別出火件数は、１５時台に多く発生しています。

時間別出火件数

合計　１３９件



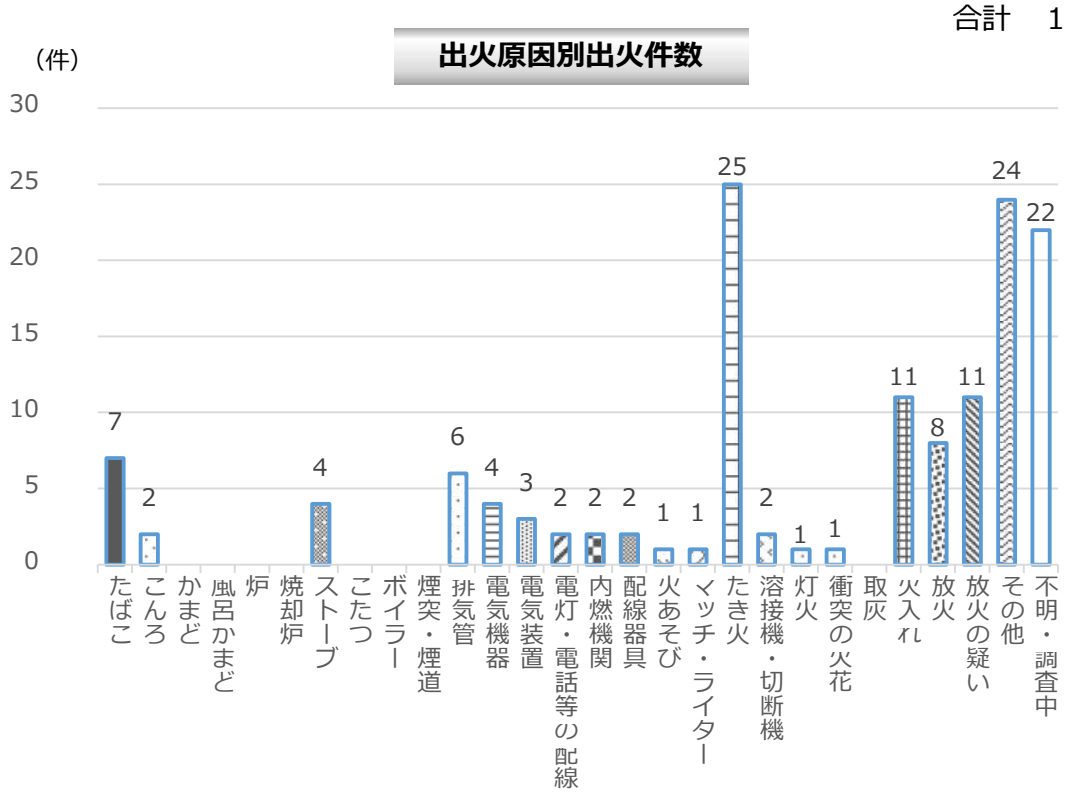
◆　出火原因別出火件数等

下のグラフと表は、出火原因別の出火件数と損害額を表したものです。

令和５年中の出火件数１３９件のうち、たき火が２５件で最も多く、次いでその他が２４件、火入れ及び放火の疑いが１１件の順となっています。

主な出火原因別の損害額をみると、電気装置が１１，３４０千円と最も多く、次いでストーブ７，９２３千円、放火の疑い５，０５２千円の順となっています。

合計　１３９件



●主な出火原因別の火災による損害額

原因分類名	損害額（千円）	原因分類名	損害額（千円）
電気装置	11,340	配線器具	1,228
ストーブ	7,923	衝突の火花	120
放火の疑い	5,052	電気機器	80
たき火	2,839	放火	63
排気管	2,658	灯火	13
内燃機関	2,391	溶接機・切断機	2
火入れ	2,223	こんろ	1
たばこ	2,026	その他	4,593
電灯・電話等の配線	1,778	不明・調査中	166,649

◆　発火源別出火状況

●建物火災の主な出火原因と経過

建物火災の主な出火原因は、たばこが６件と最も多く、次いでストーブ及びたき火が４件となっています。ほかには、その他が７件となっています。

主な経過又は発火源をみると、使用者の過失が出火原因となる火災が多くなっています。

主な出火原因	たばこ	6	ストーブ	4	たき火	4	その他	7
主な経過又は発火源	不適当なところに捨て置く	3	石油・ガソリンストーブ（開放式）引火する	1	火源が動いて接触する	2	その他の移動可能な電熱器放置する、忘れる	1
	火源が転倒落下する	2	火源が動いて接触する	1	火の粉が散る遠くへ飛び火する	2	火源が動いて接触する	1
	引火する	1	ストーブ（開放式）引火する	1			自然発火する	1
			電気ストーブ・火鉢（開放式）スパークする	1			火源が転倒落下する	1
							残り火の処置が不充分	1
							摩擦により発熱する	1
							輻射を受けて発火する	1

＊４件以上のものを計上（不明・調査中及び３件以下は 31 件）

●林野火災の主な出火原因と経過

林野火災の出火原因は、たき火及びその他が２件となっています。

主な出火原因	たき火	2	その他	2
主な経過又は発火源	火源が動いて接触する	2	火の粉が散る遠くに飛び火する	1
			容器から火種がこぼれる	1

●車両火災の主な出火原因と経過

車両火災の出火原因は、排気管が４件、内燃機関が２件及びその他が４件となっています。

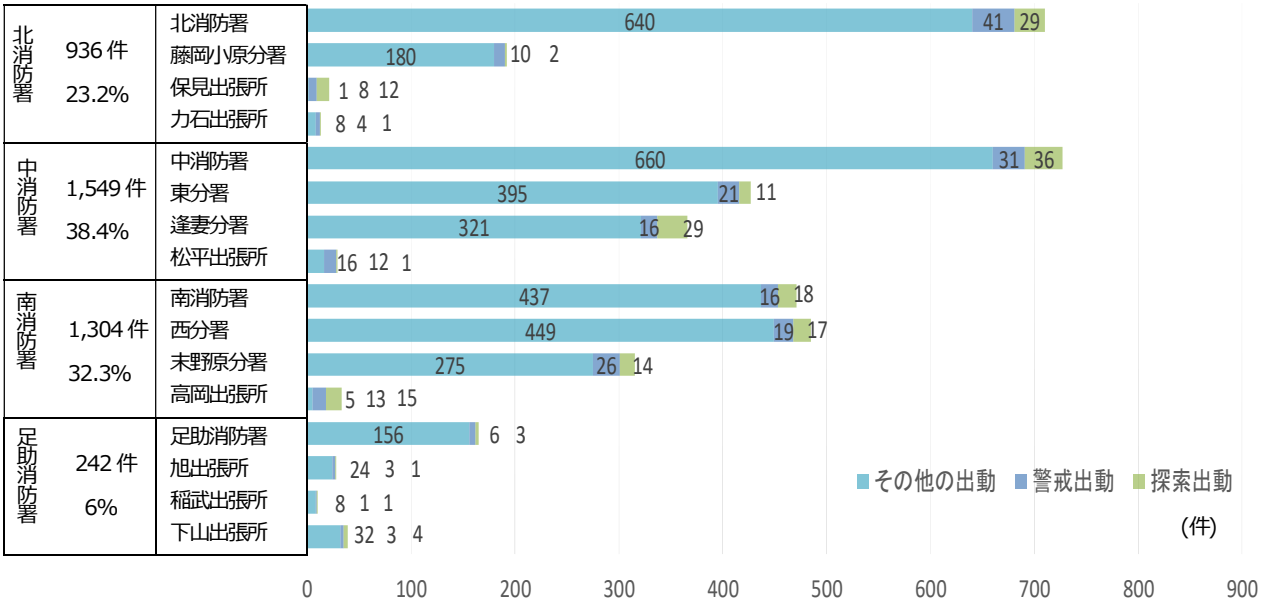
主な出火原因	排気管	4	内燃機関	2	その他	4
主な経過又は発火源	着火物が漏洩する	2	着火物が漏洩する	1	摩擦により発熱する	1
	高温物が触れる	1	引火する	1	火花が飛ぶ	1
	その他	1			機械が故障を起こす	1
					高温物が触れる	1

＊２件以上のものを計上（不明・調査中及び１件以下は６件）

◆　その他の出動件数

署所別その他の出動件数

合計　４，０３１件



警戒　：危険物等の漏洩、流出その他の火災が発生するおそれのある場合の出動
探索　：火災と認めることが困難な火煙の発生、住民の通報又は「豊田市遠隔移動システム等による火災通報装置の取扱要綱」の受信による出動
その他：火災、救急、救助や上記に掲げる出動以外

月別その他の出動件数

合計　４，０３１　件

Ⅳ. 救急･救助

多数傷病者救急対応訓練

◆　救急体制

当市では、救急需要に応えるため、全消防署所に高規格救急自動車を導入するとともに、救急隊員及び救急救命士の養成を行い、より高度な救急業務が行える体制を構築しています。

令和６年４月１日現在、１４９人の救急救命士のうち、すべての者がアドレナリン投与の処置ができ、気管挿管の処置ができる者４０人、心肺機能停止前の輸液及び低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与の処置ができる者１３７人が県の認定を受けて活動しています（資格の重複有）。

また、救命率の向上のために、平成２９年度から次代を担う小中学生にも応急手当の受講機会を拡大して、少年期から応急手当に慣れ親しむ環境作りを推進しています。

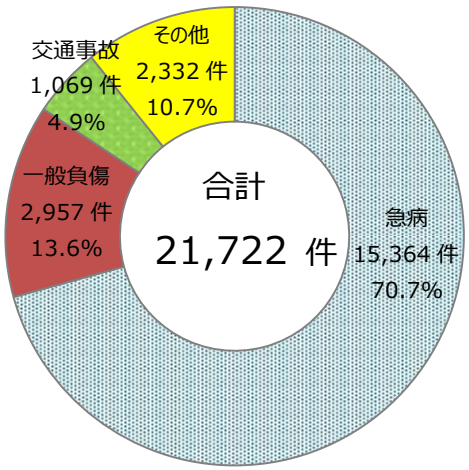
救急車においては、傷病者の症状や状態を医師に的確に伝えるため、画像や映像などを市内の４病院＊に送信することのできるアプリケーションを導入しています。このことで、病院到着前に医師から適切な指示を得られることができます（＊豊田厚生病院、トヨタ記念病院、豊田地域医療センター、足助病院の市内４病院）。

さらに、豊田加茂医師会、豊田厚生病院、トヨタ記念病院と協定を結び、ドクターカー研修を実施することで、救急と医療の連携強化を図り、安全で住みよいまちになるよう推進しています。

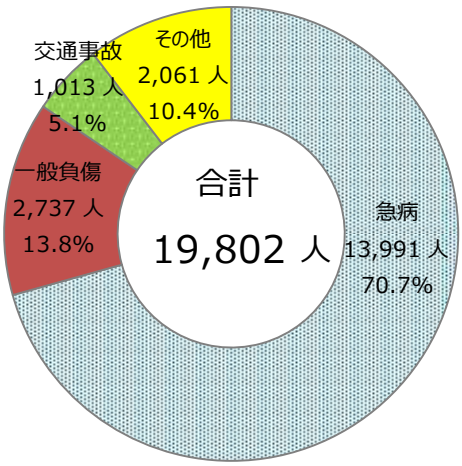
◆　救急出動件数・搬送人員

令和５年中における救急出動件数は２１，７２２件で、１日平均約６０件でした。このうち、医療機関に搬送された人員は１９，８０２人で、市民約２１人に１人の割合で救急車を利用したことになります。前年と比較し、出動件数が８２９件（約４％）、搬送人員が１，３４９人（約７％）増加しました。

出動件数



搬送人員



＊小数点第２位を四捨五入して表記しているため、合計が１００％にならない場合がある。

●その他の内訳

	火災	自然災害	水難	労働災害	運動競技	加害	自損行為	その他	合計
出動件数	71	2	1	200	105	34	163	1,756	2,332　件
搬送人員	7			192	101	23	106	1,632	2,061　人

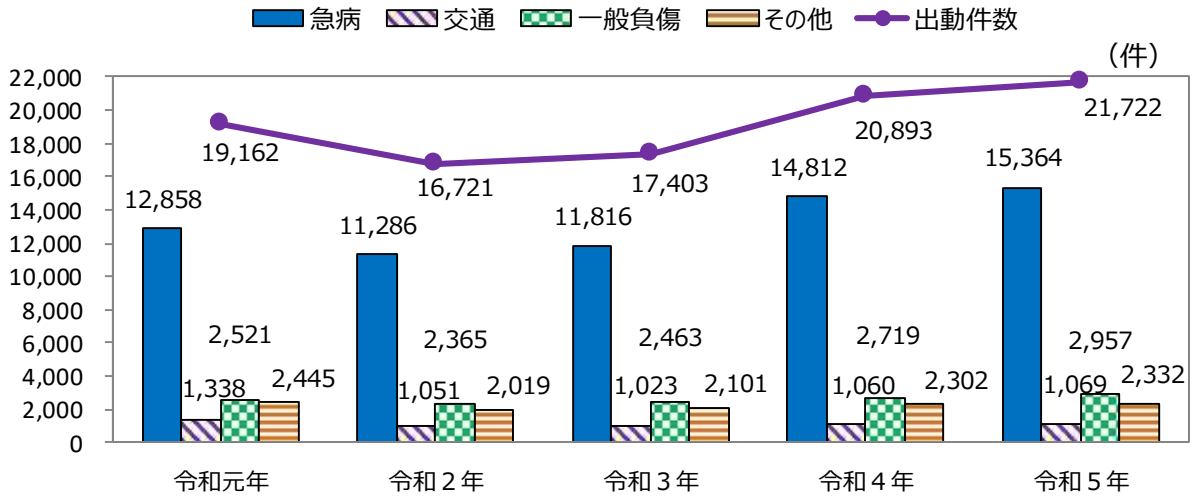
救急出動件数中、急病・交通・一般負傷を除く「その他」部分

◆　救急事故種別件数

下のグラフは、救急事故種別件数の推移を表したものです。
令和５年は、前年と比較して８２９件増加し、２１，７２２件でした。

救急事故種別件数の推移

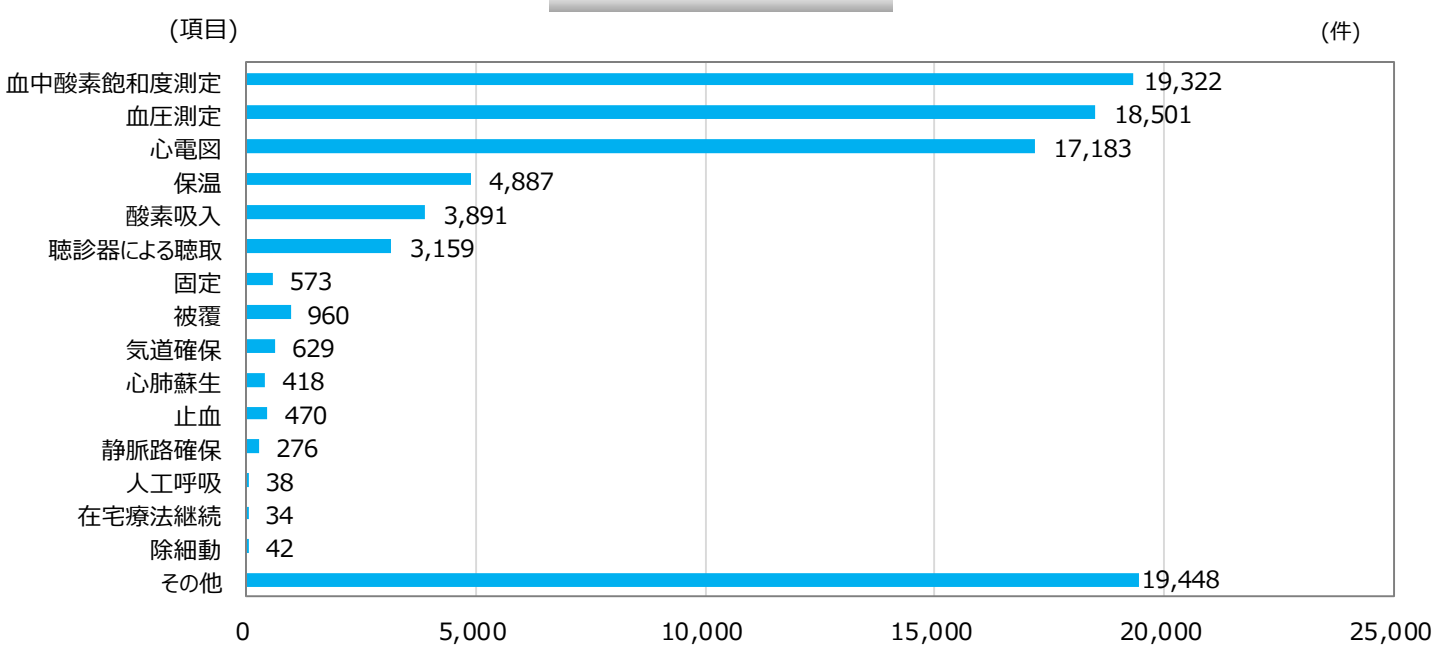
合計　21,722 件



◆　救急隊員応急処置実施項目

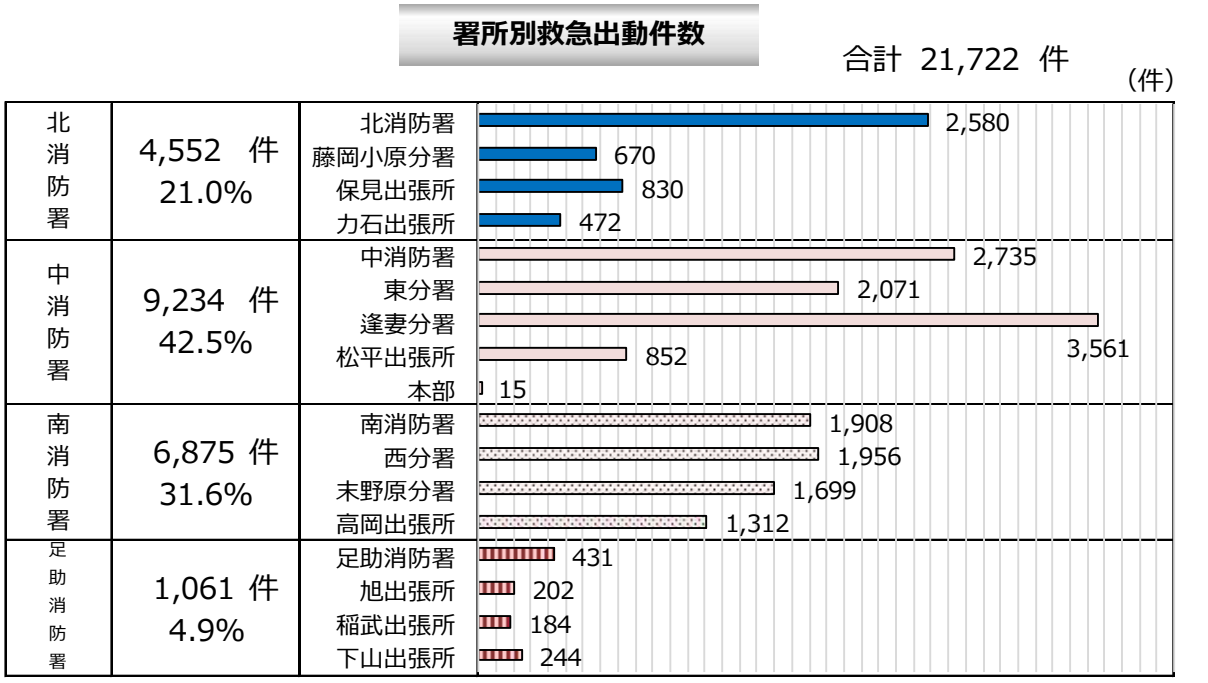
下のグラフは、救急隊員が行った応急処置の内容を表したものです。
傷病者の症状をより詳しく観察するため、血中酸素飽和度測定、血圧測定、心電図等が多く行われています。

応急処置実施項目



◆　署所別救急出動件数

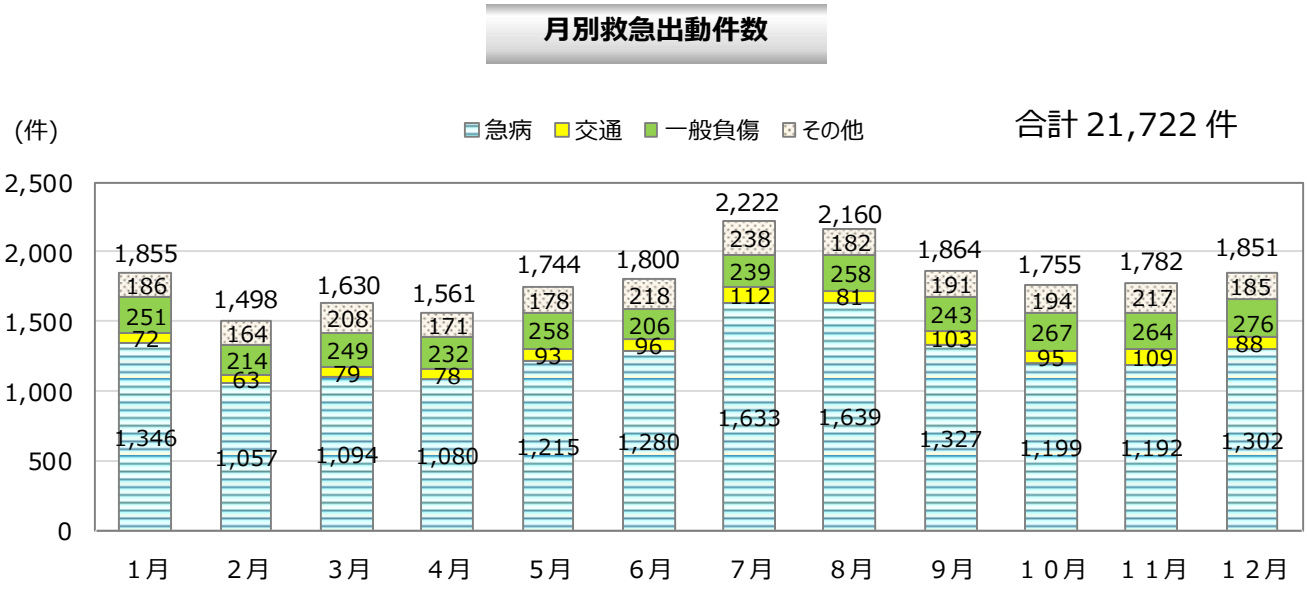
下のグラフは、救急出動状況を署所別に分類したものです。
人口分布の多い地域を管轄する中・南消防署で全体の７割以上を占めています。



＊本部隊の出動は、中消防署管内に含む。
＊小数点第２位を四捨五入して表記しているため、合計が１００％にならない場合がある。

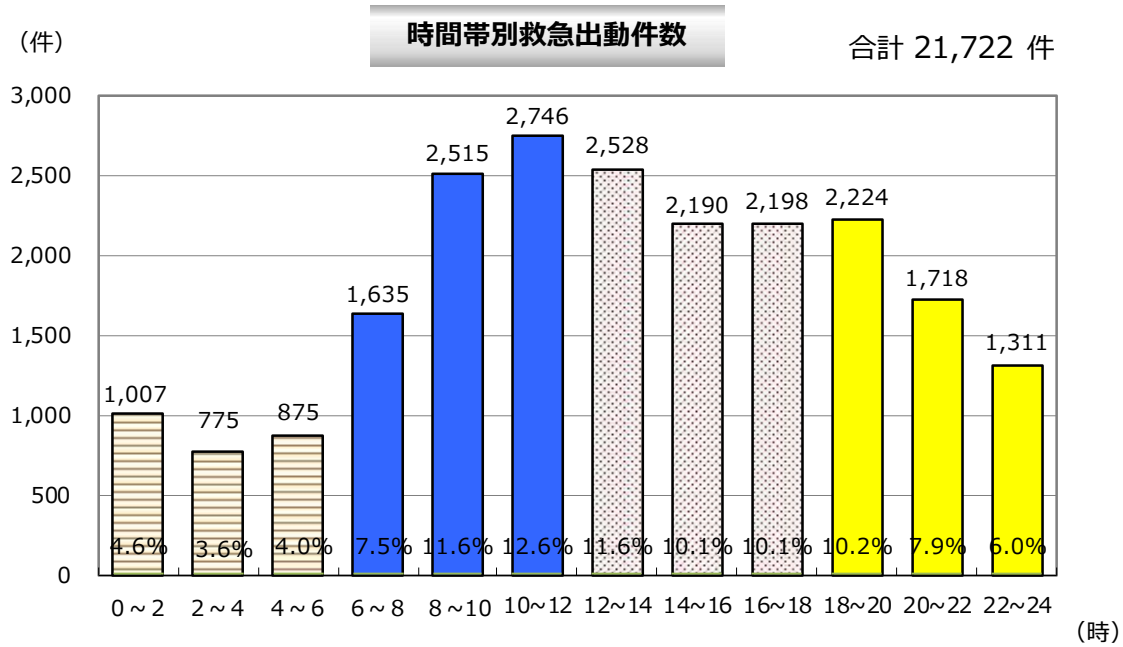
◆　月別救急出動件数

下のグラフは、救急出動状況を月別に比較したものです。
月別の出動件数全体では、７月が最も多く、次いで８月が多くなっています。



◆　時間帯別救急出動件数

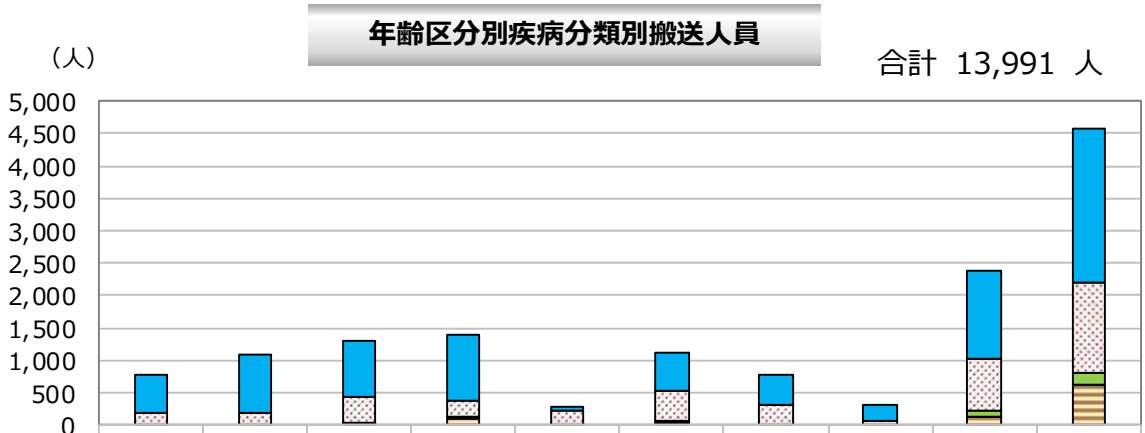
下のグラフは、救急出動状況を時間別に表したものです。
救急出動は、午前８時から午後２時までの時間帯に多く発生しています。



＊小数点第２位を四捨五入して表記しているため、合計が１００％にならない場合がある。

◆　年齢区分別疾病分類別搬送人員

下のグラフは、急病で搬送した傷病者を年齢区分別及び疾病分類別に表したものです。
呼吸系、消化系、感覚系が多くなっています。

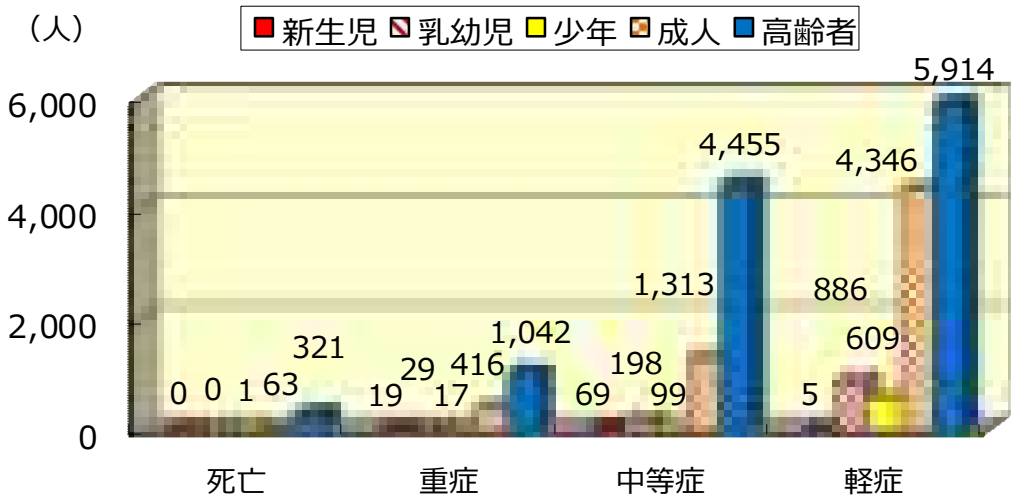


	脳疾患	心疾患	消化系	呼吸系	精神系	感覚系	泌尿系	新生物	その他	不明確
合計	772	1,085	1,297	1,405	275	1,112	771	306	2,390	4,578
高齢者	593	908	862	1,044	59	597	453	243	1,372	2,391
成人	176	174	392	231	205	435	312	63	810	1,386
少年	1	3	17	39	8	51	5		90	182
乳幼児	2		25	91	3	29	1		117	617
新生児			1						1	2

◆　年齢区分別傷病程度別搬送人員

下のグラフは、搬送人員を年齢区分別及び傷病程度別に表したものです。
死亡、重症、中等症及び軽症ともに、高齢者の割合が高くなっています。

年齢区分別傷病程度別搬送人員　　合計 19,802 人



◆　応急手当普及指導講習実施回数

●講習実施状況

種別＼年度	実施数等	令和４年度	令和５年度
救命入門コース	回数	６２５	６９６
	受講者数	１７，６５４	１８，３１９
普通救命講習（Ⅰ）	回数	６３１	５６２
	受講者数	６，３２２	６，６２５
普通救命講習（Ⅱ）	回数		１
	受講者数		２１
普通救命講習（Ⅲ）	回数	１９	１０
	受講者数	４３２	２５８
上級救命講習	回数	４	５
	受講者数	５５	１０１
応急手当普及員講習	回数	８	７
	受講者数	１１８	１０７
応急手当普及員再講習	回数	１０	１０
	受講者数	１８９	１７４
合　　計	回数	１，２９７	１，２９１
	受講者数	２４，７７０	２５，６０５

救命入門コース　…心肺蘇生法、ＡＥＤ使用方法
普通救命講習（Ⅰ）（Ⅱ）　…心肺蘇生法（主に成人を対象）、ＡＥＤ使用方法、止血法
＊普通救命講習（Ⅱ）は、一定の頻度で心停止者に対して応急の対応をすることが期待・想定される者を対象とする。
普通救命講習（Ⅲ）　…心肺蘇生法（主に小児、乳児、新生児を対象）、ＡＥＤ使用方法、止血法
上級救命講習　…心肺蘇生法、ＡＥＤ使用方法、止血法、傷病者管理法、外傷の手当要領、搬送法
応急手当普及員講習　…救命に必要な基礎知識・医学、応急手当の指導要領
応急手当普及員再講習　…応急手当に関する指導要領の再講習

◆　救助体制

当市の救助隊は、法的に設置が義務付けられる以前の昭和５４年に特別消防隊として設置され、徐々に装備の充実を図りながら多くの救助活動を実施してきました。

現在は、中消防署（Ⅲ型）並びに北消防署、南消防署及び足助消防署（Ⅱ型各１台）の４署に救助工作車を配置し、救助隊を編成しています。また、中消防署については、大規模災害や特殊な事故に対応するため、平成２１年４月１日から高度救助隊（ＳＲＴ：スーパーレスキュー豊田）を編成して運用しています。

◆　緊急消防援助隊

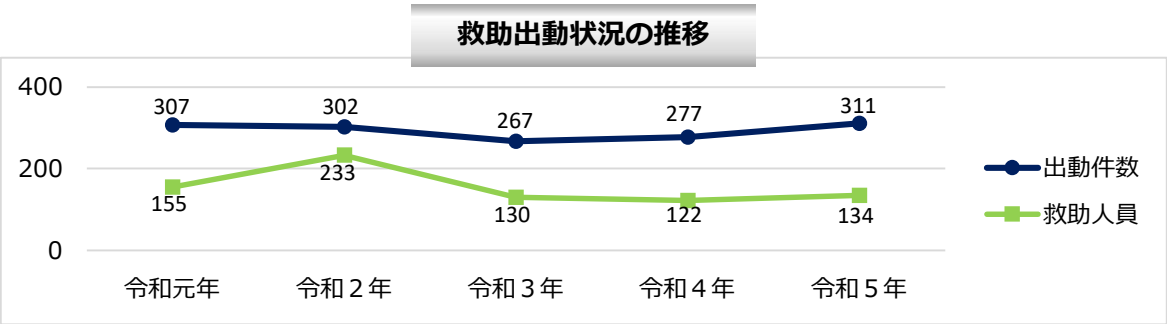
平成７年１月１７日に発生した「阪神・淡路大震災」を教訓とし、全国の消防機関相互の迅速な応援救助体制の確立を目的に、国内で発生した地震などの大規模災害に対処するため、平成７年６月に「緊急消防援助隊」が発足しました。

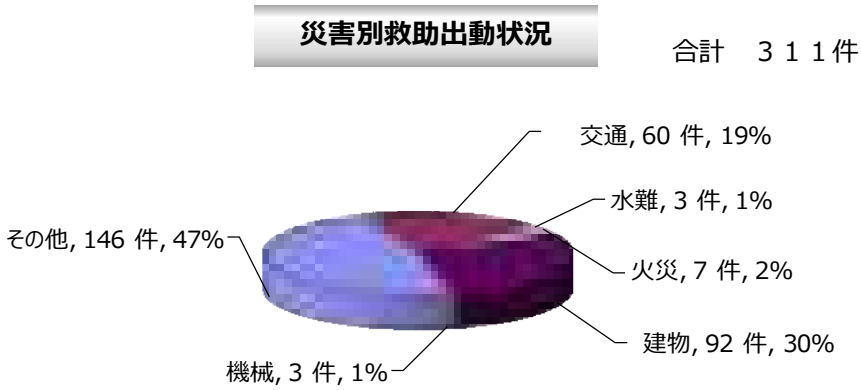
当市は、令和６年４月１日現在で愛知県大隊指揮隊１隊、消火小隊７隊、救助小隊２隊、特殊災害小隊１隊、救急小隊５隊、後方支援小隊１隊、特殊装備小隊１隊、その他の特殊装備小隊１隊の計１９隊を登録しています。

過去の災害では、平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災をはじめ、平成２６年９月２７日に発生した御嶽山噴火災害や平成３０年６月２８日以降の豪雨の影響による平成３０年７月豪雨災害、令和３年７月３日に発生した静岡県熱海市土石流災害、令和６年１月１日に発生した令和６年能登半島地震に派遣出動し、要救助者の救出や行方不明者の捜索などを行いました。

◆ 救助出動状況

令和５年中の救助出動件数は、３１１件で、うち１６２件の救助活動を行い、１３４人を救助しました。災害別の出動件数は、交通事故が６０件で全体の約１９％を占めています。





V. 火災予防対策

とよた消防フェスタ

◆　火災予防

消防の任務には、消火・救急・救助のほか、市民及び事業者が、自ら生命及び財産を守るための予防活動を実践できるように、防火・防災思想を普及啓発することも含まれます。当市では、防火に関するイベントやマスメディアを活用した住宅防火対策のＰＲ、事業所における自主防火管理を目的とした防火・防災管理者の育成指導、地震による被害を軽減するための防災指導などを行い、「災害に強いまちづくり」を目指しています。

◆　住宅防火対策

住宅防火対策では火災の発生状況を分析し、火災件数と火災に伴う被害の低減に向けた施策を推進することが重要です。当市では、住宅火災を減らし、火災による死者を無くすため、住宅用火災警報器をはじめとした住宅用防災機器の設置促進、高齢者宅の訪問指導及び放火火災防止の広報等を防火危険物安全協会等の関係団体と協力して行っています。

◆　広報活動

市民が火災予防に関する知識を深め、火災が発生した場合の対応を誰もが行うことができるように、秋・春の火災予防運動をはじめ、イベント、講座、マスメディア等を活用した防火ＰＲ等の幅広い広報活動を行っています。

東日本大震災の教訓から、幼少期を対象とした各種イベントなどを開催し、いざという時、子どもたちが自発的、主体的に判断し、行動できる力を養うための防火広報に力を入れています。

●令和５年度の主な行事・講座等実施状況

実　施　日	イ　ベ　ン　ト　名	場　　所	参加人員
８月１日～ ９月１０日	関東大震災から１００年　特設展示 ～火災による甚大な被害から学ぶこと～	防災学習センター	３，０３７人
８月８日	少年消防クラブ　消防学校一日入校	愛知県消防学校	１９人
８月２６日	少年消防クラブ　防災キャンプ	石野中学校	６４人
９月３０日	第２８回消防こども写生大会	消防本部・中消防署	２２８人
１１月１１日	一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝	イオンスタイル豊田	８００人
１１月１日～ １１月３０日	秋の火災予防運動週間特別企画 「火災の発生を防ごう！豊田市防災学習センター秋の企画展」	防災学習センター	１，９４９人
１０月１日～ １月１４日	ＷＥＢ版とよた消防フェスタ	WEB 上	５６２人
１月１３日	リアル版とよた消防フェスタ	豊田スタジアム	２，６００人
３月１日～ ３月３１日	春の火災予防運動週間　企画展 「スプリングフェア２０２４」	防災学習センター	２，２９８人

●令和５年度のマスメディアを利用したＰＲ状況

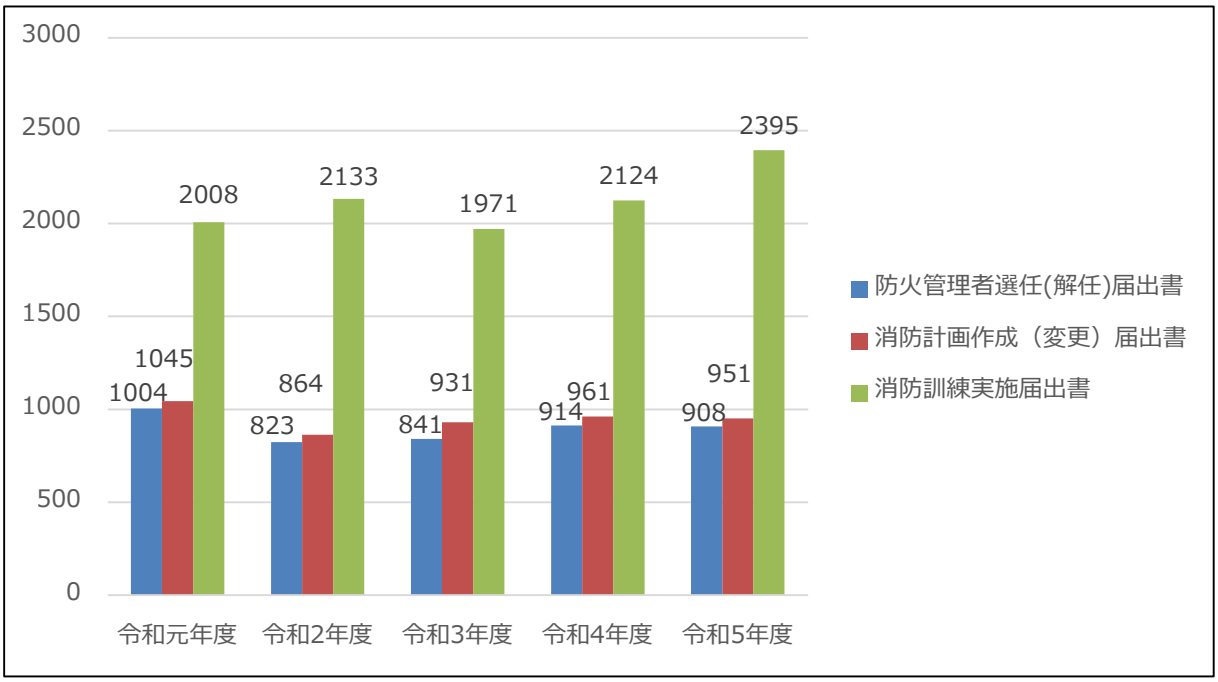
報　道　機　関	項　　目
広　報　と　よ　た	・豊田市消防音楽隊と愛知県警音楽隊がわくわくワールドで合同演奏 ・消防出初・観閲式に参加する「こども消防士」募集 ・消防ふれあいコンサート ・リアル版とよた消防フェスタ
新　　聞　　報　　道	・消防ふれあいコンサート ・着衣泳講習会 ・関東大震災から１００年　特設展示 ～火災による甚大な被害から学ぶこと～ ・高校生消防クラブの消防士体験 ・消防こども写生大会 ・消火競技会 ・秋の火災予防運動週間特別企画 「火災の発生を防ごう！豊田市防災学習センター秋の企画展」 ・一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝 ・防火・防災かるたの制作（衣台高校） ・ＷＥＢ版＆リアル版とよた消防フェスタ ・豊田市消防長表彰状の贈呈（豊田大谷高校）
ラ　　ジ　　オ	・関東大震災から１００年　特設展示 ～火災による甚大な被害から学ぶこと～ ・秋の火災予防運動週間特別企画 「火災の発生を防ごう！豊田市防災学習センター秋の企画展」 ・令和５年における火災発生状況の速報値 ・WEB 版＆リアル版とよた消防フェスタ ・豊田市消防音楽隊 PR 動画の制作（中京大学） ・春の火災予防運動週間　企画展　「スプリングフェア２０２４」 ・消火器搬送ロボットの制作（豊田工科高校） ・啓発物品販売（豊田市消防本部オリジナルコースター）
Ｔ　　Ｖ　　等 （ケーブルテレビ含む）	・消防ふれあいコンサート ・着衣泳講習会 ・関東大震災から１００年　特設展示 ～火災による甚大な被害から学ぶこと～ ・高校生消防クラブの消防士体験 ・消防こども写生大会 ・秋の火災予防運動週間特別企画 「火災の発生を防ごう！豊田市防災学習センター秋の企画展」 ・火災予防啓発のぼりの制作（足助高校） ・一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝 ・防火・防災かるたの制作（衣台高校） ・WEB 版＆リアル版とよた消防フェスタ ・春の火災予防運動週間　企画展　「スプリングフェア２０２４」 ・消火器搬送ロボットの制作（豊田工科高校） ・啓発物品販売（豊田市消防本部オリジナルコースター） ・豊田市消防長表彰状の贈呈（豊田大谷高校）

◆　防火管理者

工場、百貨店、病院等の多数の人が出入りする事業所の管理について権原を有する者（以下、「管理権原者」という。）は防火管理者を選任し、火災の発生の防止と火災が発生した場合の被害の抑制を目的とした防火管理体制の充実を図る必要があります。

防火管理者は、管理権原者の指示を受けて消防計画を作成します。消防計画は当該事業所における防火管理業務の基本方針となるため、内容には自衛消防隊の編成、従業員をはじめとする関係者への教育や訓練の指導方法等、実効性が必要とされます。

防火管理者に係る届出数の推移



◆　自衛消防訓練

「自分の職場は自分で守る」自主防火管理の基本精神では、火災等の災害が発生した場合、その被害を最小限に抑えるために、消防計画によって編成された自衛消防の組織が、消火、避難誘導、通報、救護といった自衛消防活動を迅速・円滑に行う必要があります。

災害の初期段階における対応は、被害を最小限にするために大変重要です。自衛消防の組織はどのような状況下でも、人員と資機材を有効に活用した組織的な対応ができるように、防火管理者を中心として繰り返し教育・訓練を実施しなければなりません。

当市では、防火管理者及び事業者の要望に応じて、消防訓練の指導を実施しています。自衛消防訓練を客観的に見て、どのようにすれば災害発生時に効果的な組織活動が行えるか、検証を行っています。

◆　防災管理者

南海トラフ地震の切迫性が指摘されており、大規模地震に対する災害対応力の強化を図ることが重要な課題となっています。大規模・高層建築物等における地震等の災害による被害の軽減を図るため、自衛消防組織の設置と防災管理者を選任する制度があります。

消防こども写生大会（於：消防本部）

とよた消防フェスタ　はしご車試乗会（於：北消防署）

◆　防災学習センター

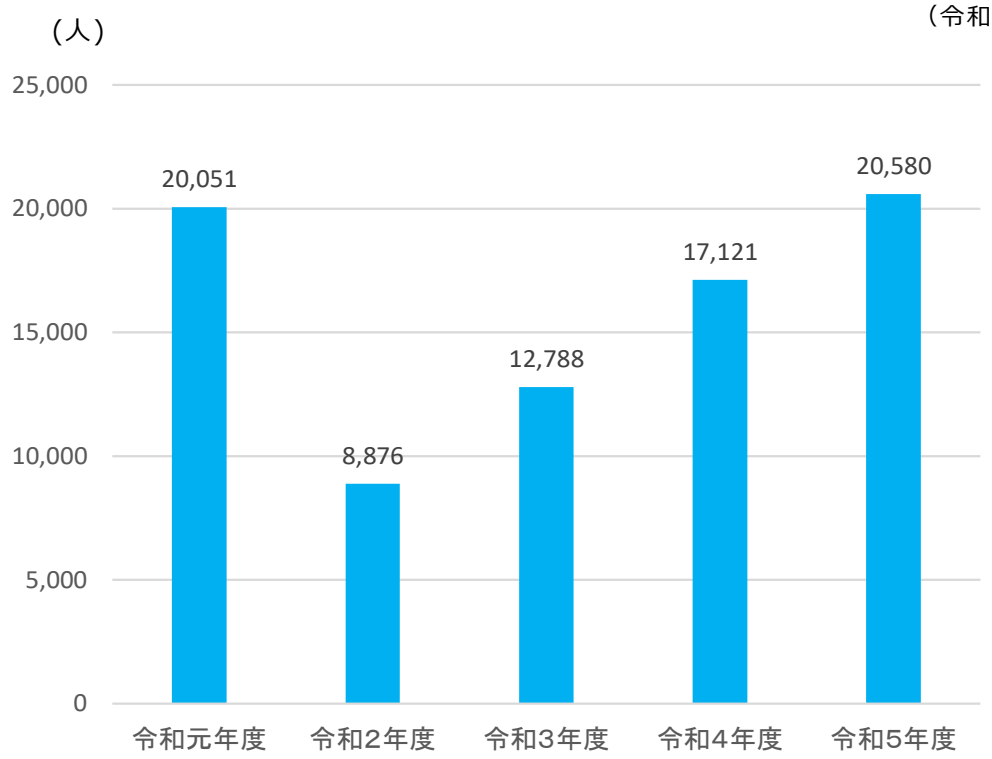
火災又は地震を始めとする災害の未然防止及び災害による被害を軽減するために、市民防災教育の場として平成６年から消防本部１階に防災学習センターを併設しています。

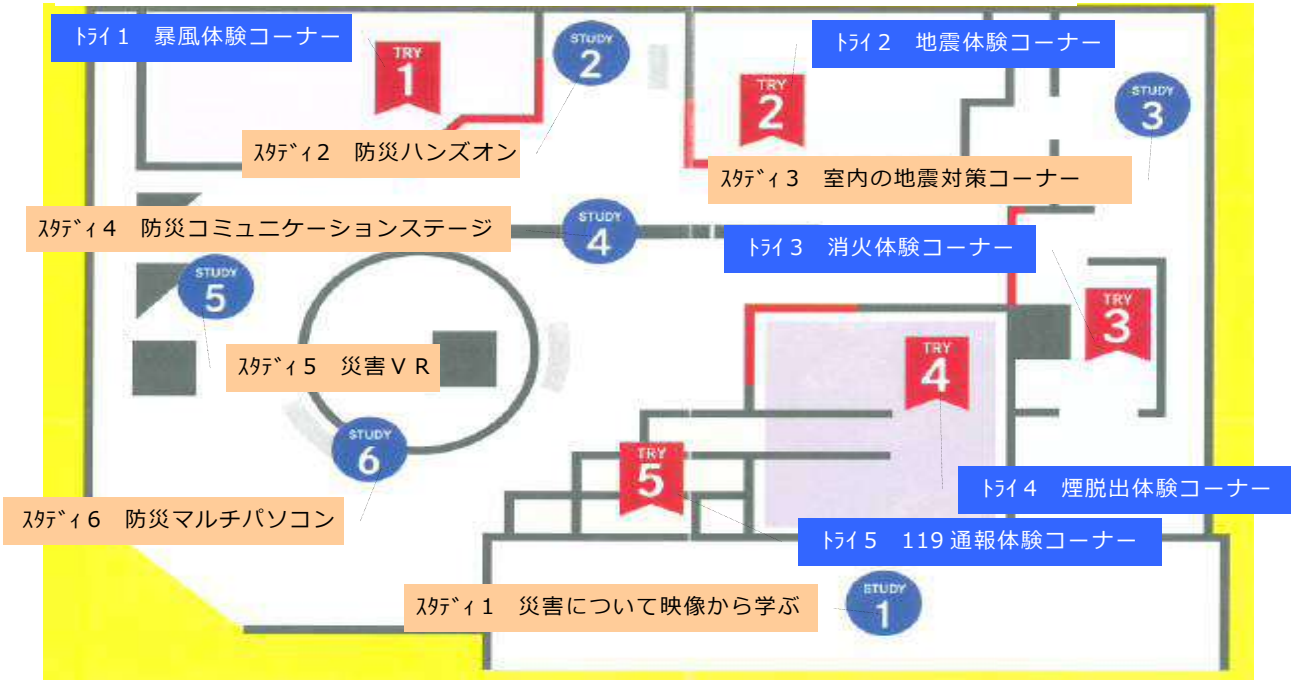
「５つのトライと６つのスタディで防災力を身につけよう！」と題して楽しみながら防災知識を習得し、市民等への防災意識の高揚を図ることを目的に運用しています。

防災学習センター来館者の推移

総来館者数　６４４，０６２人

（令和６年４月１日現在）





●各コーナーの紹介

TRY 1

暴風体験コーナー

街中に吹き荒れる暴風の恐ろしさを体験できます。台風のメカニズムや避難行動の種類やポイントが学べます。疑似雨体験も見物です。

※非常に強い風が吹くため、アクセサリー類や服装にご注意ください。

TRY 2

地震体験コーナー

学校・自宅・事務所、3場面の大型CG映像と連動するリアルな地震が体験できます。対処方法やメカニズムを学び、被災再現シーンで家具倒壊の怖さに気付きます。

TRY 3

消火体験コーナー

臨場感たっぷりの大型映像と消火器・消火栓を使って、ストーブ・天ぷら油・タバコ原因の消火体験ができます。消火の方法やポイントが学べます。小学4年生以上(年齢制限有)

TRY 4

煙脱出体験コーナー

煙の怖さや上手な避難のポイントが学べます。火災で停電したデパートと深夜の住宅火災を想定した音響・照明演出でリアルな脱出体験ができます。

TRY 5

119通報体験コーナー

携帯電話、公衆電話、家庭電話の通報のポイントが学べます。火災・交通事故・水難事故、3つの再現映像で臨場感のある体験ができます。

STUDY 1

災害について映像から学ぶ

水害や地震等の災害についてのDVDを視聴・貸出しています。

STUDY 2

防災ハンズオン

触って、試して、よくわかる実験模型を使って、建物の耐震や震度とマグニチュードの違いなどが楽しく理解できます。

STUDY 3

室内の地震対策コーナー

地震による家具などの転倒や移動、ガラスの飛散を防ぐグッズ、通電火災対策機器を紹介しています。

STUDY 4

防災コミュニケーションステージ

備蓄品や非常持出品、防災パンフレット、ハザードマップなどの実物資料の展示閲覧や災害避難情報の種類、自主防災組織について紹介しています。

STUDY 5

災害VR

VRゴーグルを装着し、災害を疑似体験することができます。

STUDY 6

防災マルチパソコン

パソコンで防災ノウハウがどれだけ身についたか、楽しいクイズで復習ができます。結果は、お持ちのスマートフォンでQRコードを読み取ることで終了証を表示することができます。

◆　防火対象物数

消防は、防火対象物*に関する火災予防上の実態を具体的に把握し、それを基に災害の未然防止及び被害の軽減を図ります。そのため、定期的に防火対象物を立入検査し、避難経路又は消防用設備等の消防法令への適合状況を把握し、当該防火対象物の関係者に対して違反の是正又は防火に関する指導を行っています。

防火対象物は年々増加するとともに、建物も大規模化及び高層化し、用途及び構造も複雑になっています。当市では、防火対象物を査察対象物*（第１種から第３種）とその他の防火対象物に分類し、その規模及び危険性等に応じて立入検査を実施しています。

＊防火対象物・・・建築物その他の工作物又はこれらに属するもの等

＊査察対象物・・・防火対象物のうち計画的に査察を実施するものとして、消防長が別に定めるもの

●消防署別防火対象物数　　令和６年４月１日現在（棟）

消防署別 区分	北消防署	中消防署	南消防署	足助消防署	合計
第１種査察対象物	223	356	225	97	901
第２種査察対象物	772	632	1,497	138	3,039
第３種査察対象物	1,500	1,975	1,940	346	5,761
その他の防火対象物	1,544	2,071	2,075	344	6,034
計	4,039	5,034	5,737	925	15,735

１．第１種査察対象物とは、特定防火対象物（百貨店、旅館、病院等の多数の者が出入するもの）で延べ面積 1,000 ㎡以上のもの、前記以外の防火対象物定期点検報告対象物及び表示制度対象物
２．第２種査察対象物とは、上記１以外の防火対象物で延べ面積 700 ㎡以上のもの（共同住宅、学校等を除く）
３．第３種査察対象物とは、上記１、２以外の防火対象物で防火管理者の選任義務又は自動火災報知設備等の設置義務があるもの等

◆　消防用設備等の点検報告制度

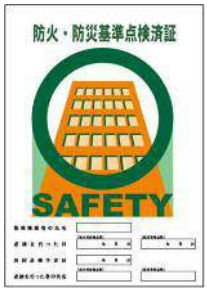
消防用設備等は、いついかなる場合に火災が発生しても確実に作動するよう、日ごろの維持管理が十分に実施されていることが大切です。消防法では、防火対象物の関係者に対し、消防用設備等の定期的な点検だけでなく不備事項の整備を含め、適正な維持管理を行うことを義務付けています。

また、火災が発生した場合に人命に危険を及ぼす確率が高いものを特定防火対象物とし、それ以外の防火対象物と区分して消防本部へ報告する期間を定めています。

消防用設備等の点検を知識、技術の未熟な者が実施すると、効果が期待できないだけでなく、機能の低下が生じる可能性があります。そこで一定規模以上の防火対象物については、消防設備士又は消防設備点検資格者による点検が必要とされており、その他の防火対象物についても、これに準じて点検を行うよう指導しています。

◆　防火対象物定期点検報告制度

この制度は、火災危険度が高い一定の用途、規模の防火対象物について、防火管理者の選任や消防計画の作成、避難施設や消防用設備等の維持管理等、防火管理の状況を毎年１回防火対象物点検資格者*に点検させ、その結果を消防機関に報告するものです。



点検の結果、防火対象物が点検基準に適合している場合には、その旨の表示をすることができます。

当市においても、市民が安心して防火対象物を利用できるように、関係者に対し、制度の理解と普及を呼びかけるとともに、適切な防火管理体制の構築を指導しています。

＊防火対象物点検資格者・・・火災予防に関する専門知識を有し、必要な講習等を修了した者

◆　防災管理点検報告制度

南海トラフ地震等の大規模災害時には、火災と異なる対応が必要となるとともに、同時多発的に火災や建物倒壊からの救出事案が発生すると考えられることから、事業所における自助体制の確立が必要不可欠となります。

近年では多数の人が利用する大規模・高層化された防火対象物が増加しており、このような防火対象物では、地震等の災害時における消火活動、通報連絡、避難誘導、救出・救護について、より高度で複雑な対応が必要となります。また、これらを想定した訓練、転倒防止及び備蓄品の管理など、適切な対策が施されていない場合の消防防災上のリスクは極めて大きいと考えられます。

この制度は、避難施設の維持管理、棚及び什器の転倒防止措置、地震等の災害発生時にその被害を軽減させるため措置がとられているか等、大規模建築物等に選任が義務付けられた防災管理者を中心に行われる防災管理業務の状況を、毎年１回防災管理点検資格者*に点検させ、その結果を消防機関に報告するものです。防災管理点検も防火対象物点検と同様に、防火対象物が点検基準に適合している場合には、その旨の表示をすることができます。

先述の防火対象物定期点検報告と防災管理点検報告は異なるものであり、対象となる建物の基準が違うため、両方実施しなくてはならない対象物もあります。

＊防災管理点検資格者・・・防災管理に関する専門知識を有し、必要な講習等を修了した者

●防火対象物点検又は防災管理点検報告を要する管理権原者数

防火対象物点検	防災管理点検
４６０	１３１

＊１の防火対象物に複数の管理権原者がいる場合は、管理権原者ごとに点検・報告する必要があります。

◆　消防同意・消防用設備等の検査件数

消防法の規定により建築物の新築、増築、改築等を行う場合には、申請時に消防機関の同意が必要とされています。

また、防火対象物のうち一定の規模以上のものに対して、消防用設備等を設置する際の消防検査を義務付け、消防法令を遵守することを規定しています。

●消防同意　　令和６年３月３１日現在

区分	新築	増築	改築	移転	用途変更	修繕	模様替	その他	合計
件数	306	103	1		5		1	22	438

●消防用設備等の検査　　令和６年３月３１日現在

区分		件数	区分		件数
消火設備	消火器	180	警報設備	火災報知設備	28
	屋内消火栓設備	30		非常警報設備	78
	スプリンクラー設備	47	避難設備	避難器具	59
	水噴霧消火設備			誘導灯	332
	泡消火設備	4	その他	消防用水	5
	不活性ガス消火設備	4		排煙設備	1
	ハロゲン化物消火設備	4		連結散水設備	1
	粉末消火設備	28		連結送水管	13
	屋外消火栓設備	15		非常コンセント設備	3
	動力消防ポンプ設備	11		無線通信補助設備	
警報設備	自動火災報知設備	466		令２９条の４	37
	ガス漏れ火災警報設備	3		採水口	3
	漏電火災警報器				
合計					1,352

＊件数は一定の規模未満の防火対象物で実施した消防検査(任意)を含む

◆　危険物施設設置数

近年、危険物の使用は多種多様化し、事業所等で幅広く利用されるとともに、私たちの生活にも深く浸透しています。危険物施設における事故は、一旦発生すれば甚大な被害をもたらす恐れがあり、その安全確保の重要性は益々増大しています。

当市は、自動車関連を基盤として発展した産業に関係する危険物施設が多く、一般取扱所、給油取扱所、屋内貯蔵所の順となっています。

こうした危険物施設に対して、許認可審査、完成検査、立入検査等を通じて、危険物施設等の安全管理指導を行い、安全で安心な市民生活の確保を目指しています。

●危険物施設設置状況　　令和６年３月３１日現在（施設）

区分／管轄署所	製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	合計
北消防署		17	2	5	18		10		20	1	14	87
藤岡小原分署	5	31	56	14	19		11	4	18		32	190
保見出張所		10	12	2	4	1	9		14		4	56
力石出張所	1	11	3		3	1	7	2	18		11	57
中消防署		27	8	7	38		1	4	20		53	158
東分署		5	2	1	7		5		7	1	1	29
逢妻分署		8			3		2	1	8		9	31
松平出張所		2			5		4		2		2	15
南消防署		12	8	20	21	1	2	3	23		24	114
西分署		35	12	2	16		10	4	28		34	141
末野原分署	3	7	6	1	4		7		14		6	48
高岡出張所	1	33	21	24	17	2	10	8	38		50	204
足助消防署		2	3	2	5		5		7		1	25
旭出張所			1	1	7		1		4			14
稲武出張所		2	1	2	4		1		8			18
下山出張所		7			3	2	2		6		1	21
合　　計	10	209	135	81	174	7	87	26	235	2	242	1,208

◆　圧縮アセチレンガス等の設置状況

令和６年３月３１日現在（件）

圧縮アセチレンガス等					
圧縮アセチレンガス	無水硫酸	液化石油ガス	生石灰	毒物	劇物
87	8	3,929	12	30	65

◆　指定可燃物等及び少量危険物の設置状況

令和６年３月３１日現在（件）

指定可燃物等					少量危険物	
可燃性固体類	可燃性液体類	合成樹脂類	再生資源燃料	その他		移動タンク
15	111	170	4	112	2,377	217

◆　製造所等に対する立入検査の状況

施設数：令和６年３月３１日現在　　実施数：令和５年度実施数

製造所等の別	合計	製造所	貯蔵所								取扱所					
			小計	屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	小計	給油	第一種販売	第二種販売	移送	一般
施設数	1,208	10	719	209	135	81	174	7	87	26	479	235	2			242
実施数	638	7	198	66	23	19	71	0	11	8	433	88				345

Ⅵ. 災 害 対 策

大規模災害発生時における物資供給等の協力に関する協定

◆　防災

「東日本大震災」や「熊本地震」等、近年発生した大規模災害を教訓に海洋型大地震、内陸直下型激甚大地震を含めた各種の対策を進めています。

大規模地震等が発生した際には、防災関係機関の防災活動だけでは困難が予想されます。被害を最小限に食い止めるために市域内の公共的団体等の防災に関する組織及び住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織の充実を図っています。

◆　自主防災組織数

大規模地震等の災害が発生した場合、災害から生命や財産を守るためには、地域住民が団結し、自助、互助の精神を発揮して助け合うことが不可欠であり、各自主防災会が自発的努力に基づき組織的に行動することが大切です。

こうしたことから、主に自治区を単位として、地元住民による自主防災組織が編成されています。

●自主防災会数等　　令和６年４月１日現在

自主防災会数	総自治区数	自主防災会結成済自治区数	組織率（%）
３２１	２９８	２９８	１００

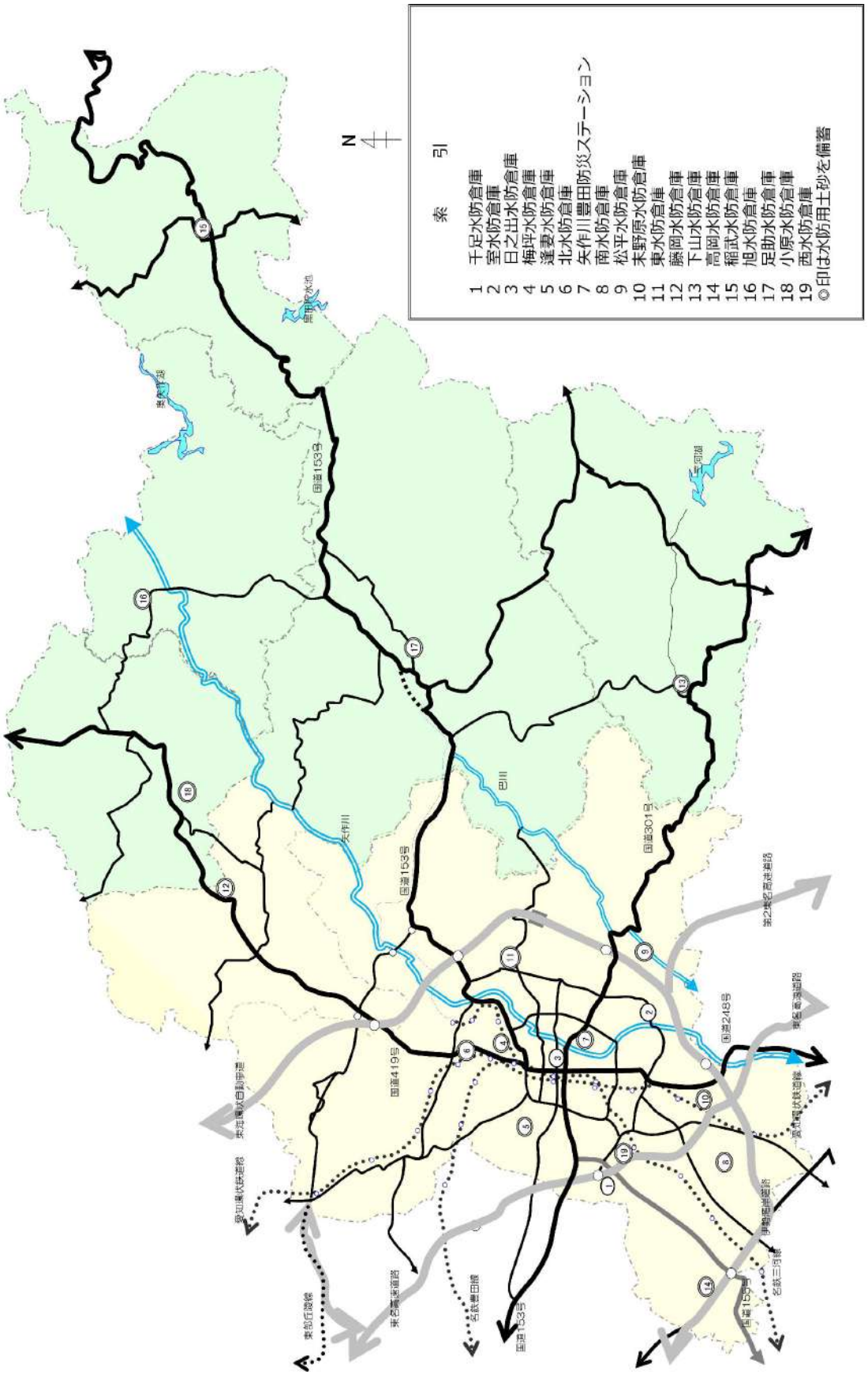
◆　水防倉庫

豊田市水防計画に基づき、予測できない大雨による堤防の決壊や土石流を考慮し、水防倉庫（１９か所）を設置して資機材を備蓄しています。

●水防倉庫　　（※印は署所併設外）

年　度	名　　称	水防用土砂置場
昭和５４年度	千足※	無
昭和５９年度	室※	無
昭和６３年度	日之出※	無
平成　２年度	梅坪※	有
平成１３年度	逢妻	有
平成１４年度	北、矢作川豊田防災ステーション※	有
平成１５年度	南	有
平成１６年度	松平	有
平成１７年度	末野原	有
平成１８年度	東	有
平成１９年度	藤岡	有
平成２０年度	下山	有
平成２４年度	高岡、稲武	有
平成２８年度	旭	有
平成２９年度	足助	有
令和　２年度	小原※	有
令和　４年度	西	有

●水防倉庫の配置図


索　引
1 千足水防倉庫
2 室水防倉庫
3 日之出水防倉庫
4 梅坪水防倉庫
5 蓮妻水防倉庫
6 北水防倉庫
7 矢作川豊田防災ステーション
8 南水防倉庫
9 松平水防倉庫
10 末野原水防倉庫
11 東水防倉庫
12 藤岡水防倉庫
13 下山水防倉庫
14 高岡水防倉庫
15 稲武水防倉庫
16 旭水防倉庫
17 足助水防倉庫
18 小原水防倉庫
19 西水防倉庫
◎印は水防用土砂を備蓄
N
矢作川
巴川
国道153号
国道419号
国道301号
国道248号
国道155号
国道153号
第2東名高速道路
東名高速道路
名鉄豊田線
名鉄三河線
愛知県伊勢湾岸自動車道
愛知県伊勢湾岸道路
東名高速道路
東海道新幹線
三河湖

◆ 応援協定

市町村は、当該市町村の区域内で発生した災害に対し、自らその責を果たさなければなりませんが、火災等の災害が市町村の境界付近で発生した場合や地震、風水害、林野火災等のようにその災害が大規模で広域に及ぶ場合には、個々の市町村の消防力のみでは十分な対応ができないおそれがあります。

このような場合には市域を越えて消防力の運用を図る必要があり、近隣市町村等との間で資機材の提供及び人員の派遣の協定を結び、万一に備えています。

●近隣市町村等との各種応援協定

応援協定名	協定締結消防機関名 協定締結団体	締結年月
愛知県内広域消防相互応援協定	愛知県内２５市３町７組合１本部１連合 ＊協定締結団体は、締結当時です。	平成１５年４月
愛知県下高速道路における消防相互応援協定	１９市１町４組合１連合	平成３０年７月
西三河地区消防相互応援協定	岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幡豆郡一色町、吉良町、幡豆町、額田郡幸田町、三好町、尾三消防本部、幡豆郡消防組合、衣浦東部広域連合 ＊協定締結団体は、締結当時です。	平成１９年４月
愛知県防災ヘリコプター支援協定	豊田市、愛知県	平成１９年８月
豊田市・土岐市消防相互応援協定	豊田市、土岐市	平成１０年９月
豊田市・瑞浪市消防相互応援協定	豊田市、瑞浪市	平成１０年９月
消防・防災に関する応援協定	豊田市、トヨタ自動車株式会社	平成１３年１０月
衣浦豊田道路における消防相互応援協定	豊田市、衣浦東部広域連合	平成１６年４月
豊田市・恵那市消防本部消防相互応援協定	豊田市、恵那市	平成１７年４月
豊田市・南信州広域連合消防本部消防相互応援協定	豊田市、南信州広域連合	平成１７年４月

◆　消防用ドローンの活用状況

	災害出動	災害対応訓練
活用回数	２７回	７９回
林野火災１０件、建物火災７件、その他火災３件、水難救助２件、山岳救助３件、その他救助１件、探索１件		
飛行日数／累計運行時間	９０日　／　５３時間５５分	

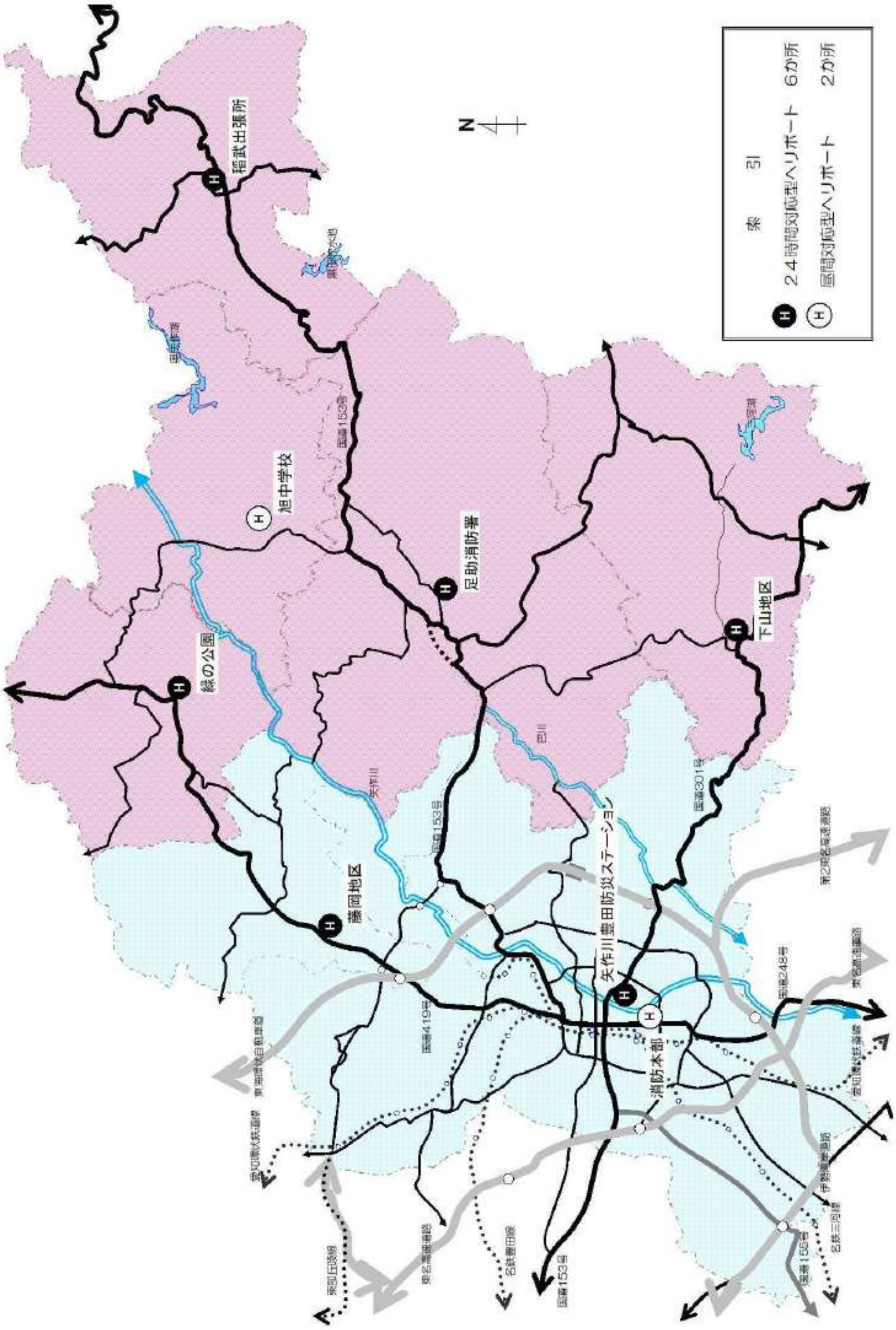
◆　ヘリポートの設置

広大な面積を有する当市は、大規模災害が発生した時には道路等が分断されて孤立する地域の発生が懸念されます。そのため、ヘリコプターを活用できる２４時間対応型ヘリポート６か所、昼間対応型ヘリポート２か所を整備し、迅速に重症傷病者の医療機関への収容や救援物資の搬送ができる体制を構築しています。

地区名	名称	所在地	種別	自衛隊ヘリ使用承諾※	運用開始年月
足助地区	足助消防署ヘリポート	桑田和町中貝戸 6	24 時間対応型		平成 20 年４月
小原地区	緑の公園ヘリポート	市場町陣出 875	24 時間対応型	○	平成 21 年１月
藤岡地区	藤岡地区ヘリポート	深見町岩花 1067-1	24 時間対応型	○	平成 21 年３月
豊田地区	矢作川豊田防災ステーションヘリポート	森町 1-90	24 時間対応型	○	平成 21 年４月
下山地区	下山地区ヘリポート	大沼町八沢 118-1	24 時間対応型		平成 23 年 11 月
稲武地区	稲武出張所ヘリポート	稲武町宮ノヒラ 8-13	24 時間対応型		平成 25 年８月
旭地区	旭中学校ヘリポート	杉本町羽根 1-1	昼間対応型		平成 27 年４月
豊田地区	消防本部ヘリポート	長興寺 5-17-1	昼間対応型		平成 30 年４月

※自衛隊からの依頼を受け、豊田市が使用を承諾しているヘリポートです。自衛隊が事前に大型ヘリ等の離発着が可能かを調査しています。

●ヘリポート配置図


稲武出張所
旭中学校
足助消防署
下山地区
緑の公園
藤岡地区
矢作川豊田防災ステーション
消防本部
24時間対応型ヘリポート　6か所
昼間対応型ヘリポート　2か所

令和５年度　緊急消防援助隊愛知県大隊合同訓練（於：幸田町）

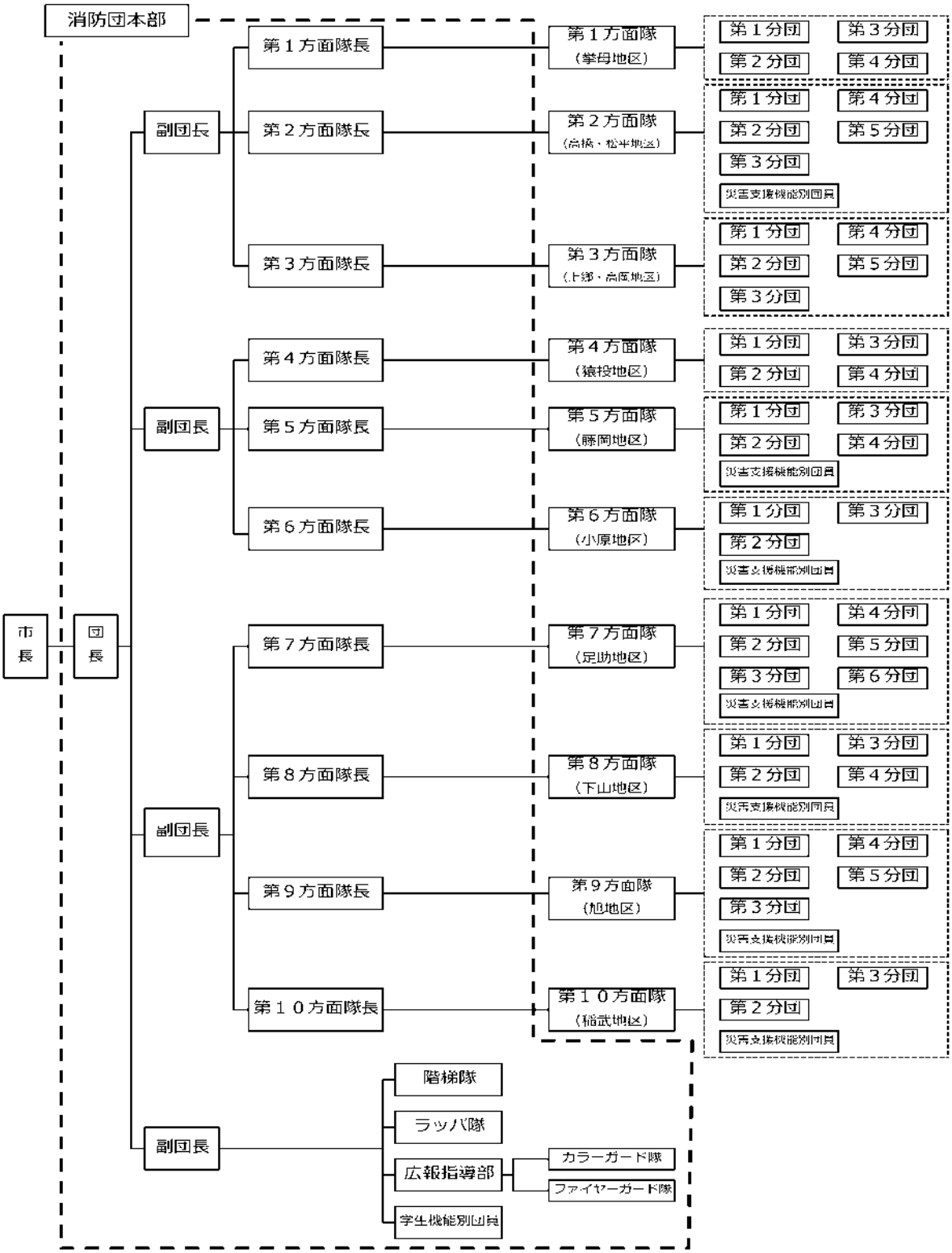
小型救助車（車両名：とよた足助４２）

Ⅶ. 消　防　団

◆　豊田市消防団組織図

豊田市消防団は、各地区を単位として、１０方面隊・４３分団・１１７部で編成されています。団員数は、令和６年４月１日現在、団長以下１，８５９人（うち女性４１人）となっています。

消防団は、火災･風水害等の際の活動を始めとして、地域住民に対する防災意識の普及等を行い、安全な地域づくりの一端を担っています。



◆　消防団格納庫

●消防団格納庫の面積等

令和６年４月１日現在

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第1方面隊	第1分団	元　城	78.00	78.00
		竹　生	70.00	116.00
		平　芝	52.80	52.80
		梅　坪	50.82	50.82
	第2分団	樹　木	44.40	44.40
		小　坂	39.75	74.54
		下市場	29.83	57.50
		金　谷	50.82	50.82
		長興寺	29.46	54.66
	第3分団	宮　口	39.75	74.54
		宮　上	52.50	52.50
		宮	42.23	42.23
		本　新	50.82	50.82
		千　足	52.80	52.80
		深　田	40.07	75.39
		本　地	52.50	52.50
	第4分団	今	52.20	52.20
		前　山	37.64	37.64
		渡　合	22.68	22.68
		室	23.49	23.49
第2方面隊	第1分団	高　橋	37.00	74.00
		上　野	40.07	74.47
		市　木	45.36	45.36

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第2方面隊	第2分団	扶　桑	50.82	50.82
		平　井	34.39	34.39
		百　々	21.37	41.24
		岩　滝	39.75	74.54
		池　田	50.82	50.82
		矢　並	29.63	55.67
		山　中	9.45	9.45
	第3分団	野　見	29.46	54.66
		広　川	52.80	52.80
		古瀬間	76.19	76.19
		大　見	29.46	54.66
	第4分団	九久平	32.55	59.20
		幸　海	39.75	74.54
		穂　積	25.92	25.92
		岩　倉	46.84	46.84
		桂　野	88.83	88.83
	第5分団	林　添	29.62	55.66
		滝　脇	42.15	42.15
		長　沢	21.13	21.13
		豊　松	52.95	52.95
		松　平	9.45	9.45
		坂上(仁王)	36.40	72.80
		坂上(日明)	24.70	24.70
		石　楠	21.28	21.28

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第3方面隊	第1分団	鴛　鴨	52.50	52.50
		大　林	40.07	74.52
		渡　刈	40.07	75.39
		豊　栄	39.75	74.54
		永　覚	51.60	51.60
	第2分団	上　郷	66.24	66.24
		畝部東(中切)	41.59	41.59
		桝塚東	31.73	31.73
		配　津	45.00	45.00
		福　受	40.07	74.47
		和　会	52.20	52.20
	第3分団	土　橋	39.75	74.54
		本	53.70	53.70
		中	43.15	43.15
	第4分団	若　林	26.04	53.51
		中　根	27.47	27.47
		花　園	40.07	73.02
	第5分団	堤	40.06	75.37
		上　丘	50.82	50.82
		西　岡	52.80	52.80
		前　林	67.17	67.17
		駒　場	57.60	57.60
		中　田	50.82	50.82
第4方面隊	第1分団	八　草	51.90	51.90
		広　幡	46.08	46.08
		大　畑	38.30	69.56
		篠　原	40.07	75.39
		保　見	50.82	50.82

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第4方面隊	第1分団	東保見	50.80	50.80
		田　籾	40.07	75.39
		貝　津	76.68	76.68
		伊　保	40.07	74.47
	第2分団	猿　投	29.63	55.67
		加　納	45.50	45.50
		亀　首	40.00	73.00
		舞　木	50.80	50.80
		乙　部	39.75	74.54
	第3分団	四　郷	39.75	79.50
		御　船	52.80	52.80
		越　戸	40.04	74.52
		花　本	40.06	75.37
		西広瀬	29.60	55.60
	第4分団	東広瀬	40.07	74.47
		小　峯	52.20	52.20
		力　石	50.82	50.82
		藤　沢	30.00	43.50
		富　田	24.30	24.30
		寺　下	73.76	73.76
		成　合	12.60	12.60
		中　金	52.80	52.80
		芳　友	50.82	50.82
		野　口	41.54	41.54
		中　切	25.92	25.92

消　防　団

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第5方面隊	第1分団	木　瀬	98.25	98.25
		藤岡飯野	83.12	83.12
	第2分団	西中山	39.74	74.52
		深　見	26.88	26.88
	第3分団	御　作	94.70	122.80
		上川口	65.00	98.90
	第4分団	三　箇	98.64	98.64
		折　平	40.07	74.37
		白　川	85.80	92.50
第6方面隊	第1分団	大　平	40.07	74.52
		乙ヶ林	76.19	76.19
		北篠平	28.80	28.80
	第2分団	上仁木	54.45	54.45
		雑　敷	46.98	46.98
		永太郎	40.07	74.47
	第3分団	小　原	78.75	78.75
		市　場	53.18	53.18

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第7方面隊	第1分団	足助(田町)	93.00	93.00
		山　谷	57.00	57.00
	第2分団	足助(宮平)	40.07	74.37
		葛　沢	28.00	28.00
	第3分団	近　岡	86.00	172.00
		国　谷	76.19	76.19
	第4分団	則　定	52.65	52.65
		上佐切	32.76	65.52
	第5分団	竜　岡	50.00	50.00
		明　川	40.47	74.87
		五反田	16.00	16.00
		大多賀	31.00	31.00
	第6分団	新　盛	76.20	76.20
		大　蔵	66.00	66.00
		大河原	31.68	31.68
		御　蔵	35.00	35.00
		月　原	45.54	45.54

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第8方面隊	第1分団	下山田代	87.00	87.00
		花　沢	24.80	24.80
	第2分団	大　沼	58.18	107.48
	第3分団	蘭	23.40	23.40
		和　合	91.49	91.49
	第4分団	梨　野	14.58	14.58
		阿　蔵	47.19	47.19
		立　岩	62.90	62.90
		野　原	21.49	21.49
		羽　布	92.75	92.75
第9方面隊	第1分団	田津原	21.49	21.49
		小　渡	77.00	77.00
	第2分団	笹　戸	76.19	76.19

方面隊	分団	班	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
第9方面隊	第3分団	杉　本	34.02	34.02
		太　田	4.86	4.86
		加　塩	9.45	9.45
		榊　野	40.00	80.00
	第4分団	槙　本	40.07	74.47
		伊　熊	19.44	19.44
	第5分団	浅　谷	50.00	50.00
第10方面隊	第1分団	稲　武	102.00	102.00
		川　手	56.25	56.25
		大野瀬	63.75	63.75
	第2分団	小田木	121.87	121.87
		黒　田	75.54	75.54
		御所貝津	40.07	74.47
	第3分団	武　節	27.38	27.38
		桑　原	72.15	72.15

◆　消防団車両・小型動力ポンプ等

消防団には、消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付積載車及び小型動力ポンプが適正に配置されており、災害時には地域のニーズに応え大きな機動力となるようその活動が期待されています。

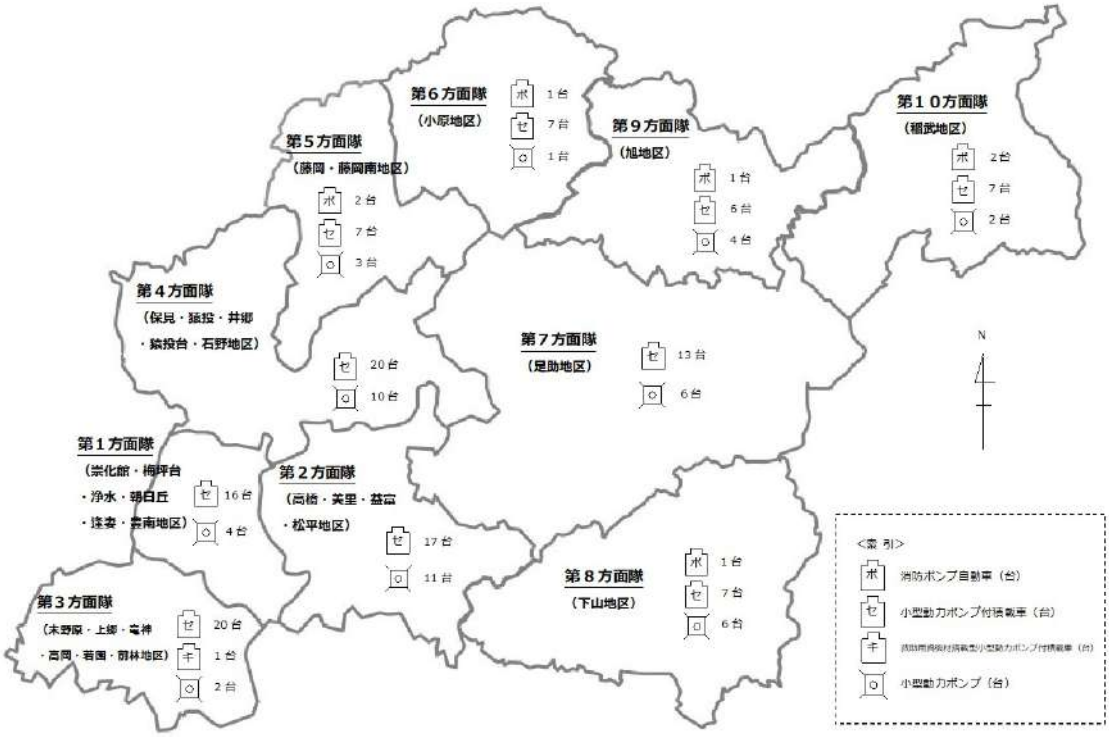
消防団における機械力の整備状況は消防ポンプ自動車７台、小型動力ポンプ付積載車１２０台、救助用資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車１台、小型動力ポンプ４９台及び指揮車１台となっています。

●消防団の車両・小型動力ポンプの配置

分　　団	車両及び小型動力ポンプ			
団　本　部	指　揮　車	1		
■第１方面隊（崇化館・梅坪台・浄水・朝日丘・逢妻・豊南）				
第　1　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4		
第　2　分　団	小型動力ポンプ付積載車	5		
第　3　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	3
第　4　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	1
■第２方面隊（高橋・美里・益富・松平）				
第　1　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第　2　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	4
第　3　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4		
第　4　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	2
第　5　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	5
■第３方面隊（末野原・上郷・竜神・高岡・若園・前林）				
第　1　分　団	小型動力ポンプ付積載車	5		
第　2　分　団	小型動力ポンプ付積載車	5	小型動力ポンプ	1
第　3　分　団	小型動力ポンプ付積載車 救助用資機材搭載型小型動力ポンプ付積載車	2 1		
第　4　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第　5　分　団	小型動力ポンプ付積載車	5	小型動力ポンプ	1
■第４方面隊（保見・猿投・井郷・猿投台・石野）				
第　1　分　団	小型動力ポンプ付積載車	6	小型動力ポンプ	3
第　2　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	1
第　3　分　団	小型動力ポンプ付積載車	4	小型動力ポンプ	1
第　4　分　団	小型動力ポンプ付積載車	6	小型動力ポンプ	5
■第５方面隊（藤岡・藤岡南）				
第　1　分　団	消防ポンプ自動車	2	小型動力ポンプ	2
第　2　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第　3　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第　4　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3		

分　　団	車　両　及　び　小　型　動　力　ポ　ン　プ			
■第６方面隊（小原）				
第　１　分　団	消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ付積載車	1 2	小型動力ポンプ	1
第　２　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第　３　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2		
■第７方面隊（足助）				
第　１　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第　２　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第　３　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2		
第　４　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第　５　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	2
第　６　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	3
■第８方面隊（下山）				
第　１　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第　２　分　団	消防ポンプ自動車	1	小型動力ポンプ	1
第　３　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	1
第　４　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3	小型動力ポンプ	3
■第９方面隊（旭）				
第　１　分　団	消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ付積載車	1 1	小型動力ポンプ	1
第　２　分　団	小型動力ポンプ付積載車	1		
第　３　分　団	小型動力ポンプ付積載車	2	小型動力ポンプ	2
第　４　分　団	小型動力ポンプ付積載車	1	小型動力ポンプ	1
第　５　分　団	小型動力ポンプ付積載車	1		
■第１０方面隊（稲武）				
第　１　分　団	消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ付積載車	1 3	小型動力ポンプ	1
第　２　分　団	小型動力ポンプ付積載車	3		
第　３　分　団	消防ポンプ自動車 小型動力ポンプ付積載車	1 1	小型動力ポンプ	1

●消防団機械器具の配置図



◆　消防団協力事業所表示制度

豊田市消防団の活動に協力している市内の事業所等を「消防団協力事業所」として認定し、消防団協力事業所表示証を交付する制度です。

事業所の消防活動への社会貢献を広めるとともに、事業所の協力を得ることで地域防災力の強化を推進することを目的としています。

◆　豊田市消防団応援の店

地域のために頑張っている消防団員を支援するため、事業所に「消防団応援の店」として登録し、特典やサービスなどの協力を通じて、消防団を応援していただくものです。消防団員に貸与している豊田市消防団員証を、企業や店舗など「消防団応援の店」で飲食等利用した際に提示することにより、消防団員がお店から様々な特典を受けられます。

◆　豊田市学生消防団活動認証制度

消防団活動を通じて地域社会へ多大なる貢献をした大学生、大学院生又は専門学校生の功績を市が認証し、就職活動支援の一環として本人用の認証状と企業提出用の認証証明書を交付して就職活動を支援する制度です。

Ⅷ. 消防音楽隊・関係団体

少年消防クラブ愛知県消防学校一日入校

◆　消防音楽隊

消防音楽隊は、昭和５１年１０月の結成以来、消防の諸行事、式典を始め市主催行事等において、演奏活動を通じて防火・防災思想の普及啓発に努め、平成１５年度からは女性消防団員によるカラーガード隊「ひまわりフェアリーズ」と共演し、平成１６年度には一般公募による市民演奏者を迎えて市民及び消防団員と一緒になって活動しています。

●階級別編成　　令和６年４月１日現在

階級等	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	市民演奏者	合計
人数	1	5	7	4	2	17	36

●パート別編成　　令和６年４月１日現在

パート	人数			パート	人数		パート	人数	
	講師	職員	市民		職員	市民		職員	市民
指揮者	1			テナーサックス	2		ホルン	1	2
フルート			3	バリトンサックス	1		ユーフォニアム	1	2
クラリネット		2	2	トランペット	3	3	チューバ	2	
アルトサックス		1	1	トロンボーン	3	3	パーカッション	3	1

●令和５年度活動状況

活動回数	内訳	
	練習回数	派遣回数
４９	３５	１４

※派遣回数１４回のうち５回にあっては、小編成で対象を限定した啓発を実施

◆　関係団体

防火危険物安全協会

平成１３年に防火協力会と危険物安全協会が統合し、防火危険物安全協会が発足しました。平成１７年の市町村合併に伴い、加茂危険物安全協会及び足助地域危険物安全協会とも合併し、現在の規模となりました。消防機関と協力して防火管理及び危険物の安全管理を徹底することで、火災等の災害を防止し、社会公共の安全並びに福祉の増進に寄与することを目的としています。

●協会の現況　　令和６年４月１日現在

防火危険物安全協会の会員数	３２５

●令和５年度の主な活動実績

活　動　日	活　　動　　内　　容
5月１９日	第２３回定期総会
6月４日～１０日	危険物安全週間（ポスターによる危険物災害予防の啓発）
１０月２６日	第５８回消火競技会
１１月９日～１５日	秋の火災予防運動（ポスターによる火災予防の啓発）
１１月１１日	一日消防長委嘱式・街頭防火宣伝（イオンスタイル豊田）
1月１３日	出初・観閲式＆とよた消防フェスタ
2月2日～2月3日	視察研修（関西方面）
3月1日～7日	春の火災予防運動（ポスターによる火災予防の啓発）

女性消防クラブ

「防火はお茶の間（わが家）から」を合言葉に家庭の主婦を中心として結成された女性消防クラブは、防火、防災教室で知識・技術を修得し、住宅用火災警報器をはじめとする住宅用防災機器の普及啓発や防火意識の高揚を図る活動を推進するなど、家庭や地域の防火、防災活動に積極的に取り組んでいます。

●女性消防クラブの現況　　令和６年４月１日現在

ク　ラ　ブ　数	5
クラブ人員数	１１５

●令和５年度の主な活動実績

活　動　日	活　　動　　内　　容
1月１３日	出初・観閲式＆とよた消防フェスタ
通年	各クラブにて啓発活動等

少年消防クラブ

少年消防クラブは、市内の小学５年生から中学３年生までを対象とし、防火・防災の知識を身につけるとともに、防火・防災思想の普及を図ることを目的に結成されています。

●少年消防クラブの現況

令和６年４月１日現在

	合　計	小 学 校	中 学 校
ク　ラ　ブ　数	１０３	７５	２８
クラブ人員数	１９，２７１	７，５２８	１１，７４３

●令和５年度の主な活動実績

活　動　日	活　　動　　内　　容
６月～７月	着衣泳講習会
８月８日	愛知県消防学校一日入校
８月２６日	石野中学校　防災キャンプ
９月１６日、１７日	全国少年消防クラブ交流大会
夏 休 み 期 間 中	防火作品（ポスター・習字）の作成
１月１３日	消防出初・観閲式＆とよた消防フェスタ

幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期において火の取扱い方を正しく身に付けることにより、「火遊び等による火災の防止」とともに「消防の仕事を理解してもらう」ことを目的として結成されています。

幼年消防クラブでは、毎年、リスク回避プログラムの実施、「防サイ君」による地震体験、花火教室の開催等を通じて火災予防に関することを学習し、成果をあげています。

●幼年消防クラブの現況

令和６年４月１日現在

	合　計	公立幼稚園・こども園	私立幼稚園・こども園	認定こども園	新制度幼稚園
ク　ラ　ブ　数	98	57	１３	24	4
クラブ人員数	１０，５９４	４，３０２	１，８９３	４，１７７	２２２

●令和５年度の主な活動実績

活　動　日	活　　動　　内　　容
通年	リスク回避プログラムの実施
６月～７月	花火教室
９月	敬老の日カード作成・配布
１０月２２日	消防こども写生大会（消防本部・中消防署）

高校生消防クラブ

高校生消防クラブは、高校生世代の防火防災意識を幅広く向上させることを目的として、平成２９年度に県内で初めて設立しました。市内の高校に通う生徒が防火防災に関するプログラムを通じて、知識や技術を身に付け、学んだことを自分の通う高校で発表し、普及啓発活動につなげます。

●高校生消防クラブの現況

令和５年度中

カリキュラム参加者数	１６９人

●令和５年度の活動実績

活　動　日	活　　動　　内　　容
６月	消防啓発キャラクター・ポスター選手権
７月～１０月	火災予防啓発のぼり制作（足助高校文芸部）+教養
７月～１１月	防火・防災オリジナルかるた制作（衣台高校美術部・英語部）+教養
９月	消防士体験
９月～１月	消火器搬送ロボット制作（豊田工科高校実行委員会）+教養
１２月	ふじの里コンサート＆防火広報（加茂丘高校吹奏学部）+教養
１０月～１月	バーチャル市役所（杜若高等学校）
３月	消防音楽隊合同演奏（豊田南高校吹奏楽部）+防災学習センター体験

〔統計資料〕

消防長点検

第３次豊田市消防整備基本計画　指標（抜粋）

本計画は、効果的かつ効率的に「消防力」の整備を行うことと、充実した消防活動を展開し、市民が安全で安心して暮らせるまちをつくるとともに、市民サービスの一層の向上を図ることを目的に、2018年度から2024年度までの7年間を計画期間として策定しました。

上段：目標値、下段：目標年度（目標年）

基本施策Ⅰ　みんなで防火に取り組むまち

出火率★☆	住宅用火災警報器の設置率（一部設置含む）	高齢者がいる世帯のうち、住宅用火災警報器を設置している割合	放火（疑い含む。）の火災原因の割合☆
2.9 （2024年）	81.2% （2024年度）	81.2% （2024年度）	9.8%以下 （2024年）

火災による死者数（自損除く）☆	新たに啓発に取り組む関係団体数★
0人 （2024年）	12団体 （2021～2024年度）

基本施策Ⅱ　みんなで命を救えるまち

救命率★☆	バイスタンダーによる応急手当実施率	救急車の現場到着所要時間☆	救急患者の病院収容所要時間☆
68.8% （2024年）	72.7%以上 （2024年）	8分30秒以内 （2024年）	38分36秒以内 （2024年）

医学的見識による適正に利用した搬送割合	応急手当講習会を開催した小中学校数★	救急隊の出動において救急救命士が複数名で活動できた割合★
80.0%以上 （2024年）	104校 （各年度）	65.0% （2024年度）

基本施策Ⅲ　地域防災力を育むまち

1万人あたりの消防関係登録員数	配備が完了した①安全装備の品目数及び②救助資機材等の品目数★（年度末時点）	校内で防火防災に関する啓発活動を実施している学校数★
800人以上 （2024年度）	①17/17品目 ②11/11品目 （2024年度）	14校 （2021～2024年度）

基本施策Ⅳ　とよたの災害に備えるまち

消防水利整備率★	新たに消火用水を確保した区画数★		外国人における119番通報の認知率
	①防火水槽により確保（7年累計、市整備分）	②水槽付消防車両等により確保（7年累計、市整備分）	
81.5% （2024年度）	①36区画 （2018～2024年度）	②800区画 （2018～2024年度）	80.0% （2024年度）

基本施策Ⅴ　充実した消防サービスが受けられるまち

「消防・救急体制」に「満足」又は「まあ満足している」と回答した市民の割合	消防用ドローン活用数
50.5%以上	210回 （2018～2024年度）

★印：第８次豊田市総合計画に掲載している指標　☆印：第２次豊田市消防整備基本計画から継続する指標

一般会計予算と消防予算の推移

(千円)

区分 年度	一般会計予算〈当初〉	消 防 予 算〈当初〉	比　　率（%）
令和２年度	182，600，000	7，360，300	4．03
令和３年度	179，800，000	7，093，515	3．95
令和４年度	180，100，000	7，099，583	3．94
令和５年度	188，300，000	7，151，362	3．80
令和６年度	195，426，534	8，646，641	4．42

歳入当初予算額（消防本部）の推移

(千円)

年度 区分	令和 ２年度	令和 ３年度	令和 ４年度	令和 ５年度	令和 ６年度
使用料及び手数料	6,907	16,063	17,202	15,406	15,072
国庫支出金	14,931	65,958	78,168	27,959	83,763
県支出金	5,979	7,072	7,221	7,249	8,778
財産収入		370	520	3,860	6,360
諸収入	56,169	59,347	60,737	49,279	54,266
合計	83,986	148,810	163,848	103,753	168,239

歳出当初予算額（消防費）の推移

(千円)

年度 区分		令和 ２年度	令和 ３年度	令和 ４年度	令和 ５年度	令和 ６年度
消防費		7,360,300	7,093,515	7,099,583	7,151,362	8,646,641
目	常備消防費	5,888,680	5,617,721	5,452,425	5,627,163	5,727,235
	非常備消防費	409,239	393,592	427,488	505,949	609,161
	消防施設費	377,653	300,037	529,927	330,459	270,236
	水防費	15,091	4,970	19,470	8,799	3,504
	災害対策費	669,637	777,195	670,273	678,992	2,036,505

人口・世帯当たりの消防予算の推移

区分 年度	消防費 (千円)	人口１人当たり		１世帯当たり	
		人口	１人当たり (円)	世帯数	１世帯当たり (円)
令和２年度	7,360,300	424,053	17,357	182,485	40,334
令和３年度	7,093,515	421,280	16,838	183,167	38,727
令和４年度	7,099,583	418,284	16,973	183,262	38,740
令和５年度	7,151,362	416,747	17,160	184,884	38,680
令和６年度	8,646,641	415,853	20,792	187,545	46,104

＊人口及び世帯数は４月１日の数値

消防職員の年齢

令和６年４月１日現在

階級 年齢	合 計	消 防 正 監	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
合 計	539	1	8	37	74	116	116	116	71
18 歳	1								1
19 歳	3								3
20 歳	2								2
21 歳	2								2
22 歳	15								15
23 歳	10								10
24 歳	18								18
25 歳	14								14
26 歳	27							21	6
27 歳	20							20	
28 歳	17							17	
29 歳	16							16	
30 歳	32							32	
31 歳	21						17	4	
32 歳	25						19	6	
33 歳	19						19		
34 歳	14						14		
35 歳	20					6	14		
36 歳	14					6	8		
37 歳	17					11	6		
38 歳	9					9			
39 歳	10					9	1		
40 歳	6				1	4	1		
41 歳	9				2	6	1		
42 歳	10				1	9			
43 歳	9				4	5			
44 歳	11				5	4	2		
45 歳	15			2	10	3			
46 歳	14				5	7	2		
47 歳	13			1	8	4			
48 歳	18			6	6	5	1		
49 歳	12			6	3	2	1		
50 歳	12			5	6	1			
51 歳	9			4	4	1			
52 歳	8			2	3	3			
53 歳	4				2	2			
54 歳	3		1	2					
55 歳	2		1	1					
56 歳	3		1	1	1				
57 歳	8	1	1	3	3				
58 歳	6		3	1	2				
59 歳	4		1	3					
60 歳	10					10			
61 歳	7				1	2	4		
62 歳	6				3	2	1		
63 歳	7				1	3	3		
64 歳	7				3	2	2		

＊市長部局からの出向職員（３人）、再任用職員（消防司令８人、消防司令補９人及び消防士長１０人）を含む。
＊市長部局への出向職員（２人）を含まない。

消防職員の勤務年数

令和６年４月１日現在

階級 年数	合計	消　防 正　監	消防監	消　防 司令長	消　防 司　令	消　防 司令補	消　防 士　長	消　防 副士長	消防士
合計	539	1	8	37	74	116	116	116	71
1年未満	17								17
1年	14								14
2年	15								15
3年	15								15
4年	20							19	1
5年	20							16	4
6年	20							18	2
7年	20							17	3
8年	25							25	
9年	20						16	4	
10年	23						14	9	
11年	19						15	4	
12年	19						15	4	
13年	19					9	10		
14年	18					6	12		
15年	18					11	7		
16年	11					6	5		
17年	6					3	3		
18年	7				2	5			
19年	9				1	6	2		
20年	6				2	4			
21年	12				5	7			
22年	12				5	7			
23年	12			2	5	3	2		
24年	9			1	3	5			
25年	5			2	2	1			
26年	11			3	3	3	2		
27年	15			6	6	2	1		
28年	17			4	7	5	1		
29年	15			3	7	5			
30年	7			2	1	4			
31年	7			1	2	3	1		
32年	6		1	2	1	2			
33年	7			2	5				
34年	5			2	3				
35年	3	1	1		1				
36年	1			1					
37年	4		3	1					
38年	3				1	2			
39年	6			3	3				
40年	7		2	1	3	1			
41年	3		1	1			1		
42年	12					9	3		
43年	5					2	3		
44年	6				2	2	2		
45年	5				1	3	1		
46年	3				3				

＊市長部局からの出向職員（３人）、再任用職員（消防司令８人、消防司令補９人及び消防士長１０人）を含む。

＊市長部局への出向職員（２人）を含まない。

消防職員の採用状況

昭和４２年	69	6	昭和６３年	282	3	平成２１年	447	18
昭和４３年	78	9	平成 元 年	283	3	平成２２年	454	20
昭和４４年	91	14	平成 2 年	288	5	平成２３年	461	20
昭和４５年	102	13	平成 3 年	293	6	平成２４年	471	24
昭和４６年	116	17	平成 4 年	295	3	平成２５年	477	25
昭和４７年	123	8	平成 5 年	296	3	平成２６年	486	25
昭和４８年	141	21	平成 6 年	299	5	平成２７年	495	23
昭和４９年	169	30	平成 7 年	307	13	平成２８年	495	25
昭和５０年	188	20	平成 8 年	317	13	平成２９年	501	22
昭和５１年	209	22	平成 9 年	322	11	平成３０年	511	24
昭和５２年	224	18	平成１０年	323	7	令和元年	515	25
昭和５３年	233	11	平成１１年	327	6	令和２年	525	23
昭和５４年	249	17	平成１２年	329	8	令和３年	530	15
昭和５５年	260	13	平成１３年	332	12	令和４年	536	16
昭和５６年	266	7	平成１４年	337	11	令和５年	536	14
昭和５７年	273	8	平成１５年	344	12	令和６年	539	17
昭和５８年	273	1	平成１６年	349	6			
昭和５９年	277	5	平成１７年	426	12			

＊消防吏員数は、各年度とも４月１日の数
＊市長部局への出向職員を含まない。
＊平成１６年以前の消防吏員数は、合併前の豊田市の吏員数を表す。

消防職員の資格等取得保有状況

令和６年４月１日現在

資格・免許等	保有者数	資格・免許等	保有者数
衛生管理者	42	小型移動式クレーン運転	266
潜水士	229	特別管理産業廃棄物管理責任者	12
小型船舶操縦士	191	予防技術資格者	44
陸上特殊無線技士	474	救急救命士	149
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	124	救急資格者（救急救命士を含まない）	347
ガス溶接	115		

研修実施状況

■業務別研修

分類・種別	研修名		人数
消防大学校 (2)	救助科第８７期		1
	指揮隊長コース第２８回		1
愛知県 消防学校 (57)	初任科第１１６期		7
	初任科第１１７期		7
	警防科第７２期		4
	予防査察科第６４期		4
	火災調査科第６５期		1
	救急科第１３４期		4
	救急科第１３５期		3
	救急科第１３６期		3
	救助科第５２期		4
	初級幹部科第７２期		4
	はしご自動車等運用科第３７期		2
	はしご自動車等運用科第３８期		1
	地震防災科第１８期		4
	指揮隊科第１２期		4
	外傷・災害対応講習Ａ第３７、３８期		4
	外傷・災害対応講習Ｂ第３９期		1
救急救命士 養成研修 (7)	指導救命士養成研修		1
	救急救命東京研修所		2
	大阪市消防局高度専門教育訓練センター救急救命士養成課程		2
	名古屋市救急救命研修所救急救命士養成課程		2
資格取得 研修 (49)	第二級陸上特殊無線技士養成講習会		1
	二級小型船舶操縦士免許取得講習		4
	二級小型船舶操縦士免許更新（失効）講習		23
	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会		1
	小型移動式クレーン運転技能講習会		4
	危険物取扱者保安講習会		1
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習会		4
	潜水士資格取得		1
	予防技術検定		4
	大型特殊自動車免許取得講習		6
一般研修 (799)	総括 (4)	消防職員の惨事ストレス初級研修	1
		消防職員の惨事ストレス中級研修	1
		ハラスメント相談窓口担当者研修	1
		消防職員安全衛生管理研修会	1
	運転技術 (21)	１年目機関員養成講習	21
	予防・調査 (8)	調査技術会議	1
		火災調査研究発表会	1
		火災調査担当者会議	1
		火災科学セミナー	1
		消防機関事故原因究明技術研修会	1
		違反是正事例発表会（全国消防長会東海支部）	1
		企業防災対策指導研修会	1
		防災啓発中央研修講演会	1

分類・種別	研修名		人数
一般研修 (799)	救急 (694)	救急救命士就業前教育病院実習（豊田厚生病院・トヨタ記念病院）	8
		救急救命士再教育病院実習(豊田厚生病院・トヨタ記念病院・足助病院)	463
		救急生涯教育病院実習（豊田厚生病院・トヨタ記念病院）	44
		救急救命士再教育講習（気管挿管再教育含む）	114
		西三河地区メディカルコントロール協議会包括プロトコール運用教育講習	8
		西三河地区メディカルコントロール協議会薬剤投与プロトコール運用試験	8
		西三河地区メディカルコントロール協議会気管挿管プロトコール運用試験	3
		西三河地区メディカルコントロール協議会処置範囲拡大プロトコール運用試験	8
		救急業務教育指導者試験	4
		救急業務教育指導者講習	8
		愛知県検証担当官等講習	4
		日本臨床救急医学会総会・学術集会	1
		第３２回全国救急隊員シンポジウム	1
		ＩＣＬＳ講習会（豊田厚生病院・トヨタ記念病院）	6
		ＭＣＬＳ講習会	4
		応急手当指導員講習	10
	警防・救助 (72)	海上災害防止センター　CFBT コース	4
		水難救助講習会	4
		陸上自衛隊化学学校委託教育訓練（選考漏れ）	-
		全国山岳遭難対策協議会	1
		山岳遭難救助研修会（選考漏れ）	-
		全国消防救助シンポジウム	62
		全国消防技術者会議	1
合　計			914

■階層別研修、専門研修及び職場研修

分類・種別	研修名	人数
階層別研修 (219)	新規採用職員研修	14
	若手職員育成研修	71
	若手職員育成研修指導者研修	18
	消防副士長研修（E ラーニング）	22
	消防士長研修（E ラーニング）	19
	小隊長研修	17
	新任担当長研修	14
	新任管理者研修	14
	ハラスメント研修	30
専門研修 (380)	消防活動研修	232
	指揮隊研修	8
	予防査察研修	47
	緊急消防援助隊の指揮要領に関する研修	47
	指令業務研修（E ラーニング）※行政職１年目研修除く	21
	指令課職員教育実施要綱に基づく教育	25
職場研修 (1,311)	足助署	365
	北署	291
	中署	325
	南署	330
合　計		1,910

■職員研修

分類・種別	研修名	人数
集合研修（502）	一般研修	205
	特別研修	297
派遣研修（41）	市町村アカデミー	4
	国際アカデミー	3
	愛知県市町村振興協会研修センター	4
	自己啓発事業（自主学習援助事業）	30
合　計		543

研修実施状況（消防大学校・救急救命士養成所・愛知県消防学校）

（人）

区　分		研修名＼年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
派遣研修	消防大学校	幹部科	1	1	1	1	
		上級幹部科	1		1		
		警防科		1			
		救助科	1				1
		救急科		1			
		予防科	1		1		
		危険物科					
		火災調査科					
		指揮隊長コース	1	1	1	1	1
		高度救助・特別高度救助コース				1	
		NBCコース		1			
		危機管理・国民保護コース	1				
		消防団活性化推進コース	1				
		査察業務マネジメントコース		1		1	
		特別講習会及び消防大学校フォーラム	2	1			
		救急救命士	6	6	6	6	6
	愛知県消防学校	初任科	24	24	15	16	14
		警防科	3		4	3	4
		予防査察科	4		4		4
		危険物科				2	
		火災調査科	1		1		1
		救急科	20	16	26	11	10
		救助科	2		4	3	4
		初級幹部科					4
		中級幹部科			4		
		上級幹部科	4			4	
		水難救助科	1			1	
		はしご自動車等運用科	2		3	3	3
		地震防災科	4	4	4	4	4
		指揮隊科	2		4	3	4
		外傷・災害対応講習	5				5

１１９番回線別受信状況

※「その他」＝専用回線、指令端末装置等　（件）

月 / 種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
固定電話	457	340	378	383	308	367	450	377	409	460	339	348	4,616
ＩＰ電話	691	588	653	602	620	639	810	821	694	699	728	707	8,252
携帯電話	1,338	1146	1,232	1,301	1,482	1,655	1,876	1,684	1,419	1,298	1,364	1,393	17,188
その他	53	7	5	4	6	9	13	16	4	4	7	5	133
件　数	2,539	2,081	2,268	2,290	2,416	2,670	3,149	2,898	2,526	2,461	2,438	2,453	30,189

市民案内利用状況

※「市民案内」＝災害発生時に市民が「市民案内の電話番号」へ問い合わせた件数　（件）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
件　数	2,848	2,555	3,779	2,877	2,587	2,505	2,418	2,355	2,306	2,669	2,998	2,248	32,145

口頭指導状況

※心肺停止事案で病院搬送した場合（口頭指導実施は一事案に重複有）　（件）

月 / 種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
人工呼吸													
胸骨圧迫	38	37	36	24	25	21	26	27	24	16	33	33	340
心肺蘇生													
ＡＥＤ	8	3	10	5	7	3	9	4	7	2	12	5	75

１１９番誤報件数

※「誤報」＝間違い通報の件数　（件）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
件　数	194	190	196	246	255	368	390	278	211	168	174	175	2,845

月別火災状況

区分			合計	1月	2月	3月	4月
件数	合計		139	22	17	19	9
	建物		52	6	8	6	5
	林野		4			2	1
	車両		16	2		1	1
	その他		67	14	9	10	2
焼損棟数	合計		66	6	9	8	7
	火元	全焼	14	2	2	2	2
		半焼					
		部分焼	11	2	3		2
		ぼや	25	1	2	4	1
	延焼	全焼	2				1
		半焼					
		部分焼	8	1	1	2	
		ぼや	6		1		1
焼損面積	建物（床）（㎡）		1,951	162	92	137	39
	林野（a）		102	2		96	3
気象状況	風速	6m以上	13	3		1	
		6m未満	126	19	17	18	9
	湿度	55%以上	74	12	2	4	5
		55%未満	65	10	15	15	4
死傷者	死者		4				
	負傷者		13	1	4	1	
高速道路＊			6	1		1	
管外出動（高速道路を除く）							

＊管内の新東名高速道路、東名高速道路、伊勢湾岸自動車道及び東海環状自動車道に出動した件数

5　月	6　月	7　月	8　月	9 月	10 月	11 月	12 月
8	10	5	16	5	5	11	12
4	3	2	5	1	3	6	3
			1				
1	2		2	2	1	2	2
3	5	3	8	2	1	3	7
6	3	2	7	1	5	7	5
1					1	3	1
		1	1	1	1		
3	3	1	4		1	3	2
1							
1					2		1
			2			1	1
183			4	75	1,043	151	65
			1				
2			3	1	1	2	
6	10	5	13	4	4	9	12
7	6	5	14	2	3	7	7
1	4		2	3	2	4	5
2				1			1
					2	4	1
			1	1		2	

曜日別火災状況

区　分	出火件数					死傷者数	
	合　計	建 物	林 野	車 両	その他	死 者	負傷者
合　計	139	52	4	16	67	4	13
日	22	8	2	2	10	1	3
月	21	10		1	10		4
火	17	7		4	6		2
水	18	10		1	7	1	
木	22	8	1	1	12		3
金	13	2		5	6	1	1
土	23	6	1	2	14	1	
不明	3	1			2		

時間別火災状況

区　分	出火件数					死傷者数	
	合 計	建 物	林 野	車 両	その他	死　者	負傷者
合　計	139	52	4	16	67	4	13
0 ～ 1	1	1					
1 ～ 2	1				1		
2 ～ 3	2				2		1
3 ～ 4	2	2					
4 ～ 5							
5 ～ 6	3	2		1			2
6 ～ 7	2	1	1				
7 ～ 8	1	1					
8 ～ 9	6	5		1		1	
9 ～ 10	9			2	7		
10 ～ 11	9	4		1	4		2
11 ～ 12	13	2	1	1	9	1	1
12 ～ 13	5	3			2		3
13 ～ 14	4	1			3		2
14 ～ 15	14	4	2	3	5		
15 ～ 16	15	4		2	9		
16 ～ 17	12	4		2	6	1	1
17 ～ 18	6	2			4	1	1
18 ～ 19	4	2			2		
19 ～ 20	6	3		1	2		
20 ～ 21	3	1			2		
21 ～ 22	6	4			2		
22 ～ 23	5	3		1	1		
23 ～ 24	5	2		1	2		
不明	5	1			4		

損　害　額　（千　円）						
合 計	建 物＊	収容物＊	林 野	車 両	その他	爆 発
210,979	56,227	143,537		5,527	5,688	
24,337	21,669	870		298	1,500	
138,137	12,024	124,229		495	1,389	
2,251	133	1,549		447	122	
14,921	190	13,768		200	763	
17,004	14,558	2,182		205	59	
3,961		328		2,311	1,322	
9,679	7,068	611		1,571	429	
689	585				104	

＊建物火災（火災種別）の損害額は建物及び収容物の合計損害額

損　害　額　（千　円）						
合 計	建 物	収容物	林 野	車 両	その他	爆 発
210,979	56,227	143,537		5,527	5,688	
1	1					
1,208					1,208	
858	421	292		145		
8,049	7,311	398		340		
67		67				
18,481	1,271	17,021		180	9	
740				140	600	
1,329	911	363		55		
2,541	2,396	125			20	
120,022	15	120,005			2	
2,222	60	704		1,458		
885	50	14		629	192	
3,212	42	816		1,904	450	
19,316	17,413	544		500	859	
21,971	21,159	774			38	
120	53	67				
5,462	4,172	500		108	682	
66		44			22	
218	77	141				
221	181	2		38		
1,800	109	1,660		30	1	
2,190	585				1,605	

火災種別出火原因

火災種別＼原因			合計	たばこ	こんろ	かまど	風呂かまど	炉	焼却炉	ストーブ	こたつ	ボイラー	煙突・煙道	排気管	電気機器	電気装置
合計			139	7	2					4				6	4	3
建物火災	小計		52	6	1					4				2	2	2
建物火災	住宅火災	専用	14	2						1						
建物火災	住宅火災	共同	10	2						2						
建物火災	住宅火災	併用														
建物火災	防火対象物の火災	遊技場														
建物火災	防火対象物の火災	飲食店														
建物火災	防火対象物の火災	物品販売店	2											1	1	
建物火災	防火対象物の火災	工場	9												1	1
建物火災	防火対象物の火災	倉庫	1													
建物火災	防火対象物の火災	事務所	4	1						1						
建物火災	防火対象物の火災	複合用途（特防）														
建物火災	防火対象物の火災	複合用途（非特）	1		1											
建物火災	防火対象物の火災	その他	11	1										1		1
林野火災			4													
車両火災			16											4	1	1
その他の火災			67	1	1										1	

電話等配線灯	内燃機関	配線器具	火遊び	マッチライター	たき火	溶接機・切断機	灯火	衝突の火花	取灰	火入れ	放火	放火の疑い	その他	不明・調査中
2	2	2	1	1	25	2	1	1		11	8	11	24	22
2					4	2	1			2	2	2	7	13
1					1		1				1		2	5
											1		1	4
1						2							2	2
												1		
													1	1
					3					2		1	1	1
					2								2	
	2							1			1		4	2
		2	1	1	19					9	5	9	11	7

出火状況及び損害額の推移

区　　分		令和５年	令和４年	令和３年	令和２年	令和元年
豊田市	人　口	416,747	418,284	421,280	424,500	423,916
	件　数	139	107	113	118	137
	出火率＊1	3.3	2.6	2.7	2.8	3.2
損害額の合計（千円）		210,979	196,514	245,679	461,192	576,144
１件あたりの損　害　額（円）		1,517,835	1,836,579	2,174,150	3,908,407	4,205,431
愛知県出火率		調査中	2.5	2.4	2.5	2.7
建物火災	件　　数	52	55	58	45	66
	焼損床面積（㎡）	1,951	2,656	1,876	1,439	3,010
	焼損表面積（㎡）	72	153	272	16	383
	損 害 額（千　円）	200,705（爆発損害を含む）	160,136（爆発損害を含む）	242,141（爆発損害を含む）	119,575（爆発損害を含む）	565,198（爆発損害を含む）
	１件あたりの焼損床面積（㎡）	38	48	32	32	46
	１件あたりの損害額（円）	3,859,712	2,911,564	4,174,845	2,657,222	8,563,606
林野火災	件　　数	4	5	2	3	13
	焼損面積（ａ）	102	167	19	15	211
	損 害 額（千円）		18	4		
車両火災	件　　数	16	9	7	19	15
	損 害 額（千円）	5,684	35,875	2,499	9,110	7,774
その他火災	件　　数	67	38	46	51	43
	損 害 額（千円）	4,590	485	1,035	332,507	3,172
航空機火災	件　　数					
	損 害 額（千円）					

＊1　出火率とは、人口１万人あたりの出火件数（人口は、当該年４月１日現在の住民基本台帳による。）

主な火災の概要

	月	日	時	分	覚知方法	火災種別	出火場所	用 途	焼損程度	死者	負傷者
1	5	19	8	25	専用電話（固定電話）	建物	勘八町	住宅	ぼや	1	
2	5	21	17	56	専用電話（IP 電話）	建物	篠原町	住宅	全焼	1	
3	9	6	11	不明	専用電話（IP 電話）	建物	保見ケ丘	共同住宅	部分焼	1	
4	12	9	16	30	専用電話（携帯電話）	建物	大清水町	住宅	全焼	1	
5	2	19	10	15	専用電話（携帯電話）	建物	西岡町	住宅	ぼや		2
6	10	16	12	14	専用電話（携帯電話）	建物	深見町	工場	部分焼		2
7	11	16	5	35	専用電話（携帯電話）	建物	山ノ手	共同住宅	全焼		2

＊次のいずれかに該当するものを掲載
　1　死者１人以上又は負傷者２人以上
　2　損害額５，０００千円以上
　3　焼損面積２００㎡以上

高速道路火災出動状況の推移

（件）

発生場所	合計			豊田市			岡崎市			刈谷市			豊明市			みよし市		
種別／年	合計	車両	その他	小計	車両	その他	小計	車両	その他	小計	車両	その他	小計	車両	その他	小計	車両	その他
令和元年	6	5	1	1		1	5	5										
令和２年	7	5	2	4	4		2	1	1							1		1
令和３年	3	3		3	3													
令和４年	3	3		2	2		1	1										
令和５年	9	8	1	6	6		2	2								1		1

＊新東名高速道路、東名高速道路、伊勢湾岸自動車道及び東海環状自動車道に出動した件数

その他の出動状況（警戒・探索・その他）

（件）

月／署所		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計		4,031	375	348	332	289	316	293	395	350	323	303	331	376
北消防署	小計	936	77	80	73	72	64	64	97	89	70	78	91	81
	北消防署	710	62	63	54	55	51	45	74	70	50	58	74	54
	藤岡小原分署	192	13	15	18	14	11	15	15	17	19	16	16	23
	保見出張所	21	1	2	1	3	1	2	3	2	1	4		1
	力石出張所	13	1				1	2	5				1	3
中消防署	小計	1,549	144	131	130	110	123	122	152	138	126	116	113	144
	中消防署	727	66	60	70	47	54	50	67	66	57	53	62	75
	東分署	427	40	38	32	38	36	32	44	39	39	37	23	29
	逢妻分署	366	34	28	25	22	33	36	41	29	30	24	25	39
	松平出張所	29	4	5	3	3		4		4		2	3	1
南消防署	小計	1,304	134	112	109	90	109	89	124	102	105	93	108	129
	南消防署	471	64	40	46	23	29	31	41	41	37	36	33	50
	西分署	485	46	43	33	31	50	31	56	34	32	31	47	51
	末野原分署	315	21	27	28	33	27	25	24	24	33	23	24	26
	高岡出張所	33	3	2	2	3	3	2	3	3	3	3	4	2
足助消防署	小計	242	20	25	20	17	20	18	22	21	22	16	19	22
	足助消防署	165	13	13	13	12	14	9	20	15	17	10	12	17
	旭出張所	28	2	5	4		1	2	1	3	1	3	2	4
	稲武出張所	10	1	2	1		1	1			1	2		1
	下山出張所	39	4	5	2	5	4	6	1	3	3	1	5	

月別救急出動状況

（件）

種別／月	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
合　計	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756
1 月	1,855	4			72	10	8	251	2	17	1,346	145
2 月	1,498	5			63	6	7	214	3	15	1,057	128
3 月	1,630	10		1	79	15	12	249	4	16	1,094	150
4 月	1,561	9			78	15	12	232	4	9	1,080	122
5 月	1,744	4			93	8	9	258	2	16	1,215	139
6 月	1,800	7	2		96	18	8	206	5	10	1,280	168
7 月	2,222	4			112	44	17	239	3	10	1,633	160
8 月	2,160	4			81	20	6	258	2	10	1,639	140
9 月	1,864	5			103	17	10	243	2	16	1,327	141
10 月	1,755	4			95	11	4	267	4	12	1,199	159
11 月	1,782	10			109	18	9	264	2	17	1,192	161
12 月	1,851	5			88	18	3	276	1	15	1,302	143

曜日別救急出動状況

（件）

種別／曜日	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
合　計	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756
日	3,095	8			116	11	47	429	5	26	2,329	124
月	3,274	13		1	145	41	4	386	1	28	2,321	334
火	3,140	8			147	36	9	413	4	22	2,221	280
水	3,109	10			156	38	8	429	2	24	2,180	262
木	2,975	11			161	27	10	451	8	23	2,027	257
金	3,048	10	2		166	28	10	407	3	19	2,118	285
土	3,081	11			178	19	17	442	11	21	2,168	214

時間帯別救急出動状況

（件）

種別／時間帯	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
合　計	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756
0 ～ 2	1,007	2			27	3		99	6	14	815	41
2 ～ 4	775	1			22	3		80	1	9	629	30
4 ～ 6	875	4			22	1		110	2	7	708	21
6 ～ 8	1,635	5			123	5	1	214	1	10	1,253	23
8 ～ 10	2,515	6		1	128	27	4	420	2	10	1,743	174
10 ～ 12	2,746	8			102	38	36	381	6	14	1,760	401
12 ～ 14	2,528	8	2		128	33	19	364	2	21	1,603	348
14 ～ 16	2,190	8			137	42	19	324	4	15	1,432	209
16 ～ 18	2,198	11			149	23	10	332	1	24	1,407	241
18 ～ 20	2,224	7			137	12	8	286	1	17	1,610	146
20 ～ 22	1,718	6			51	8	8	209	5	8	1,353	70
22 ～ 24	1,311	5			43	5		138	3	14	1,051	52

署所別・種別救急出動状況

（件）

種別 / 署所	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
合計	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756
北消防署	2,580	14			105	14	24	277	3	20	1,793	330
藤岡小原分署	670				12	13	3	109		3	513	17
保見出張所	830	1			57	5	10	128	2	5	572	50
力石出張所	472	2	1		38	10	2	61	1	2	336	19
中消防署	2,735	18		1	135	11	12	357	5	25	1,875	296
東分署	2,071	1			71	10	5	319	4	12	1,565	84
逢妻分署	3,561	10			140	26	22	471	6	25	2,444	417
松平出張所	852		1		31	8	1	127	1	5	605	73
南消防署	1,908	12			104	12	11	253	3	10	1,365	138
西分署	1,956	3			126	33	2	267	3	22	1,416	84
末野原分署	1,699	5			102	20	4	235	5	14	1,217	97
高岡出張所	1,312	1			79	27	8	167	1	12	983	34
足助消防署	431	2			26	4	1	67			244	87
旭出張所	202	2			13	2		42		3	137	3
稲武出張所	184				18	1		44		1	107	13
下山出張所	244				12	4		32		4	178	14
本部	15							1			14	

救急出動状況の推移

（件）

種別 / 署所	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
令和元年	19,162	77		12	1,338	244	115	2,521	49	157	12,858	1,791
令和2年	16,721	62	1	11	1,051	191	76	2,365	38	181	11,286	1,459
令和3年	17,403	60		3	1,023	166	81	2,463	34	185	11,816	1,572
令和4年	20,893	60	1	11	1,060	183	111	2,719	35	178	14,812	1,723
令和5年	21,722	71	2	1	1,069	200	105	2,957	34	163	15,364	1,756

発生場所別救急搬送人員

（人）

発生場所 / 事故種別	合　計	住　宅	公衆出入場所	仕事場	道　路	その他
合　計	19,802	12,339	4,748	860	1,692	163
急　病	13,991	10,441	2,427	646	415	62
交　通	1,013	11	33	1	961	7
一般負傷	2,737	1,766	560	31	299	81
その他	2,061	121	1,728	182	17	13

年齢別・性別搬送人員

（人）

種別 / 年齢	性別	合計	小計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
新生児	男	93	48										1	47
２８日以内	女		45							1			3	41
乳幼児	男	1,113	605				8			105	1		471	20
０～６	女		508				2			67			414	25
少年	男	216	155				14		3	39	1		93	5
７～１０	女		61				6		1	7			43	4
少年	男	510	313				80		43	46	1	1	129	13
１１～１７	女		197				29	1	8	14		6	131	8
成人	男	1,530	897	1			179	27	26	52	2	3	577	30
１８～３０	女		633				80	5	2	26		25	424	71
成人	男	2,161	1,195				141	49	9	98	3	13	812	70
３１～４９	女		966				73	6	1	67	2	25	665	127
成人	男	2,447	1,509	1			128	49	1	148	2	9	1,026	145
５０～６４	女		938				60	12	2	102	5	7	680	70
高齢者	男	4,948	2,817	3			70	33	2	361	3	6	2,102	237
６５～７９	女		2,131	2			72	7	1	364	1	5	1,518	161
高齢者	男	6,784	3,102				34	3	1	464		4	2,332	264
８０以上	女		3,682				37		1	776	2	2	2,570	294
小　計	男	19,802	10,641	5			654	161	85	1,313	13	36	7,543	831
	女		9,161	2			359	31	16	1,424	10	70	6,448	801
合　計		19,802	19,802	7			1,013	192	101	2,737	23	106	13,991	1,632

傷病程度別搬送人員

（人）

程度	種別	合計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
新生児	死亡												
	重症	19											19
	中等症	69										1	68
	軽症	5							1			3	1
	その他												
	計	93							1			4	88
乳幼児	死亡												
	重症	29							1			22	6
	中等症	198				1			8			156	33
	軽症	886				9			163	1		707	6
	その他												
	計	1,113				10			172	1		885	45
少年	死亡	1										1	
	重症	17				4			1		1	9	2
	中等症	99				8		6	11		1	56	17
	軽症	609				117	1	49	94	2	5	330	11
	その他												
	計	726				129	1	55	106	2	7	396	30
成人	死亡	63				5	3		5		14	33	3
	重症	416				34	4	1	9		19	265	84
	中等症	1,313				90	33	4	81		14	752	339
	軽症	4,346	2			532	108	36	398	14	35	3,134	87
	その他												
	計	6,138	2			661	148	41	493	14	82	4,184	513
高齢者	死亡	321				4			20		5	287	5
	重症	1,042				13	3		77	1	3	821	124
	中等症	4,455	3			31	16		612		2	3,127	664
	軽症	5,914	2			165	24	5	1,256	5	7	4,287	163
	その他												
	計	11,732	5			213	43	5	1,965	6	17	8,522	956
合計	死亡	385				9	3		25		19	321	8
	重症	1,523				51	7	1	88	1	23	1,117	235
	中等症	6,134	3			130	49	10	712		17	4,092	1,121
	軽症	11,760	4			823	133	90	1,912	22	47	8,461	268
	その他												
	計	19,802	7			1,013	192	101	2,737	23	106	13,991	1,632

＊ 新生児　生後２８日以内
＊ 乳幼児　生後２９日以上満７歳未満
＊ 少　年　満７歳以上満１８歳未満
＊ 成　人　満１８歳以上満６５歳未満
＊ 高齢者　満６５歳以上

＊ 死　亡　初診時で死亡が確認されたもの
＊ 重　症　３週間以上の入院加療が必要なもの
＊ 中等症　入院加療が必要なもの（重症を除く）
＊ 軽　症　入院加療が必要ないもの
＊ その他　医師の診断がないもの （他の場所に搬送）

医療機関告示開設別搬送人員

（人）

医療機関＼種別			合計	うち管外	急病	うち管外	交通	うち管外	一般負傷	うち管外	その他	うち管外
救急告示医療機関	国立		17	17	5	5					12	12
	公立		138	138	82	82	15	15	13	13	28	28
	公的		7,893	107	5,550	66	304	3	1,134	2	905	36
	私的	病院	10,968	770	7,903	506	610	71	1,467	127	988	66
		診療所	9				3		6			
	計		19,025	1,032	13,540	659	932	89	2,620	142	1,933	142
その他の医療機関	国立		3	3	1	1					2	2
	公立		30	30	5	5	1	1			24	24
	公的											
	私的	病院	674	279	401	183	75	11	102	21	96	64
		診療所	70	39	44	30	5	1	15	4	6	4
	計		777	351	451	219	81	13	117	25	128	94
計	国立		20	20	6	6					14	14
	公立		168	168	87	87	16	16	13	13	52	52
	公的		7,893	107	5,550	66	304	3	1,134	2	905	36
	私的	病院	11,642	1,049	8,304	689	685	82	1,569	148	1,084	130
		診療所	79	39	44	30	8	1	21	4	6	4
	計		19,802	1,383	13,991	878	1,013	102	2,737	167	2,061	236
その他の場所	接骨院等											
	その他											
	計											
合計			19,802	1,383	13,991	878	1,013	102	2,737	167	2,061	236

＊ その他（火災、労働災害、水難、運動競技、加害、自損行為、転院搬送等）

年齢別搬送人員の推移

年齢＼年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
6歳以下	948 人	627 人	658 人	869 人	1,206 人
	5.5 %	4.2 %	4.2 %	4.7 %	6.1 %
7歳～17歳	649 人	530 人	475 人	609 人	726 人
	3.8 %	3.5 %	3.0 %	3.3 %	3.7 %
18歳～64歳	5,832 人	4,908 人	4,945 人	5,808 人	6,138 人
	33.8 %	32.6 %	31.7 %	31.5 %	31.0 %
65歳以上	9,806 人	8,984 人	9,538 人	11,167 人	11,732 人
	56.9 %	59.7 %	61.1 %	60.5 %	59.2 %
合　計	17,235 人	15,049 人	15,616 人	18,453 人	19,802 人

＊小数点第２位を四捨五入して表記しているため、合計が１００%にならない場合がある。

高速道路救急出動状況の推移

（件）

場所	合計			東名高速道路			伊勢湾岸自動車道		
年＼種別	合計	交通	その他	合計	交通	その他	合計	交通	その他
令和元年	57	30	27	17	6	11	40	24	16
令和２年	54	20	34	32	13	19	22	7	15
令和３年	37	17	20	22	11	11	15	6	9
令和４年	66	26	40	35	14	21	31	12	19
令和５年	59	16	43	29	6	23	30	10	20

救助出動状況

地域	種別	合計	火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
合計	出動件数	311	7	60	3	2	3	92	3		141
	活動件数	162	7	34	3	1	2	57	1		57
	救助人員	134	5	38	2	1	1	38	1		48
	出動隊数	1,339	76	274	20	9	12	368	16		564
	出動人員	4,506	248	926	64	33	42	1,271	53		1,869
豊田市	出動件数	308	7	58	3	2	3	92	3		140
	活動件数	161	7	33	3	1	2	57	1		57
	救助人員	133	5	37	2	1	1	38	1		48
	出動隊数	1,324	76	264	20	9	12	368	16		559
	出動人員	4,453	248	892	64	33	42	1,271	53		1,850
自動車専用道路等	出動件数	6		4					1		1
	活動件数	4		3					1		
	救助人員	4		3					1		
	出動隊数	29		20					4		5
	出動人員	100		68					13		19
管外	出動件数	3		2							1
	活動件数	1		1							
	救助人員	1		1							
	出動隊数	15		10							5
	出動人員	53		34							19

※交通救助の管外は、岡崎市

月別救助出動状況

種別／月	出動件数	活動件数	救助人員	出動件数内訳								
				火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
合　計	311	162	134	7	60	3	2	3	92	3	0	141
1 月	31	17	16		4			1	12	1		13
2 月	27	16	15	1	5				11			10
3 月	29	17	14		9	1		1	5			13
4 月	27	10	9		5	1			5			16
5 月	29	15	13	1	7			1	11	1		8
6 月	23	11	8		4		2		4			13
7 月	34	20	12		5	1			13			15
8 月	25	13	13		5				11			9
9 月	26	13	7	1	1				8			16
10 月	17	8	7		2				3			12
11 月	26	14	14	3	7				4	1		11
12 月	17	8	6	1	6				5			5

救助出動状況の推移

種別＼年		平成３０年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
救助人員		118	155	233	130	122	134
合計		279	307	302	267	277	311
火災	建物	5	4	6	4	8	7
	建物以外						
交通		71	71	67	54	50	60
水難		7	10	7	5	8	3
自然			1	2			2
機械		5	9	8	10	6	3
建物		64	67	72	73	45	92
ガス・酸欠		1	2	5	10	3	3
破裂			1				
その他		126	142	135	111	157	141

火災･救急･救助件数暦年表

（件）

種別／年	火災	救急	救助	種別／年	火災	救急	救助
昭和３１年	10			平成 ２ 年	201	6,095	140
昭和３２年	22			平成 ３ 年	208	6,252	151
昭和３３年	29			平成 ４ 年	216	6,301	131
昭和３４年	39			平成 ５ 年	212	6,318	158
昭和３５年	36			平成 ６ 年	256	6,873	177
昭和３６年	53			平成 ７ 年	259	7,367	206
昭和３７年	59			平成 ８ 年	251	7,950	187
昭和３８年	70	74		平成 ９ 年	243	8,581	198
昭和３９年	89	329		平成１０年	193	9,036	191
昭和４０年	95	425		平成１１年	185	9,580	210
昭和４１年	67	589		平成１２年	219	10,496	194
昭和４２年	130	957		平成１３年	255	11,363	219
昭和４３年	143	1,139		平成１４年	253	11,756	215
昭和４４年	174	1,524		平成１５年	211	12,682	228
昭和４５年	240	1,776		平成１６年	230	13,868	237
昭和４６年	278	1,878		平成１７年	268	15,962	245
昭和４７年	223	1,912		平成１８年	220	15,352	271
昭和４８年	303	2,170	3	平成１９年	198	15,588	236
昭和４９年	279	2,234	10	平成２０年	202	15,152	233
昭和５０年	255	2,051	31	平成２１年	229	14,343	219
昭和５１年	254	2,219	60	平成２２年	175	15,621	235
昭和５２年	259	2,665	56	平成２３年	205	16,134	239
昭和５３年	292	2,981	65	平成２４年	162	16,914	266
昭和５４年	199	3,284	51	平成２５年	231	17,246	310
昭和５５年	221	3,657	65	平成２６年	194	17,027	319
昭和５６年	235	3,941	58	平成２７年	152	17,666	292
昭和５７年	275	4,333	68	平成２８年	131	18,041	292
昭和５８年	244	4,428	83	平成２９年	132	18,213	339
昭和５９年	291	4,528	82	平成３０年	130	19,262	279
昭和６０年	250	4,771	81	令和元年	137	19,162	307
昭和６１年	302	4,785	116	令和２年	118	16,721	302
昭和６２年	265	5,069	119	令和３年	113	17,403	267
昭和６３年	230	5,414	140	令和４年	107	20,893	277
平成 元 年	259	5,761	144	令和５年	139	21,722	311

＊昭和３１年　４月　挙母市消防本部･署設置
＊昭和３１年　７月　消防業務開始
＊昭和３１年　９月　高橋村合併
＊昭和３８年　９月　救急業務開始
＊昭和３９年　３月　上郷町合併
＊昭和４０年　９月　高岡町合併
＊昭和４２年　４月　猿投町合併
＊昭和４５年　４月　松平町合併
＊昭和４６年１１月　救助工作車運用開始
＊平成　４年１０月　高規格救急車運用開始
＊平成　８年　４月　藤岡町･小原村消防事務受託業務開始
＊平成１７年　４月　豊田市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町合併

防火対象物査察実施状況

防火対象物：令和６年４月１日現在

立入検査数：令和５年度の実施数　（件）

区分 / 防火対象物の区分		防火対象物 合計	防火対象物 一種	防火対象物 二種	防火対象物 三種	防火対象物 その他	立入検査数 合計	立入検査数 一種	立入検査数 二種	立入検査数 三種	立入検査数 その他
豊田市合計		15,735	901	3,039	5,761	6,034	2,442	294	637	1,468	43
1	イ 劇場、映画館	9	9				5	5			
	ロ 公会堂、集会場	381	79	2	175	125	90	24		64	2
2	イ キャバレー、カフェ	5	1		4						
	ロ 遊技場、ダンスホール	25	19	3	3		6	3	1	2	
	ハ 風俗営業等を営む店舗	1			1						
	ニ カラオケボックス等	5	1	2	2		3	1	1	1	
3	イ 待合、料理店等	2	2								
	ロ 飲食店	296	19	11	266		218	13	3	202	
4	百貨店、マーケット等	585	119	47	310	109	192	31	22	139	
5	イ 旅館、ホテル等	83	55	2	26		75	48	1	26	
	ロ 共同住宅、マンション等	4,881	4	21	1,910	2,946	177	2	3	165	7
6	イ 病院、診療所	217	50	4	163		113	13	1	99	
	ロ 老人福祉施設等	118	44	24	50		32	5	7	20	
	ハ デイサービス等	265	94	26	145		109	21	9	79	
	ニ 幼稚園、特別支援学校	33	19	6	8		16	2	4	10	
7	小学校、各種学校等	510	9		484	17	53			53	
8	図書館、美術館	25	4	8	13		10	1	1	8	
9	イ 蒸気浴場、気浴場										
	ロ イ以外の公衆浴場	3		1		2	2		1		1
10	車両停車場、航空機発着場	11		3	2	6	2		2		
11	神社、寺院	259	3	1	128	127	21	1	1	16	3
12	イ 工場、作業場	2,486	11	1,451	228	796	366	3	300	57	6
	ロ 映画スタジオ										
13	イ 自動車車庫	274	55	78	112	29	48	22	8	17	1
	ロ 飛行機格納庫	1		1							
14	倉庫	1,089	10	566	169	344	168	4	105	47	12
15	前各号以外の事業所	1,890	71	480	704	635	252	32	86	128	6
16	イ 特定の複合用途防火対象物	1,207	200	89	704	214	404	58	38	306	2
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	1,068	22	210	153	683	77	5	42	27	3
17	文化財	4	1	2	1		2			2	
18	アーケード	2		1		1	1		1		
19	山林										
20	舟車										

消防用設備等点検状況

令和６年４月１日現在　（件）

区分 / 防火対象物の区分			点検を要する防火対象物 合計	点検を要する防火対象物 1000㎡未満	点検を要する防火対象物 1000㎡以上	報告済防火対象物 合計	報告済防火対象物 1000㎡未満	報告済防火対象物 1000㎡以上
豊田市合計			14,425	10,695	3,730	9,638	6,347	3,291
1	イ	劇場、映画館	9	1	8	9	1	8
	ロ	公会堂、集会場	308	266	42	160	122	38
2	イ	キャバレー、カフェ	5	5				
	ロ	遊技場、ダンスホール	25	9	16	22	8	14
	ハ	風俗営業等を営む店舗	1	1				
	ニ	カラオケボックス等	5	5		5	5	
3	イ	待合、料理店等	2	1	1			
	ロ	飲食店	281	279	2	175	173	2
4		百貨店、マーケット等	572	467	105	412	324	88
5	イ	旅館、ホテル等	83	42	41	73	38	35
	ロ	共同住宅、マンション等	4,745	3,685	1,060	3,477	2,519	958
6	イ	病院、診療所	207	166	41	157	120	37
	ロ	老人福祉施設等	113	75	38	88	61	27
	ハ	デイサービス等	252	185	67	206	143	63
	ニ	幼稚園、特別支援学校	33	16	17	31	15	16
7		小学校、各種学校等	486	208	278	443	179	264
8		図書館、美術館	24	19	5	23	19	4
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場						
	ロ	イ以外の公衆浴場	3	2	1	1		1
10		車両停車場、航空機発着場	10	7	3	8	5	3
11		神社、寺院	200	190	10	107	100	7
12	イ	工場、作業場	2,301	1,397	904	1,396	618	778
	ロ	映画スタジオ						
13	イ	自動車車庫	260	122	138	191	79	112
	ロ	飛行機格納庫	1	1		1	1	
14		倉庫	929	732	197	571	404	167
15		前各号以外の事業所	1,493	1,061	432	1,049	666	383
16	イ	特定の複合用途防火対象物	1,132	952	180	655	497	158
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	940	797	143	375	247	128
17		文化財	4	3	1	2	2	
18		アーケード	1	1		1	1	
19		山林						
20		舟車						

中高層建築物の現況

令和６年４月１日現在　（件）

区分 / 防火対象物の区分			合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階	11階	12階	13階	14階	15階以上
豊田市合計			4,080	2,126	908	422	180	127	98	38	50	31	17	15	28	40
1	イ	劇場、映画館	1	1												
	ロ	公会堂、集会場	15	10	3	2										
2	イ	キャバレー、カフェ	2	2												
	ロ	遊技場、ダンスホール	5	3		2										
	ハ	風俗営業等を営む店舗	1	1												
	ニ	カラオケボックス等	1	1												
3	イ	待合、料理店等	1		1											
	ロ	飲食店	23	21			1	1								
4		百貨店、マーケット等	26	24	1	1										
5	イ	旅館、ホテル等	41	15	3	7	1	7	2		5				1	
	ロ	共同住宅、マンション等	2,061	817	566	267	102	70	66	25	39	27	11	9	26	36
6	イ	病院、診療所	41	23	7	4	1	4	1	1						
	ロ	老人福祉施設等	15	9	5	1										
	ハ	デイサービス等	17	14	3											
	ニ	幼稚園、特別支援学校	2	2												
7		小学校、各種学校等	191	103	66	10	5	6	1							
8		図書館、美術館	2	1	1											
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場														
	ロ	イ以外の公衆浴場	1	1												
10		車両停車場、航空機発着場	2	2												
11		神社、寺院	13	12	1											
12	イ	工場、作業場	249	189	42	8	4	1	1		2	1	1			
	ロ	映画スタジオ														
13	イ	自動車車庫	48	14	17	11	5	1								
	ロ	飛行機格納庫														
14		倉庫	39	31	5	2	1									
15		前各号以外の事業所	395	250	60	34	20	10	15	3			1			2
16	イ	特定の複合防火対象物	461	284	70	46	18	18	7	5	2	2	4	4		1
	ロ	イ以外の複合防火対象物	427	296	57	27	22	9	5	4	2	1		2	1	1

消防同意件数

令和６年４月１日現在

令和５年度の同意件数　（件）

防火対象物の区分 ＼ 地域			豊田市
1	イ	劇場、映画館	
	ロ	公会堂、集会場	3
2	イ	キャバレー、カフェ	
	ロ	遊技場、ダンスホール	1
	ハ	風俗営業等を営む店舗	
	ニ	カラオケボックス等	
3	イ	待合、料理店等	
	ロ	飲食店	10
4	百貨店、マーケット等		21
5	イ	旅館、ホテル等	
	ロ	共同住宅、マンション等	44
6	イ	病院、診療所	6
	ロ	老人福祉施設等	12
	ハ	デイサービス等	13
	ニ	幼稚園、特別支援学校	
7	小学校、各種学校等		7
8	図書館、美術館		2
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ	イ以外の公衆浴場	
10	車両停車場、航空機発着場		
11	神社、寺院		
12	イ	工場、作業場	33
	ロ	映画スタジオ	
13	イ	自動車車庫	4
	ロ	飛行機格納庫	
14	倉庫		31
15	前各号以外の事業所		47
16	イ	特定の複合用途防火対象物	5
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	2
16の2	地下街		
16の3	準地下街		
17	文化財		
18	アーケード		2
19	山林		
20	舟車		
専用住宅等			195
合計			438

危険物規制対象物

令和６年４月１日現在　（件）

区分＼製造所等の別		合計	製造所	貯蔵所 小計	屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外
施設数		1,208	10	719	209	135	81	174	7	87	26
数量別	5倍以下	433		315	101	14	34	74	7	74	11
	5倍を超え　10倍以下	262	1	172	63	28	38	33			10
	10　〃　50　〃	280	4	139	30	54	9	34		7	5
	50　〃　100　〃	81	2	40	6	17		11		6	
	100　〃　150　〃	36		19	1	14		4			
	150　〃　200　〃	40		13	5	4		4			
	200　〃　1,000　〃	75	3	20	2	4		14			
	1,000　〃　5,000　〃	1		1	1						
	5,000　〃　10,000　〃										
	10,000倍を超えるもの										

区分＼製造所等の別		取扱所 小計	給油	第一種販売	第二種販売	移送	一般	事業所数
施設数		479	235	2			242	526
数量別	5倍以下	118	22				96	
	5倍を超え　10倍以下	89	12				77	
	10　〃　50　〃	137	83	2			52	
	50　〃　100　〃	39	25				14	
	100　〃　150　〃	17	17					
	150　〃　200　〃	27	25				2	
	200　〃　1,000　〃	52	51				1	
	1,000　〃　5,000　〃							
	5,000　〃　10,000　〃							
	10,000倍を超えるもの							

消防団員職務報酬

支給対象者	支給単位	階級	金額（円）
基本団員	年額	団　長	136，500
		副団長	86，500
		分団長	62，500
		部　長	40，500
		班　長	37，000
		団　員	36，500
学生機能別団員	年額	団　員	5，000

＊「学生機能別団員」とは機能別団員のうち、大学生等で構成された団員

消防団員出動報酬

支給対象者	支給単位	種別	出動時間の区分	金額（円）
基本団員 機能別団員	1 回	災害・警戒出動	1 時間以下	2，000
			1 時間を超え 3 時間以下	4，000
			3 時間を超え 5 時間以下	6，000
			5 時間を超え 7 時間以下	8，000
		訓練等出動	一律	3，000

＊「機能別団員」とは入団時に定めた特定の任務に限り従事する団員
＊「災害・警戒出動」とは火災等の災害が発生又は発生するおそれのある場合の出動
＊「訓練等出動」とは、消防署との合同訓練や出初式等の行事に参加する場合の出動

消防団員費用弁償

支給対象者	区分	金額
基本団員 災害支援 機能別団員	災害・警戒出動又は訓練等出動の際に自家用車を使用した場合	1 回当たり３００円
	上記以外の場合	豊田市職員旅費条例（昭和 41 年条例第 1 号）別表第 2 号に規定する支給対象者の旅費相当額
学生機能別団員	一律	

消防団員退職報償金

（円）

階　級	勤　務　年　数					
	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上
団　長	239，000	344，000	459，000	594，000	779，000	979，000
副団長	229，000	329，000	429，000	534，000	709，000	909，000
分団長	219，000	318，000	413，000	513，000	659，000	849，000
部　長 班　長	204，000	283，000	358，000	438，000	564，000	734，000
団　員	200，000	264，000	334，000	409，000	519，000	689，000

豊田市消防団編成表

人員配置									区分				消防団機動力	
団長	副団長	方面隊長	分団長	部長	班長	団員	分団計	方面隊計	方面隊	分団	部	班	小型動力ポンプ	搭載車 キ：初動用資機材搭載型 ポ：ポンプ車
1	1	1	1	1	2	13	61	197	第1方面隊	1	1	2	○元城　○竹生	元城、竹生
				1	1	8					2	1	●平芝	平芝
				1	2	31					3	1	●梅坪	梅坪
			1	1	2	8	49			2	1	1	○樹木	樹木
				1	2	10					2	1	●小坂	小坂
				1	2	13					3	2	●下市場　●金谷	下市場、金谷
				1	2	5					4	1	●長興寺	長興寺
			1	1	3	16	49			3	1	3	●宮口　●宮上　○宮	宮口
				1	2	12					2	2	●本新　●千足	本新、千足
				1	2	10					3	2	●深田　●本地	深田
			1	1	2	6	37			4	1	1	●今	今
				1	2	8					2	2	●前山　●渡合	前山
				1	2	13					3	1	●室	室
		1	1	1	2	3	13	205	第2方面隊	1	1	1	●高橋	高橋
				1	1	1					2	1	●上野	上野
				1	1	1					3	1	●市木	市木
			1	1	3	13	41			2	1	3	●扶桑　●平井　○百々	扶桑
				1	2	7					2	2	●岩滝　●池田	岩滝
				1	2	10					3	2	●矢並　○山中	矢並
			1	1	2	10	51			3	1	1	●野兒	野兒
				1	2	10					2	1	●広川	広川
				1	3	20					3	3	●古瀬間　●大見	古瀬間、大見
			1	1	3	10	53			4	1	1	○九久平	九久平
				1	2	16					2	2	●幸海　●○穂積	幸海
				1	1	1					3	1	●岩倉	岩倉
				1	3	12					4	2	●桂野	桂野
			1	1	2	11	46			5	1	3	●林添　○滝脇　●長沢	林添
				1	2	14					2	2	●豊松　○松平	豊松
				1	2	11					3	3	●坂上(仁王)　●坂上(日明)　●石楠	仁王
		1	1	1	2	18	39	219	第3方面隊	1	1	1	●鴛鴨	鴛鴨
				1	1	6					2	1	●大林	大林
				1	2	3					3	2	●渡刈　○豊栄	渡刈、豊栄
				1	1	1					4	1	●永覚	永覚
			1	1	2	11	62			2	1	1	●上郷	上郷
				1	2	14					2	2	●畝部東(中切)　○桝塚東	畝部東
				1	2	15					3	1	●配津	配津
				1	2	9					4	2	●福受　●和会	福受、和会
			1	1	2	10	32			3	1	1	○土橋	土橋（キ）
				1	2	8					2	1	●本	本
				1	2	4					3	1	●中	中
			1	1	2	12	29			4	1	1	●若林	若林
				1	2	1					2	1	●中根	中根
				1	2	6					3	1	●花園	花園
			1	1	2	19	56			5	1	2	●堤　●上丘	堤、上丘
				1	2	19					2	2	●西岡　○前林	西岡、前林
				1	2	8					3	2	●駒場　●中田	駒場
	1	1	1	1	2	13	64	269	第4方面隊	1	1	2	●八草　●広幡	八草
				1	1	9					2	2	○大畑　●篠原	篠原
				1	3	7					3	3	●保見　●東保見　●田籾	保見、田籾
				1	2	22					4	2	●貝津　●伊保	貝津、伊保
			1	1	2	23	73			2	1	2	●猿投　●加納	猿投、加納
				1	2	21					2	2	●亀首　●舞木	亀首
				1	2	19					3	2	●乙部	乙部
			1	1	2	11	68			3	1	1	○四郷	四郷
				1	1	13					2	1	●御船	御船
				1	2	16					3	3	●越戸　●花本	越戸
				1	1	17					4	1	●西広瀬	西広瀬
			1	1	3	20	63			4	1	4	●東広瀬　●小峯　●力石	東広瀬、力石
				1	2	1					2	2	●藤沢　●富田	藤沢
				1	2	12					3	2	●寺下　●成合	寺下
				1	2	16					4	4	●中金　●芳友　●野口　●中切	中金、野口

		1	1	1	2	17	44	124	第5方面隊	1	1	1	●木瀬	木瀬（ポ）
				1	3	19					2	1	●藤岡飯野	藤岡飯野（ポ）
			1	2	2	7	23			2	1	1	●●西中山	西中山
				1	2	8					2	1	●深見	深見
			1	1	2	19	26			3	1	1	●御作	御作
				1	1	1					2	1	●上川口	上川口
			1	1	2	11	30			4	1	1	●三箇	三箇
				1	2	5					2	1	●折平	折平
				1	3	3					3	1	●白川	白川
		1	1	1	3	12	32	77	第6方面隊	1	1	1	●大平	大平（ポ）
				1	2	1					2	1	●乙ケ林	乙ケ林
				1	2	8					3	1	●北篠平	北篠平
			1	1	2	4	29			2	1	1	●上仁木	上仁木
				1	2	6					2	1	●雑敷	雑敷
				1	3	8					3	1	◎永太郎	永太郎
			1	1	3	5	15			3	1	1	●小原	小原
				1	2	2					2	1	●市場	市場
1		1	1	1	2	24	34	228	第7方面隊	1	1	1	●足助（田町）	足助（田町）
				1	1	4					2	1	●山谷	山谷
			1	1	4	27	36			2	1	1	●足助（宮平）	足助（宮平）
				1	1	1					2	1	●葛沢	葛沢
			1	1	2	11	28			3	1	1	●近岡	近岡
				1	2	10					2	1	●国谷	国谷
			1	1	3	28	41			4	1	1	●則定	則定
				1	1	6					2	1	●●上佐切	上佐切
			1	1	1	14	38			5	1	1	●竜岡	竜岡
				1	2	18					2	3	●明川　●大多賀　●五反田	明川
			1	1	2	18	50			6	1	1	●●新盛	新盛
				1	2	11					2	2	●大河原　●大蔵	大蔵
				1	2	11					3	2	●御蔵　●月原	御蔵
		1	1	1	1	8	29	91	第8方面隊	1	1	1	●●下山田代　●花沢	下山田代、花沢
				1	1	7					2	1		
				2	1	6					3	1		
			1	1	2	4	21			2	1	1	●大沼	大沼（ポ）
				1	2	3					2	1		
				1	2	4					3	1		
			1	2	1	0	10			3	1	1	●蘭　●●和合	蘭、和合
				1	2	0					2	1		
				1	1	1					3	1		
			1	1	3	6	30			4	1	1	●阿蔵　●●立岩　●梨野　●野原　●羽布	阿蔵、立岩、羽布
				1	3	6					2	2		
				1	3	5					3	2		
		1	1	2	2	5	17	69	第9方面隊	1	1	1	●田津原	田津原
				1	1	5					2	1	●小渡	小渡（ポ）
			1	1	1	2	5			2	1	2	●笹戸	笹戸
			1	1	2	8	23			3	1	2	●杉本　●太田	杉本
				2	1	8					2	2	●加塩　●榊野	榊野
			1	1	1	4	13			4	1	1	●槙本	槙本
				1	1	4					2	1	●伊熊	
			1	1	1	3	10			5	1	1	●浅谷	浅谷
				1	1	2					2	1		
		1	1	1	2	12	34	87	第10方面隊	1	1	1	●●稲武	稲武、稲武（ポ）
				1	1	6					2	1	●川手	川手
				1	1	8					3	1	●大野瀬	大野瀬
			1	1	3	28	33			2	1	3	●小田木　●黒田　●御所貝津	小田木、黒田、御所貝津
			1	1	2	15	19			3	1	2	●武節　●桑原	武節（ポ）、桑原
	1	0	0	1	2	12	15	15	広報指導部　部長＋（カラーガード隊7、ファイヤーガード隊7）					
		0	0	0	0	240	240	240	災害支援機能別（2方面隊27）（藤岡地区33）（小原地区15） （足助地区23）（下山地区45）（旭地区72）（稲武地区25）					
		0	0	0	0	33	33	33	学生機能別団員（中京大学27）（日本赤十字豊田看護大学1）（愛知工業大学5）					
1	4	10	43	123	227	1451	1844	1859	合計	43	117	173	１７０台	１２８台

●印は、シバウラ（８５台）　◎は、トーハツ（８５台）　※総務課管理分除く

出動基準

（隊）

出動種別		出動区分	ポンプ車	救助工作車	救急車	指揮隊車	はしご車	化学車	水槽車	資機材搬送車	支援車	ドローン
火災	小規模	1次	2			1						
		2次	1									
		3次										
	一般建物	1次	4	1	1	2			1			
		2次	2									
		3次	2									
	中高層建物	1次	4	1	1	2	1					
		2次	2				1		1			
		3次	2									
	指定建物	2次	5	1	1	2	1	1	1			
		3次	2									
	危険物	1次	3	1	1	2		1	1			
		2次	2					1	1			
		3次	2									
	中高層危険物	1次	3	1	1	2	1	1	1			
		2次	2				1	1				
		3次	2									
	トンネル	1次	3	1	1	2			1	1		
		2次	2									
		3次	2									
	地下	1次	3	1	1	2			1	1		
		2次	2									
		3次	2									
	地下中高層建物	1次	3	1	1	2	1		1	1		
		2次	2									
		3次	2									
	地下中高層危険物	1次	2	1	1	2	1	1	1	1		
		2次	2					1				
		3次	2									
	林野	1次	3			1			1			1
		2次	2			1						
		3次	2									
	車両	1次	2		1	1						
		2次	2									
		3次	2									
	鉄道	1次	2	1	2	2			1			
		2次	1	1	2					1		
		3次	2									
	航空機	1次	1	1	2	2		1	1			
		2次	1					1				
		3次	2									
	船舶	1次	2		1	1				1		
		2次	2			1						
		3次	2									
	その他	1次	2			1						
		2次	1						1			
	事後聞知	1次	1			1						

（隊）

出動種別		出動区分	ポンプ車	救助工作車	救急車	指揮隊車	はしご車	化学車	水槽車	資機材搬送車	支援車	ドローン
警戒	ガス	1次	1									
		2次		1		1						
		3次										
	危険物	1次	1									
		2次				1		1	1			
		3次										
	水位	1次	1									
		2次	1									
		3次										
	一般	1次	1									
		2次	1			1						
		3次										
探索	怪煙	1次	1									
		2次	1									
		3次										
	自火報	1次	1									
		2次										
		3次										
	一般	1次	1			1						
		2次										
		3次										
救助	一般	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
	水難	1次	2	1	1	2				1		1
		2次	2	1						1		
		3次	1									
	交通	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
	鉄道	1次	2	1	2	2						
		2次	1	1	2					1		
		3次	1									
	自然	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
	高所	1次	1	1	1	1	1					
		2次		1			1					
		3次	1									
	低所	1次	1	1	1	1						
		2次		1								
		3次	1									
	特殊	1次	3	1	1	2				1		
		2次	2	1								
		3次	1									
	山岳	1次	2	1	1	1						
		2次	1	1		1						
		3次	1									
救急	複数救急	1次	(1)	(1)	3	1						
		2次			1							
		3次			1							
	救急支援	1次	(1)	(1)	1							
	搬送支援	1次	(1)	(1)	1							
	多数傷病者救急	1次	2	1	4	2				1	1	
		2次	1	1	3							
		3次	1		2							

＊（1）はどちらか１隊

消防水利状況

令和６年４月１日現在

●消火栓　５，７４１基

管径別（㎜）	合　計	５，７４１
	７５未満	2
	７５～３００	５，１８４
	３００以上	５５５

消火栓地区別	合　計	５，７４１
	猿投地区	１，１４９
	挙母地区	１，６５７
	高橋地区	６５０
	松平地区	２７７
	上郷地区	４５２
	高岡地区	１，０５８
	藤岡地区	４９５
	下山地区	3

■防火水槽　１，９７５基

容量別	合　計	１，９７５
	40㎥以上	１，７１０
	40㎥未満	２６５

防火水槽地区別	合　計	１，９７５
	猿投地区	３０７
	挙母地区	２４６
	高橋地区	１６７
	松平地区	１３８
	上郷地区	８９
	高岡地区	２０３
	藤岡地区	１１９
	小原地区	１３６
	足助地区	２２１
	下山地区	８２
	旭地区	１４４
	稲武地区	１２３

◆指定水利　１５５か所

種類別	合　計	１５５
	プール	８６
	防火水槽	４０
	池	２１
	消火栓	4
	その他	3
	明治用水	1

月別気象状況

測定場所　　豊田市消防本部

区分＼月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	最高値	最低値
雨量㎜	月積算	33.0	35.5	91.5	117.0	196.0	381.5	68.0	222.0	80.0	119.5	63.5	40.0	381.5	33.0
	日最大積算	15.0	22.0	26.5	43.0	59.0	193.0	20.0	83.5	21.5	40.5	26.0	11.5	193.0	11.5
風速m／s	平均	3	3.4	2.6	3.3	2.8	2.2	2.1	2.7	1.9	2.5	2.6	2.4	3.4	1.9
	風向	北北西	北	北東	北	北東	北東	北東	南西	北東	北東	北東	北東	―	―
	最大瞬間	24.9	23.6	22.6	24.3	24.4	23.0	28.0	22.6	18.4	19.6	23.2	20.8	28.0	18.4
	最大瞬間風向	北	北北西	北	北北西	北	南南西	西北西	南南東	西北西	北	北西	北北西	―	―
気温℃	平均	5.0	6.7	12.5	15.8	19.8	23.3	28.3	28.8	26.8	18.1	13.4	8.1	28.8	5.0
	最高	17.4	19.0	26.3	28.9	34.6	34.2	38.8	38.0	36.2	29.0	27.2	22.3	38.8	17.4
	最低	-4.1	-3.3	0.2	4.0	9.3	13.6	20.9	23.5	18.3	7.4	2.9	-3.2	23.5	-4.1

※最高値及び最低値は、１０分間あたりの平均値（雨量・最大瞬間風速を除く。）

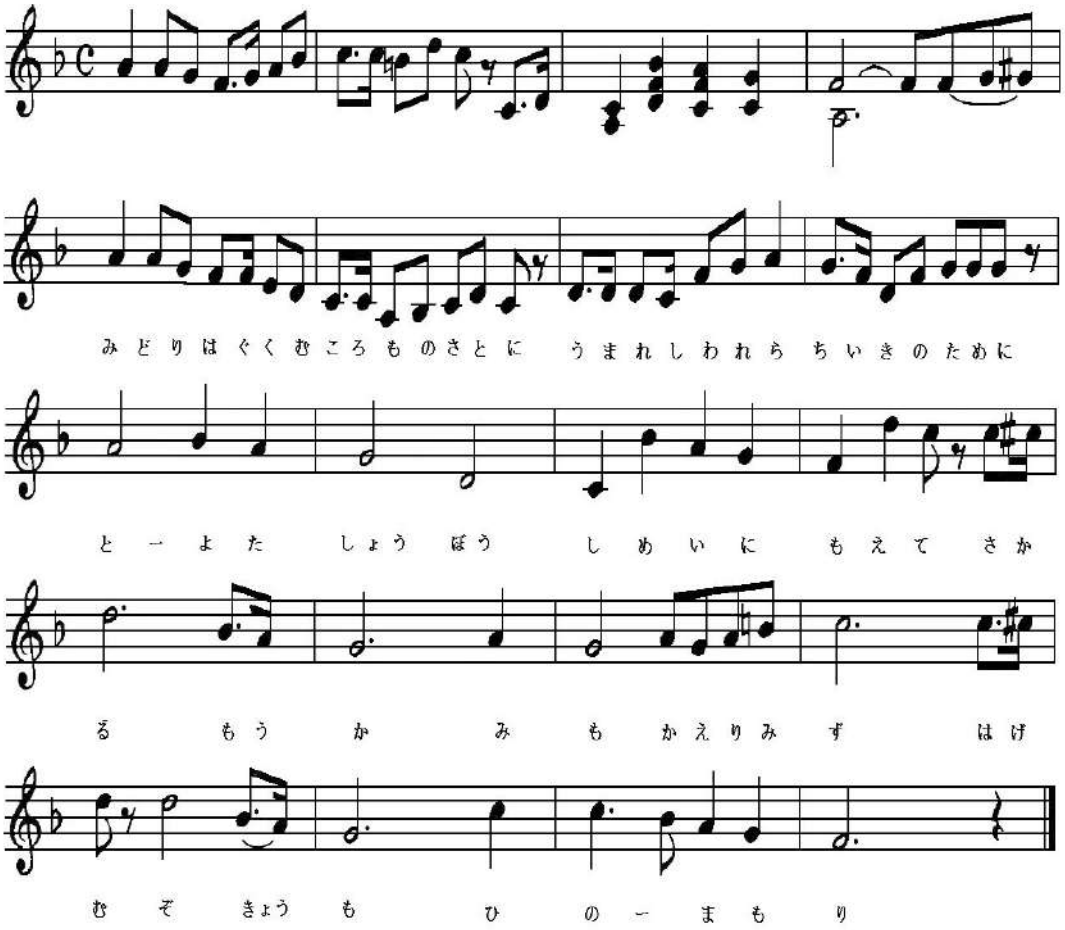
○年間降雨日数　　１０６日

○年間総雨量　　１４４７.５㎜

○時間最大降雨量　３６㎜　　６月２日観測

豊田消防歌

吉田　稔　作詞
片桐安夫　詩補作
作曲



豊田消防歌

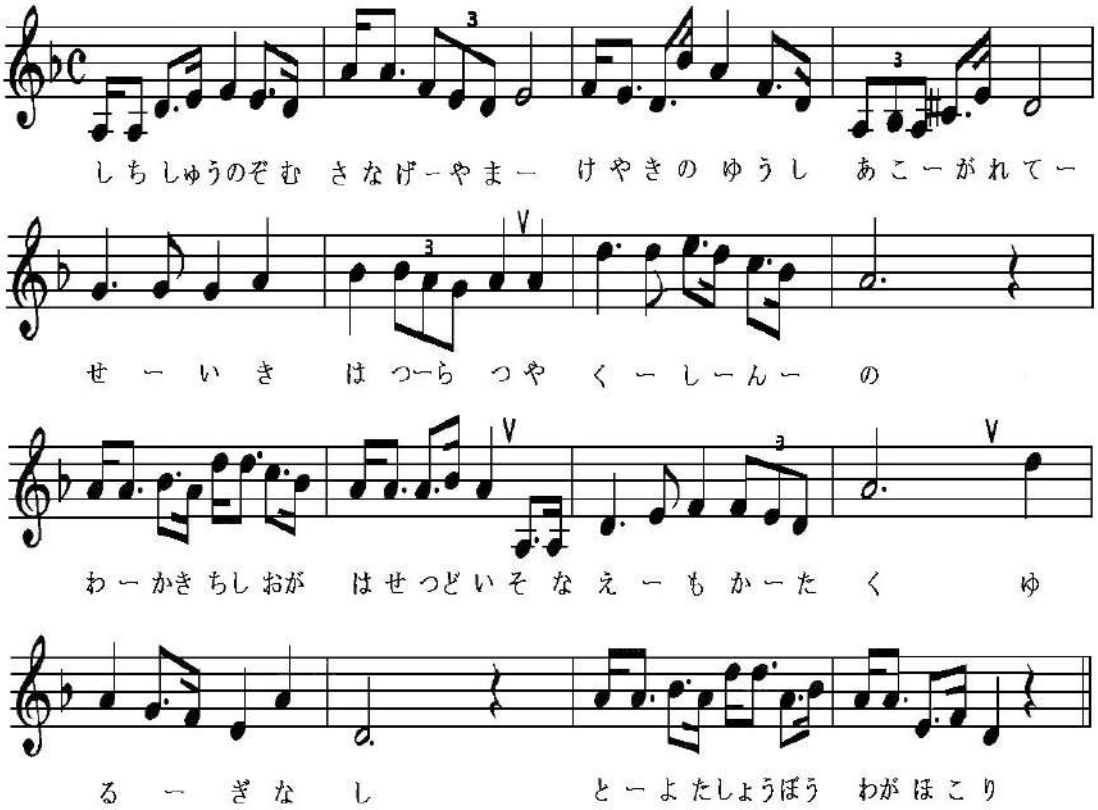
一
緑育くむ衣の里に
生まれしわれら地域のために
豊田消防使命に燃えて
さかる猛火身も省みず
励むぞ今日も火の守り

二
東に流れる矢作の川に
誓うわれら市民のために
豊田消防団結かたく
迫る激流身も省みず
進むぞ今日も水の守り

三
西にそびえる七州の城
祈るわれら社会のために
豊田消防力を磨き
寄せる危難身も省みず
築くぞ今日も民の守り

「賛歌」豊田消防

岡田幸雄作詞
片桐安夫作曲



「賛歌」 豊田消防

一

七州望む猿投山
けやきの雄姿あこがれて
清気はつらつ躍進の
若き血潮がはせ集い
備えもかたくゆるぎなし
豊田消防わがほこり

二

流れは清し矢作川
ひまわりの灯に火がともり
あふれる勇気りんりんの
男一匹腕自慢
命を救い火を防ぐ
豊田消防わがほこり

三

衣の里のこの台地
ゆかしき歴史伝統を
永久に承け継ぐ丈夫ぞ
謹しみ磨く消防技
郷土の平和守るもの
豊田消防わがほこり

と よ た の 消 防　（第６７号）

発行・編集　　豊田市消防本部総務課
〒４７１－０８７９
豊田市長興寺５丁目１７番地１
電　話：０５６５（３５）９７１７
ＦＡＸ：０５６５（３５）９７０９
メール：shoubou-soumu@city.toyota.aichi.jp

発行年月　　令和６年６月

全国統一防火標語（令和６年度）

守りたい

未来があるから

火の用心